

薬師社脇遺跡

YAKUSISYAWAKI SITE

— 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 —

2008. 1

宮城開発株式会社

盛岡市教育委員会

薬師社協遺跡発掘調査報告書訂正表

訂正前		訂正後
ページ	訂正箇所	
23	RA0117・0118	RA017・018
50	RD024 RD024	RD024 RD025
50	RA002 RD001 RG501	RD002 RD001 RG501
53	第41図 包含層断面図中「大根」	「木根」

薬師社脇遺跡

YAKUSISYAWAKI SITE

— 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 —

2008. 1

宮城開発株式会社

盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、盛岡市浅学字ニツ森4番3、4番6、4番7、5番1、5番1地内に所在する薬師社臨遺跡の発掘調査報告書である。

薬師社臨遺跡第6次発掘調査にかかる野外調査は平成19年1月9日から8月31日まで行われた。室内整理作業は平成19年9月3日から平成19年12月28日まで行った。平成20年1月4～31日にかけては報告書の校正及び出土遺物の修復・収納を行った。

2. 本調査は、宮城開発株式会社と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市教育委員会歴史文化課 遺跡の学び館が実施した。本調査にかかる費用は、事業主体者である宮城開発株式会社より支出された。
3. 本書は遺構および遺物の実測図などの資料呈示を意図して、編集は神原雄一郎が行った。
4. 遺構の平面位置は、平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

$$\begin{aligned} \text{調査座標原点 (旧測地系)} \quad X - 32,000,000 &= R X \pm 0.000 \\ Y + 30,000,000 &= R Y \pm 0.000 \end{aligned}$$

5. 高さは標高値をそのまま使用している。
6. 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(1994小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業開発発行)を参考にした。
7. 遺構記号は次のとおりである。なお、縄文時代の遺構番号は001～、平安時代の遺構番号は501～、中世の遺構番号は1001～としている。

	遺 構	記号	遺 構	記号	遺 構	記号	番 号
記号	竪穴住居跡	RA	土 坑	RD	配石・集石	R II	縄文 001～
	建 物 跡	RB	竪 穴	RE	井 戸 跡	R I	古代 (竪穴住居跡) 501～
	柱 列 跡	RC	溝 跡	RG	遺物集中区	R P	古代 (土 坑) 501～
							中世 1001～

8. 調査体制 — 平成19年度 — ※調査担当

教育長	八巻恒雄
教育部長	宇大方正人
教育次長	菅原康一
歴史文化課長兼遺跡の学び館館長	武石幸久
歴史文化課長補佐	武藤英宮 (文化財史跡担当)、佐藤和男 (遺跡の学び館担当)
副主幹	千田和文
文化財主査	室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘
文化財主任	三浦陽一、※神原雄一郎、権頭裕子
文化財主事	今野公顕、花井正香、佐々木充二
文化財調査員	※鈴木賢治、浅沼のぞみ

調査の実施及び整理にあたり下記の方々より多大な御援助と御協力を賜った。御芳名記して深く謝意を表する（五十音順、敬称略）。

〈発掘調査・室内整理作業〉

伊藤敬子、遠藤ユキエ、上野昌子、及川京子、大鹿ミヨ子、高雄和男、川村久美子、小林勢了、小松愛子、齊藤三郎、佐藤和子、佐藤美智子、千葉留里子、野中壽、日野杉節子、福田香乃、藤原絹子、細田幸美、村山伊津子、百岡峰子

〈御指導・御助言〉

井上雅孝（滝沢村教育委員会）、岡本東三（千葉大学）、小保内裕之（八戸市教育委員会）、鎌田勉（岩手県立博物館）、北村忠昭（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、日下和寿（白石市教育委員会）、佐々木壽（岩手県立博物館）、高木晃（岩手県立博物館）、武田良夫（日本考古学協会）、富永勝也（北海道埋蔵文化財センター）、屋雅之（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、村田大（北海道埋蔵文化財センター）、額塚正浩（市川考古博物館）

〈発掘調査に係る業務委託〉

株式会社バスコ（全景写真・地形測量・遺構図作成）、株式会社ラング（石器実測に係る素図作成）、株式会社タックエンジニアリング（平安時代土器の実測・トレース）

9. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

目 次

例	言
目	次
図	版 目 次
挿	図 目 次
表	目 次
付	図

1. 薬師社脇遺跡第6次発掘調査	
1. 調査経過	1
2. 薬師社脇遺跡周辺の地形・地質	3
3. 縄文時代の遺構と遺物	3
(1) 縄文時代の竪穴住居跡	4
(2) 縄文時代の土坑・配石遺構	41
(3) 縄文時代の遺物包含層	53-56
4. 平安時代以降の遺構と遺物	69
(1) 平安時代の竪穴住居跡・土坑・溝跡	70-80
(2) 中世の欄立柱建物跡・竪穴建物跡・土坑	82
5. まとめ	93-97
(附巻) 西黒石野遺跡第11次発掘調査の概要	98-112

図 版 目 次

第1図版 薬師社脇遺跡遠景	第2図版 薬師社脇遺跡第6次調査区全景
第3図版 R A 001竪穴住居跡全景	第4図版 R A 001竪穴住居跡埋土堆積状況
第5図版 R A 001竪穴住居跡遺物出土状況	第6図版 R A 006竪穴住居跡全景
第7図版 R A 007竪穴住居跡全景	第8図版 R A 007竪穴住居跡埋土堆積状況
第9図版 R A 009竪穴住居跡全景	第10図版 R A 009竪穴住居跡埋土堆積状況
第11図版 R A 009竪穴住居跡遺物出土状況	第12図版 R A 010竪穴住居跡全景
第13図版 R A 013竪穴住居跡全景	第14図版 R A 013竪穴住居跡埋土堆積状況
第15図版 R A 501竪穴住居跡全景	第16図版 R A 501竪穴住居跡遺物出土状況 (1)
第17図版 R A 501竪穴住居跡遺物出土状況 (2)	第18図版 R E 1007竪穴建物跡全景
第19図版 R E 1007竪穴建物跡床面炭化材	第20図版 R E 1007竪穴建物跡埋土堆積状況

挿 図 目 次

第1図	栗師社墓遺跡、西黒石野遺跡の位置(1:50,000).....	1
第2図	縄文時代の遺構配置図.....	2
第3図	RA001・002竪穴住居跡.....	14
第4図	RA003竪穴住居跡.....	15
第5図	RA004・005竪穴住居跡.....	16
第6図	RA006・007竪穴住居跡.....	17
第7図	RA008・009竪穴住居跡.....	18
第8図	RA010・011竪穴住居跡.....	19
第9図	RA012・014竪穴住居跡.....	20
第10図	RA013竪穴住居跡.....	21
第11図	RA015・016竪穴住居跡.....	22
第12図	RA017・018竪穴住居跡.....	23
第13図	RA019・020竪穴住居跡.....	24
第14図	RH001配石遺構.....	25
第15図	RA001竪穴住居跡出土遺物(1).....	26
第16図	RA001竪穴住居跡出土遺物(2).....	27
第17図	RA001竪穴住居跡出土遺物(3).....	28
第18図	RA002・003竪穴住居跡出土遺物.....	29
第19図	RA004・005・006竪穴住居跡出土遺物.....	30
第20図	RA007・008竪穴住居跡出土遺物.....	31
第21図	RA009竪穴住居跡出土遺物(1).....	32
第22図	RA009竪穴住居跡出土遺物(2).....	33
第23図	RA009竪穴住居跡出土遺物(3).....	34
第24図	RA009竪穴住居跡出土遺物(4).....	35
第25図	RA010・011竪穴住居跡出土遺物.....	36
第26図	RA013竪穴住居跡出土遺物.....	37
第27図	RA014・015竪穴住居跡出土遺物.....	38
第28図	RA017竪穴住居跡出土遺物(1).....	39
第29図	RA017(2)・018・019・020竪穴住居跡出土遺物.....	40
第30図	RD001~011土坑.....	43
第31図	RD012~021土坑.....	44
第32図	RD022~034土坑.....	45
第33図	RD035~048土坑.....	46
第34図	RD049~057土坑.....	47
第35図	RD058~064土坑.....	48

第36図	R D065～069土坑	49
第37図	R D001～028土坑断面	50
第38図	R D029～063土坑断面	51
第39図	R D064～069土坑断面	52
第40図	R D001・011・050・054・061・062土坑出土遺物	52
第41図	遺物包含層土層断面	53
第42～53図	遺物包含層出土遺物(1)～(12)	57～68
第54図	平安時代以降の遺構配置図	69
第55図	R A501竪穴住居跡	72
第56図	R A502竪穴住居跡	73
第57図	R A503竪穴住居跡	74
第58図	R A504竪穴住居跡	75
第59図	R A505竪穴住居跡	76
第60図	R A501竪穴住居跡出土遺物(1)	77
第61図	R A501竪穴住居跡出土遺物(2)	78
第62図	R A502・503・504竪穴住居跡出土遺物	79
第63図	R D501・502・503土坑、R G501漆跡土層断面	81
第64図	R G501漆跡出土遺物	81
第65図	R B1001・1002掘立柱建物跡	86
第66図	R E1001・1002竪穴建物跡	87
第67図	R E1003・1004竪穴建物跡	88
第68図	R E1005竪穴跡・1006竪穴建物跡	89
第69図	R E1007竪穴建物跡	90
第70図	R D1001～1004土坑	91
第71図	R E1005竪穴跡、R D1001土坑出土遺物	91
第72図	R D502・1002・1004土坑、遺構外出土遺物	92
第73図	文様帯区分模式図	94
第74図	栗師社脇Ⅱ群土器	95
第75図	栗師社脇Ⅲ群土器	96
第76図	西黒石野遺跡第11次発掘調査全体図	98
第77～88図	遺物包含層出土遺物(1)～(12)	100～111

表 目 次

第1表	縄文時代土坑計測表	42
-----	-----------	----

付 図

付図1	栗師社脇遺跡調査全体図	1:100, 1:1,000
-----	-------------	----------------

《遺物の表現について》

1. 土器

- 土器の区分は、縄文土器・続縄文土器・土師器・須恵器・あかやき土器にわけた。
- 縄文時代早期～前期・続縄文時代の土器は1/2スケールとしたが、大形の土器については1/3スケールとした。
- 挿図の土器配列については、器種・文様でまとめた。
- 縄文時代の土器で沈線・貝殻文の表現は上端・下端の実線・破線で表し、陰影は表現していない。

2. 石器

- 剥片石器の実測図は1/2とした。
- 石器の展開順序は、基本的には左に表面（本文では背面とする）、中央に右側縁、右に裏面（本文中では腹面とする－主要薄利面）を並べ、必要に応じて側縁および縦断面下に横断面を付け加えた。
- 剥片石器の摩滅痕は網目スクリーントーンで示し、礫石器の自然面はドットで示した。

☆挿図中の記号・番号は、出土遺物の出土地点および層位を表す。

(例) I 4 - A1, A1

↓ ↓ ↓
※1 ※2 ※3

※1 調査班標原点RX±0 RY±0を起点として、X・Y両軸を50m毎に区切る大グリットを設定し、X軸線上を西から東へA・B・C…W・X・Y、Y軸線上を北から南へ1・2・3…23・24・25と付し、北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組合せを、大グリットと呼称した。

※2 大グリットを2m毎に細分割し、小グリットを設定し大グリットの呼称を再び用いた。よって、大グリット-小グリットという組合せで、遺物の平面出土地点を2mごとに表示した。

(例) I 4 - A 1 はRX - 150 RY - 100を北西隅とする2mグリットからの出土を示す。

※3 遺物の出土層位を表す。

I. 薬師社脇遺跡第6次発掘調査

1. 調査経過

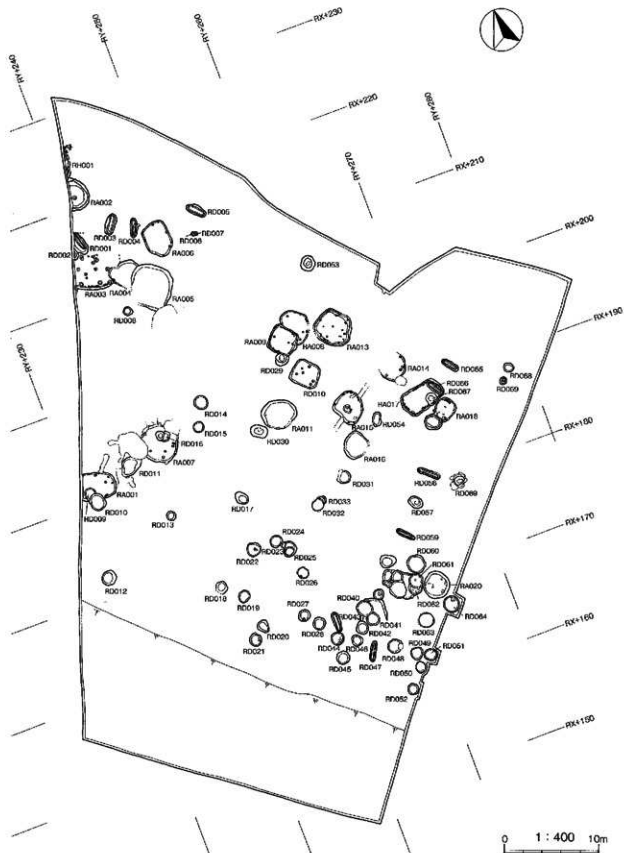
遺跡の位置 薬師社脇遺跡は、盛岡市浅岸字ニツ森地内に所在し、今回の調査箇所は浅岸字ニツ森4番3、4番6、4番7、5番1、5番1地内に所在する。

過去の調査 薬師社脇遺跡は昭和39年に実施された盛岡市内遺跡分布調査の際確認された遺跡である。その後、浅岸地区において大規模な区間整理事業や宅地造成が相次ぎ、薬師社脇遺跡においても平成11年度以降6回にわたる宅地造成に伴う発掘調査が実施されている。

回数	調査年月日	面積 (㎡)	備考
1	平成11年11月26日～11月30日	—	仮調査 (対象面積0.533㎡)
2	平成11年12月2日～12月27日	768	縄文時代前期土器4種・土坑1基・遺物包含層(早期・前期)、平安時代土器1種
3	平成12年5月8日～6月12日	821	縄文時代前期土器遺構・土坑遺物包含層(早期・前期)、平安時代土器4種、中世土器1種、砂浜不明土坑2基
4	平成12年11月7日～11月24日	—	表土掘削作業 (5,430㎡)
5	平成13年6月25日～12月21日	5,430	縄文時代前期土器6種・土坑遺物包含層1基・土坑4基・遺物包含層(早期・前期)、平安時代土器4基、平安時代土器17種、中世土器1種、土坑4基
6	平成19年4月9日～8月31日	2,756	縄文時代前期土器20種・縄文時代土器209基・遺物包含層(早期、平安時代)土器5種・土坑3基・遺構1基、中世土器1種、土坑2基、土坑遺物7基・土坑4基



第1図 薬師社脇遺跡・西黒石野遺跡の位置 (1:50,000)



第2図 縄文時代の遺構配置図

2. 薬師社跡遺跡周辺の地形・地質

地形・地質 盛岡市東部は地質構造上、北上山地の主要な境界となる早池峰構造体の北西部にあたる。この山地は、高森山(626m)を中心とする高森山山地と、朝島山(607m)を中心とする朝島山山地の中起伏山地、さらに西に続く大日向山山地、岩山(341m)や大森山(381m)を含む建石川川地などの小起伏山地および四十四田丘陵で構成される。

薬師社跡遺跡が所在する浅岸宇二ツ森地区は、高森山山地南縁に位置する薬師山(241.3m)南麓に位置し、地表下約4mで粘板岩を主とする岩盤に至る。岩盤上位には黄褐色シルト・砂・円礫による互層が乗り、この河川由来の堆積層上に砂質の暗褐色土(Ⅲ層)・黒褐色土(Ⅱ層)・表土及び礫が混入する黒褐色土(Ⅰ層)と層がづく。

なお、盛岡市全域で観察される秋田駒ヶ岳・岩手山・十和田湖起源の火山灰は平安時代の十和田a火山灰以外は確認されなかった。

3. 縄文時代の遺構と遺物

薬師社跡遺跡第6次調査で確認された縄文時代の遺構は、縄文時代早期の竪穴住居跡20棟、縄文時代の土坑69基、縄文時代後期?の配石遺構1基、縄文時代早期を主体とした遺物包含層が確認された。

竪穴住居跡や包含層から出土した土器の多くは、関東地方に分布する「田戸下層式」に類似するものであった。また、青森県を中心に分布する「白浜・小船渡平式」・「寺の沢式」などの土器も出土するなど南北文化の接点を知る上で重要な成果が得られた。

検出状況 薬師社跡遺跡の基本層序は、小角礫を多量に含む黒褐色土(Ⅰa・b・c層)、礫を含まない砂質黒褐色土(Ⅱa・b層)、礫を含まない砂質暗褐色シルト層(Ⅲa・b層)、褐色シルト層(Ⅳ層)、砂層(Ⅴ層)の5層に大別され、遺構検出は、調査区全面で確認されたⅡa層・Ⅲb層・Ⅲa・b層、Ⅳa層上面で行われた(第41図)。

縄文時代早期の竪穴住居跡(Ⅰa009)の上層にはⅢa・b層に相当する堆積土がみられることから、早期遺構の掘込はⅢb層下層～Ⅳ層上面付近と考えられる。

遺物はⅢ層から出土した早期土器群が目立ち、特にⅢb層からは早期中葉の田戸下層式に類似する土器が多量に発見された。Ⅱa層上面では配石遺構と若干の後期土器が検出され、Ⅱb層下位からは早期後葉から前期前葉の土器が出土したことから、概ねⅠ層—現代—古代、Ⅱa層—古代—縄文時代後期、Ⅱb層—縄文時代後期—早期末葉、Ⅲa層—縄文時代早期末葉—中葉、Ⅲb層—縄文時代早期中葉の層に相当しよう。

Ⅴ層は砂層であるが、地点により下層の河床礫が露出する。縄文時代～中世遺構の多くは礫の少ない砂・シルト質の層が厚い地点に構築するため、各時代を通し同様の箇所に遺構が集中する傾向がある。土坑については比較的調査区全面に構築されるが、礫層に達した時点で掘削が中止されるようであった。

(1) 縄文時代の竪穴住居跡 (第3図～第13図)

RA001竪穴住居跡 (第3図)

位置	C3区	平面形	不整形長方形
規模	長軸上端3.58m以上・下端3.43m以上、短軸上端2.86m・下端2.46m、深さ0.34m		
重複関係	RD010土坑に切られる 掘込面 削平 検出面 IV層上面		
埋土	自然堆積による。B層は3層に細別される。 A層- A ₁ 層は黒褐色土が混じる暗褐色砂質シルト層 B層- B ₁ ～ ₃ 層は暗褐色砂質シルト層を主体とする層で、B ₁ 層は炭化物を、B ₂ 層は多量の砂と微量の炭化物・粒状褐色シルトを含む。B ₃ 層は河川に由来すると思われる砂を多量に含む。		

壁の状態 壁は直立ぎみに外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 B₁～₂層を中心に、縄文時代早期中葉(巨群)の土器が出土している。

出土遺物(第15図1～第17図21) 1は深鉢の口縁～体部下半にかけての部位で、胎土には微量の磁鉄鉱・石英・繊維を含む。口唇部は外削状を呈し、貝殻腹縁文による刻目が施され、口唇下に斜位の爪形状刺突列を横位3条施す。体部上半は横位のミガキ、下半は縦位のミガキが施される。2は体部上半が緩やかに加曲する深鉢である。胎土には磁鉄鉱・繊維が微量含まれる。口唇には貝殻腹縁文による刻目が、口唇下には縦位の貝殻腹縁文が横位多段に施される。内面は口縁付近が横位、下位は縦位のミガキが施される。3は波状口縁を持ち、口唇部が外削状となる深鉢である。胎土には石英・磁鉄鉱と微量の海綿骨針が含まれる。口唇には貝殻腹縁文が施され、口縁に沿うように貝殻による米粒状の刺突文が施される。波頂下には沈線による斜格子目文、頸部に貝殻による米粒状の刺突文が横位2条施され、同様の文様帯は貝殻腹縁文が充填される文様帯を挟み下位にも施される。体部下半には地文を縦位の条痕に、沈線によるクラク状の文様が描かれる。4は爪形状刺突文を施す深鉢口縁部で、内外面はミガキによって器面調整される。5～7は貝殻腹縁文が施される体部片である。8は口唇部が外削状となる深鉢で、胎土には磁鉄鉱・石英と微量の繊維が含まれる。口唇には貝殻腹縁文が施され、口唇下には爪形状刺突列が横位2条施される。体部には斜位の貝殻腹縁文が横位多段に施される。9は口唇部が外削状となる深鉢で、胎土には磁鉄鉱・石英と微量の繊維が含まれる。口唇には単軸絡条体側面圧痕?が施され、口唇下には爪形状刺突列が横位2条施される。体部には縦位の貝殻腹縁文が横位多段に施される。10は口唇部が角状となる深鉢口縁部片である。胎土には石英・磁鉄鉱が少量含まれる。口唇には単軸絡条体側面圧痕?が施され、口唇下には縦位の平行沈線と横位の平行沈線を組み合わせた文様が施される。11・12は同一個体で、横位の貝殻腹縁文を区間帯とし、区間内に斜位の貝殻腹縁文が充填されるものである。13～17は深鉢の体部下半から底部にかけての部位である。

18・21は頁岩製の刀筥である。18は、素材段階の剥離面を残し、背面基部・左側縁、腹面基部・左側縁に調整剥離を施して整形したものと考えられる。刃部は、腹面の剥離を切ることから数回の刃部再生が行われているようである。19・20は頁岩製の削器で、19は背面左側縁に連続剥離が施され、右側縁に刃こぼれのような微細剥離が見られる。

R A 002 竪穴住居跡 (第3図)

位置 C 2区 平面形 不整長円形 規模 長軸上端3.45m以上・下端2.12m以上、短軸上端2.00m以上・下端1.90m以上、深さ0.96m 重複関係 なし 掘込面 III a層上面
検出面 III a層上面

埋土 自然堆積による。住居内にはI・II層の落込みが観察され、埋土A層は2層に細別される。

A層- A₁層は黒褐色土が多量に混じる暗褐色砂質シルト層で、A₂層はかたくしめる黒褐色土である。各層には少量の微細な炭化物が含まれる。

壁の状態 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。床面の状態 ほほ平坦

遺物の出土状況 埋土より土器小破片(早期中葉~前期初葉)が出土したのみであった。

出土遺物(第18図1~4) 1は内外面に縦位の貝殻腹縁文が施される深鉢口縁部である。胎土には石英・雲母が含まれる。2は横位の貝殻腹縁文が施される深鉢体部片である。3は口縁部に不整熱糸文が施される深鉢口縁部片である。4は浅い沈線による斜格子口文が施される。

R A 003 竪穴住居跡 (第4図)

位置 C 2区 平面形 不整長円形?
規模 長軸上端4.75m以上・下端3.40m以上、深さ0.18m
重複関係 R D 001・002土坑に切られる 掘込面 削平 検出面 IV層上面
埋土 自然堆積による。A~E層に大別され、C~E層はビット埋土である。A層は2層に細別される。

A層- A₁層は黒褐色土が混じる暗褐色土、A₂層は砂粒を多く含む暗褐色土。

B層- B₁層は暗褐色砂質シルト層を主体とする層で、炭化物・粒状の褐色シルトを含む。

壁の状態 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。床面の状態 ほほ平坦

遺物の出土状況 床面直上より縄文時代早期中葉(IV群)の土器片が出土している。

出土遺物(第18図5~21) 5・6・9・10・11は同一個体で、口縁部~体部上半に縦位の貝殻腹縁文が横位多段に施される深鉢である。胎土には石英・磁鉄鉱・繊維が含まれる。口唇には貝殻腹縁による刻目が施され、体部下半から底部にかけて浅い条痕が施される。7は口唇に刻目のある深鉢口縁部で、胎土には石英・繊維が含まれる。口唇下には刺突列が施され、内面には斜位の断面が鋭い条痕が施される。8・15は7の体部下半の部位と思われる、斜位・横位の条痕が施される。12~14は貝殻腹縁文が施される深鉢体部片である。16~19は雲母を多量に含む浅い条痕を施す深鉢で、5~15の土器群より新しい土器と思われる。20は頁岩製の礫皮面を残す搔器で、21は扁平な円礫に挟りを入れた石錐である。

R A 004 竪穴住居跡 (第5図)

位置 C 2区 平面形 不整長円形?
規模 長軸上端4.75m以上・下端3.40m以上、深さ0.23m
重複関係 R A 005 竪穴住居跡を切る 掘込面 削平 検出面 IV層上面
埋土 自然堆積による。A・B層に大別され、B層は4層に細別される。
A層- A₁層は砂質暗褐色シルト
B層- B₁層は暗褐色砂質シルトを主体とする層で、炭化物・粒状の褐色シルトを含む。

B₂層・B₃層は暗褐色砂質シルトを主体とし、層の下位ほど塊状の褐色シルトを多く含むようになる。B₁層は粘質の褐色シルトと砂粒を多く含む。

壁の状態 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 A・B層より縄文時代早期中葉の上器片が出土している。

出土遺物（第19図1～3） 1～3は糸痕が施される深鉢体部片である。

R A005 竪穴住居跡（第5図）

位置 C2区 平面形 不整形？

規模 長軸上端4.48m・下端4.44m、短軸上端3.86m・下端3.42m、深さ0.29m

重複関係 R A004 竪穴住居に切られる 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A・B層に大別され、B層は2層に細別される。

A層- A₁層は砂質暗褐色シルト、微細な炭化物を多く含む。

B層- B₁層は暗褐色砂質シルト層を主体とする層で、B₂層は砂質褐色シルトを主体とする層。

壁の状態 壁は直立ぎみに外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 A層より縄文時代早期中葉の上器片が出土している。

出土遺物（第19図4～13） 4～9は糸痕が施される深鉢体部片、10は浅い沈線と斜格子目状に施した深鉢体部片である。11は頁岩製の石槍または石鏃の未成品である。12は頁岩製の石笄刃部で、腹面に一次剥離面を残す。13は頁岩製で、両面に整形剥離が加えられた製品素材と考えられる。

R A006 竪穴住居跡（第6図）

位置 C2区 平面形 不整形長方形

規模 長軸上端3.76m・下端3.45m、短軸上端2.71m・下端2.47m、深さ0.16m

重複関係 なし 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A層は3層に細別される。

A層- A₁層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、下位の層ほど褐色シルト・砂粒の混入量が増加する。また、床面付近では微細な炭化物が集中する。

壁の状態 壁は直立ぎみに外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 A₁層より縄文時代早期中葉（Ⅱ群）の土器が出土している。

出土遺物（第19図14～19） 14は口縁部に縦位の爪形状刺突列を2条施す小形深鉢である。胎土には石英・繊維が含まれる。地文は横位・斜位の糸痕で、横位の糸痕は口縁部のみである。15は口縁部に横位の貝殻腹縁文を施す深鉢である。胎土には石英・軟質の砂が含まれる。地文は横位の糸痕である。16・17は同一個体で、口唇部は外削状となる。口唇には貝殻腹縁文が施され、口唇下には貝殻腹縁文を縦横に押捺した格子目文が施される。18・19は深鉢体部下半の部位で18は斜位のケズリ、19には横位の糸痕が施される。

R A007竪穴住居跡 (第6図)

- 位置 C3区 平面形 不整形
規模 長軸上端3.94m・下端3.53m、短軸上端3.40m以上・F端3.20m以上、深さ0.22m
重複関係 RD016上坑を切る 検出面 IV層上面
埋土 自然堆積による。A・B層に大別され、B層は4層に細別される。
A層- A₁層は砂質暗褐色シルトを主体とする層。
B層- 暗褐色シルトを主体とする層。B_{1・2}層は砂質でB_{3・4}層は褐色シルトを含む。
壁の状態 壁は直立ぎみに外傾して立ち上がる。床面の状態 ほぼ平坦
遺物の出土状況 A₁層より縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の土器が出土している。
出土遺物(第20図1~12) 1は貝殻腹縁文と横位平行沈線が施される深鉢体部片である。2は深鉢体部下半の部位で無文である。3は縦位のミガキが施される深鉢体部下半の部位である。4は縦位の条痕が施される深鉢体部片である。5は深鉢の底部で、上部には斜位の平行沈線が施される。また、尖底部より1cm程上から6cm程の面がカーボンの付着により黒く変色する(スクリーントーン箇所)。6・7は横位の条痕が施される深鉢体部片である。
8・10・11は頁岩製の石筥で、10以外は打榫が除去される。9は頁岩製の削器で、刃部は尖頭状となる。12は粘板岩製の磨製石斧で、基部・側面に整形段階の剥離痕が見られる。刃部は打撃によって再生されており、刃部先端に僅かな磨耗痕が見える。

R A008竪穴住居跡 (第7図)

- 位置 D2・3区 平面形 不整形
規模 長軸上端3.69m・下端3.51m、短軸上端2.45m以上・下端2.36m以上、深さ0.22m
重複関係 RA009竪穴住居跡に切られる 検出面 IV層上面
埋土 自然堆積による。A・B層に大別され、B層は2層に細別される。
A層- A₁層は砂質暗褐色シルトを主体とする層。
B層- 暗褐色シルトを主体とする層で、B₂層は壁面に露出した縦層が崩落した層と思われる、砂礫層の小角礫を含む。
壁の状態 壁は緩やかに外傾する。床面の状態 ほぼ平坦
遺物の出土状況 A₁層より縄文時代早期中葉の土器が出土している。
出土遺物(第20図13・14) 13・14は同一個体で深鉢底部付近の部位と考えられる。

R A009竪穴住居跡 (第7図)

- 位置 D2・3区 平面形 隅丸方形
規模 長軸上端2.97m・下端2.71m、短軸上端2.50m・下端2.42m、深さ0.56m
重複関係 RA008竪穴住居跡を切る 検出面 IV層上面
埋土 自然堆積による。A・B・C層に大別され、A層は2層、C層は4層に細別される。
A層- A₁層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含む層。全体的にやや粘性を帯び、A₂層では黒褐色土の混入量が少なくなる。
B層- 暗褐色土を主体とする層で、少量のスコリア粒を含む。

C層— C₁層は砂質暗褐色シルトと褐色シルトによる混合土を主体とし、多量の遺物と微細炭化物を含む。C₂層は炭化物がC₁層より減少し、C₃・C₄層は崖の崩落土である。

壁の状態 壁は直立ぎみに外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 C₁層を中心に縄文時代早期中葉（Ⅱ群）の土器が多量に出土している。

出土遺物(第21図1～第24図32) 1は胴長の砲弾状を呈した深鉢である。胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。口唇部は外削状を呈し、口唇には縦位の貝殻腹縁文が施される。口唇下には縦位の沈線が密に施され、その線上に斜位の沈線が施される（Ⅰ文様帯）。Ⅰ文様帯下には横位に沈線が密に施され、その線上に沈線によるγ状の文様が描かれる（Ⅱ文様帯）。Ⅱ文様帯下位は幅の広い条痕が斜位に施される。2は緩やかなカーブを描く砲弾状の器形を呈した深鉢である。口唇下の文様帯（Ⅰ文様帯）には斜位の沈線と連続する弧状刺突、貝殻腹縁文を組み合わせた幾何学文が施される。Ⅰ文様帯の下位には多重横位平行沈線（Ⅱ文様帯）を区切りに円形刺突を基点とした帯状の文様帯が展開される（Ⅲ文様帯）。Ⅲ文様帯は大きい円形刺突を等間隔に施し、円形刺突間は斜位の沈線により区画される。沈線で区画されたキャンパスには円形刺突の径に連続するように弧状刺突と貝殻腹縁文が施される。Ⅲ文様帯の下位は多重横位平行沈線（Ⅳ文様帯）によって体部下半と区切られる。3は人形の深鉢である。胎土には石英・繊維・海綿骨針を含む。口唇の形状は外削状となり縦位の貝殻腹縁文が施される。口縁部から体部上半の文様帯は大きい円形刺突を基点とした縦位の文様帯によって大きく区画される。縦位文様帯は、円形刺突の径から沈線を垂下させ、下方で対となる円形刺突に連結することにより縦位の区画帯が形成される。縦位の文様帯内部には斜位の沈線が施され、沈線間に貝殻腹縁文を充填させるものである。同様の文様は第22図2と同様で大きな違いは文様帯の方向だけである。縦位文様帯によって区画された横位文様帯は多重横位平行沈線（Ⅰ・Ⅲ文様帯）によってさらに区画される。Ⅱ文様帯は沈線による弧状文を施す区画帯と無文帯を交互に配置するものである。体部下半は斜位の条痕が施されるが、大部分が熱を受け砕片化しているため復元ができなかった。4は体部下半と底部の間に屈曲を持つ小形深鉢である。胎土には微細な石英・長石を含む。口唇部は内削状を呈し、口唇より縦位の短沈線が施され（Ⅰ文様帯）、下位に横位の格子目文による文様帯が施される（Ⅱ文様帯）。Ⅱ文様帯下位は縦位の平行沈線が等間隔で施され（Ⅲ文様帯）、区画されたキャンパスに斜行沈線・円形刺突・貝殻腹縁文の組み合わせによる文様や斜行・横位平行沈線のみ文様など展開を異にする文様が描かれる。Ⅲ文様帯下位は格子目文が施され（Ⅳ文様帯）、底部付近の屈曲部には円形刺突と短沈線が施される。5は横位平行沈線が施される深鉢体部片である。6～11は貝殻腹縁文が施される深鉢で、6は斜位、7は縦位の貝殻腹縁文が施される。9は浅い沈線でクランク状の文様が描かれ、内部の線には爪形状刺突が巡らされ、さらに斜位の貝殻腹縁文が充填される。12は横位の爪形状刺突が施される深鉢体部片である。13は口唇部が外削状を呈する小形の深鉢である。胎土には石英・磁鉄鉱を含む。文様帯はⅠ～Ⅴ文様帯に分けられ、主要な文様はⅡ・Ⅳ・Ⅵの横位平行沈線によって区画される。主要文様帯となるⅢ・Ⅴ文様帯は沈線を三角形の区画内に充填させるもので、文様の端部には爪形状刺突が押捺される。14は沈線による幾何学文様内に貝殻腹縁文・平行沈線を充填させたものである。15は羽状に貝殻腹縁文を、16は斜位に施したものである。17は縄文または貝殻腹縁文を地文に横位平行沈線を施したものである。18は貝殻腹縁押引文を口唇下に施すものである。地文の条痕は同じ原体によるものと考えられる。19・27は同一個体で、横位の条痕が施される。20～23は深鉢体部下半の部位で、縦方向のミガキ調整痕が見られる。24は爪形状刺突が施される深鉢体部片で、胎土には石英・磁鉄鉱・雲母が含まれる。25は爪形状刺突が施される深鉢口縁部片である。26は斜位の条痕が施される深鉢口縁部片である。

28は両側縁、下端に刃部調整が施される削器である。29は両面に押圧剥離が施される石槍または削器で、上部は欠損する。30は刃部、背面右側縁に剥離が施された石槍である。31は石鏃で、先端部が消耗する。32は削器または石鏃の未完成品で全体に押圧剥離が施される。

R A010 竪穴住居跡 (第8図)

位置 D3区 平面形 隅丸方形

規模 長軸上端2.98m・下端2.62m、短軸上端2.54m・下端2.38m、深さ0.16m

重複関係 なし 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A・B・C層に大別され、C層はピット埋土である。

A層 - A₁層は砂質暗褐色土を主体とし、粒～塊状の淡い黒褐色土を含む層。

B層 - 砂質暗褐色シルトを主体とする層で、ややかたくしまる。

C層 - C₁層は砂質暗褐色シルトと褐色シルトによる混合土。C₂層は褐色シルトを主体とする層。

壁の状態 壁は緩やかに外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 A₁層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の土器が出土している。

出土遺物(第25図1～13) 1・2は小形深鉢口縁部片である。3は無文の深鉢体部片である。4は爪形状刺突が施される深鉢口縁部である。上段は縦位、下段は横位に施文される。5は爪形状刺突が多段に施される深鉢口縁部で、胎土には石英・雲母が含まれる。6は縦位の只殺腹縁文が施される深鉢口縁部で、胎土には石英が含まれる。7は沈線による幾何学文が施される深鉢体部片で、胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。8は横位の条痕が施される深鉢体部片で、胎土には軟質の砂・石英が含まれる。9は破片上部に沈線文、下部に条痕が施される深鉢体部片で、胎土には石英・長石・磁鉄鉱が含まれる。10は無文の深鉢体部下半の部位で、胎土には石英・軟質の砂・長石が含まれる。11は無文の深鉢体部片で、胎土には石英・雲母が含まれる。

12は珪岩製の削器で、背面両側縁に剥離が施される。13は珪岩製の石槍または石鏃で、両面に調整剥離が施される。

R A011 竪穴住居跡 (第8図)

位置 D3区 平面形 不整円形

規模 長軸上端3.62m・下端3.01m、短軸上端3.02m・下端2.73m、深さ0.26m

重複関係 なし 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A・B層に大別される。

A層 - A₁層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含む層。全体的にやや粘性を帯びる。

B層 - B₁層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、少量のスコリア粒・微細炭化物を含む。B₂層は小円礫を含む褐色シルト。

壁の状態 壁は緩やかに外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 A₁層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の土器が出土している。

出土遺物(第25図14～19) 14は口唇部に刻目が施される深鉢口縁部片で、胎土には石英と粗い砂粒・微量

の繊維が含まれる。15・17は条痕が施される深鉢体部片で、胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。16は斜位・横位の貝殻線文が施される深鉢体部片である。18・19は深鉢底部片で、胎土には石英・長石が含まれる。

R A 012 竪穴住居跡 (第9図)

位置	D 3区	平面形	不整形
規模	長軸上端2.70m以上・下端2.50m以上、短軸上端2.75m・下端2.29m、深さ0.15m		
重複関係	R D 039～042土坑に切られる 検出面 IV層上面		
埋土	自然堆積による。 A層－ A ₁ 層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含みかたくしめる層。A ₂ 層は砂質褐色シルトを、A ₃ 層は小円礫・砂粒を含む。全体的に微細炭化物を含む。		
壁の状態	壁は緩やかに外傾する。	床面の状態	ほぼ平坦 出土遺物 なし

R A 014 竪穴住居跡 (第9図)

位置	D 3区	平面形	不整形
規模	長軸上端2.79m・下端2.53m、短軸上端1.40m以上・下端1.28m以上、深さ0.14m		
重複関係	R A 505 竪穴住居跡に切られる 検出面 IV層上面		
埋土	自然堆積による。A・B層に大別される。 A層－ A ₁ 層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含む。 B層－ B ₁ 層は砂質暗褐色シルトを主体に、少量のスコリア粒・微細炭化物を含む。		
壁の状態	壁は緩やかに外傾する。	床面の状態	ほぼ平坦
遺物の出土状況	A ₁ 層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の土器が出土している。		
出土遺物(第27図1～5)	1はL口唇部が緩やかな外削状になる深鉢L縁部で、L唇下には斜位・横位の条痕が施される。胎土には石英・長石が含まれる。2はL口唇部に刻目が施され、L唇下に爪形状刺突が施される深鉢L縁部で、横位・斜位の貝殻線文が施される。胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。3は貝殻線文が幾何学状に施される深鉢体部片で、胎土には砂粒・長石が含まれる。4は深鉢尖底部である。胎土には石英・粗い砂粒が含まれる。5は条痕が施される深鉢体部片で、胎土には砂粒が含まれる。		

R A 013 竪穴住居跡 (第10図)

位置	D 2区	平面形	不整形
規模	長軸上端3.88m・下端3.49m、短軸上端3.22m・下端2.77m、深さ0.43m		
重複関係	R E 1007 竪穴建物跡に切られる 検出面 IV層上面		
埋土	自然堆積による。A・B・C層に大別され、A・B層は2層に大別される。 A層－ A ₁ 層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含む。 B層－ B ₁ 層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、少量のスコリア粒・微細炭化物を含み、B ₂ 層は砂質暗褐色シルトに塊状の褐色シルト・微細炭化物を多く含む。 C層－ 砂質黄褐色シルトを主体とする層。		
壁の状態	壁は直立ぎみに外傾する。	床面の状態	ほぼ平坦
遺物の出土状況	B ₂ 層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の土器・石器が出土している。		

出土遺物 (第26図1~22) 1は条痕が施される深鉢体部下半で、胎土には石英・砂粒が含まれる。2は爪形状判突列が横位に施される深鉢口縁部で、体部には粗い砂粒が含まれる。3~6は同一個体である。口唇部は外削状となり、斜位・縦位・横位の貝殻腹縁文が密接して施される。胎土には微細な砂粒が多量に含まれる他、石英・微量の繊維が含まれる。7は貝殻腹縁押し文が施される深鉢体部片である。胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。8は縦位の貝殻腹縁文が施される深鉢体部片である。9・10は同一個体で、浅く太い沈線が斜位に施される深鉢体部下半である。胎土には石英・微細な砂粒が含まれる。11・12は同一個体の深鉢底部である。13は条痕が施される深鉢体部片である。14は条痕が施される深鉢底部片で、胎土には赤色のスコリア?・磁鉄鉱・石英・微量の繊維が含まれる。15は深鉢尖底部で条痕が施される。16は口唇部が外削状となる深鉢口縁部で、口唇に刻目が施され、口唇下に横位の爪形状判突と細沈線が施される。胎土には石英・磁鉄鉱が含まれる。17・18は条痕が施される深鉢体部片である。19は口縁部に膨らみを持つ深鉢口縁部で、口唇下に縦位の貝殻腹縁文、横位の貝殻腹縁文が施される。20・21は搔器、22は削器で全て頁岩製である。

R A 015 鑿穴住居跡 (第11図)

位置 D3区 平面形 不整形

規模 長軸上端3.13m・下端2.81m、短軸上端2.87m・下端2.42m、深さ0.16m

重複関係 なし 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A・B・C層に大別される。

A層- A層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土を含む。

B層- B層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、微細炭化物を含む。

C層- 塊状の砂質暗褐色シルトを含む砂質褐色シルトを主体とする層。

壁の状態 壁は緩やかに外傾する。床面の状態 ほほ平坦

遺物の出土状況 A層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の上器・石器が出土している。

出土遺物 (第27図6~23) 6は爪形状判突と条痕が施される深鉢口縁部片である。7・8は同一個体で、口唇部がやや内削状となる深鉢口縁部片である。口唇下には貝殻腹縁文が斜位に施され、体部には条痕が施される。胎土には石英・砂粒が含まれる。9~20・22は条痕が施される深鉢体部下半である。21は縦位の単輪絡条体を縦位に回転施する深鉢体部片で、胎土には石英・砂粒を含む。23は浅く太い沈線が斜位に施される深鉢体部下半である。胎土には石英・微細な砂粒が含まれる。

R A 016 鑿穴住居跡 (第11図)

位置 D3区 平面形 不整形

規模 長軸上端2.59m・下端2.26m、短軸上端1.82m以上・下端1.64m以上、深さ0.14m

重複関係 なし 検出面 IV層上面

埋土 自然堆積による。A・B層に大別される。

A層- A層は暗褐色土を主体とし、塊状の淡い黒褐色土・微細炭化物を含む。

B層- B層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、微細炭化物を含む。

壁の状態 壁は緩やかに外傾する。床面の状態 ほほ平坦

遺物の出土状況 図示していないが、条痕文が施された土器小片と頁岩による判片が各1点出土している。

R A017竪穴住居跡 (第12図)

位 置	D 3区	平 面 形	不整長方形
規 模	長軸上端4.42m・下端4.18m、短軸上端2.55m・下端2.29m、深さ0.28m		
重複関係	RD066・067土坑に切られる 検出面 IV層上面		
埋 土	自然堆積による。A～D層に大別される。C・D層はピット埋土である。		
	A層－ A ₁ 層は暗褐色シルトとスコリア粒を含む暗褐色土による混合土を主体とする。		
	B層－ B ₁ 層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で、微細炭化物を含む。B ₂ 層はかたくしまり、B ₃ 層は砂質が強くなる。		
	C層－ 塊状の砂質暗褐色シルトを含む砂質褐色シルトを主体とする層。		
	D層－ かたくしまる砂質暗褐色シルトを主体とする層。		

壁の状態 壁は緩やかに外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦

遺物の出土状況 B層を中心に縄文時代早期中葉(Ⅱ群)の遺物が出土している。

出土遺物(第28図1～第29図17) 1は口唇部が外削状となる深鉢である。文様帯はⅠ～Ⅴに分けられる。Ⅰ文様帯は口唇下の貝殻腹線文で縦位に並列して施文される。Ⅱ・Ⅳ文様帯は横位平行沈線による。主要となるⅢ文様帯は、沈線によりγ字状の幾何学文が描かれ、沈線間に貝殻腹線文を充填するものである。また、幾何学文のコーナーになる箇所には円形刺突が施文される。Ⅴ文様帯とした体部下半は斜位の条痕が施される。胎土には石英・磁鉄鉱・砂粒・微量の繊維が含まれる。2は横位平行沈線上に斜位の平行沈線を施した深鉢体部片で、胎土には石英・磁鉄鉱を含む。3は貝殻腹線文が施される深鉢体部片である。4～7・15～17は条痕が施された深鉢体部下半である。8は口唇に刻目を施し、弧状の浅い沈線を施す。胎土には石英・長石を含む。9・10は同一個体の深鉢口縁部である。口唇に縦位、口唇下に横位の貝殻腹線文を施す。11は口唇下に縦位の貝殻腹線文、爪形状刺突を施す深鉢口縁部片である。12は爪形状刺突を施すものである。13は貝殻腹線文を横位多重に施す深鉢底部片で、胎土には石英を含む。14は横位平行沈線と斜位の貝殻腹線文を施す深鉢体部片で、胎土には微量の石英と繊維を含む。

R A018竪穴住居跡 (第12図)

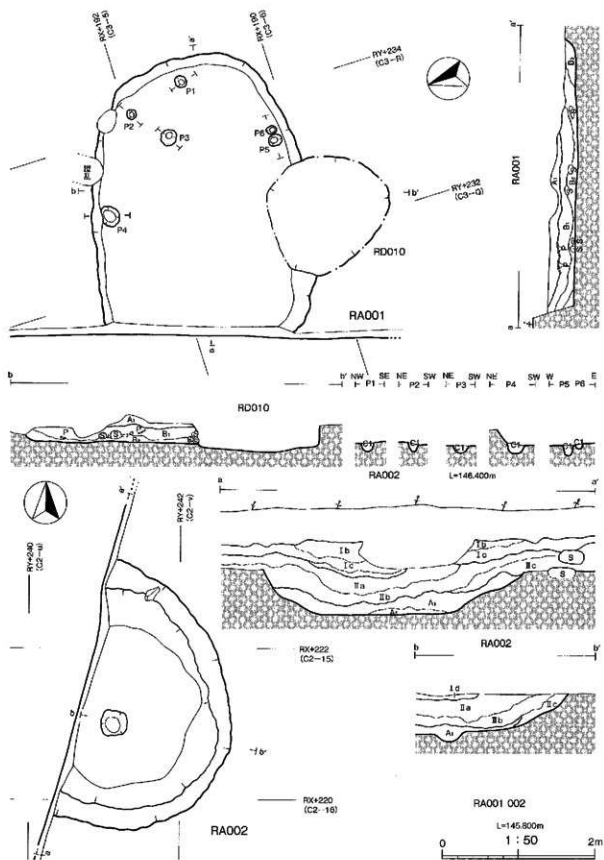
位 置	D 3区	平 面 形	不整長円形
規 模	長軸上端2.21m以上・下端2.13m以上、短軸上端2.04m・下端1.87m、深さ0.16m		
重複関係	RD055土坑に切られる 検出面 IV層上面		
埋 土	自然堆積による。A・B層に大別される。		
	A層－ A ₁ 層は暗褐色シルト主体とする。		
	B層－ B ₁ 層は暗褐色土を主体とする層で、微細炭化物を含む。		
壁の状態	壁は緩やかに外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦		
出土遺物(第29図18・19)	18は縦位の貝殻腹線文を施す深鉢体部片である。胎土に微量の繊維を含む。19は貝岩製の両面調整石器である。		

R A 019 壁穴住居跡 (第13図)

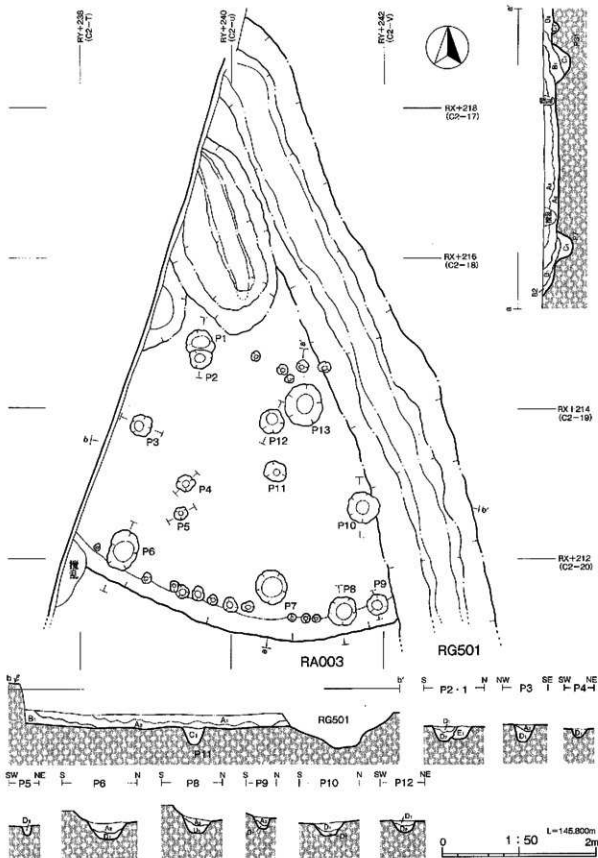
位 置	D 3 区	平 面 形	不整長円形
規 模	長軸上端2.65m・下端2.38m、短軸上端2.00m以上・下端1.90m以上、深さ0.23m		
重複関係	R D 035~038・061・062土坑に切られる	検出面	IV層上面
埋 土	自然堆積による。A・B層に大別され、B層は2層に細別される。 A層- A ₁ 層は砂質黒褐色土を主体に少量のスコリア粒・微細炭化物を含む。A ₂ 層は砂質黒褐色土に塊状の暗褐色土を含む層である。 B層- B ₁ 層は砂質暗褐色土を主体とする層で、微細炭化物を含む。		
壁の状態	壁は緩やかに外傾する。	床面の状態	ほぼ平坦
出土遺物 (第29図20・21)	20・21は掻器で、20は頁岩、21はメノウ製である。		

R A 020 壁穴住居跡 (第13図)

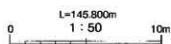
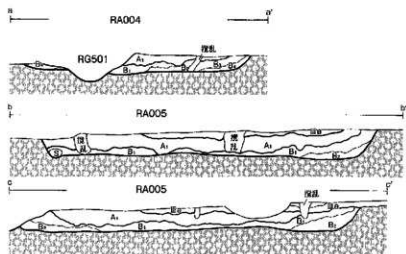
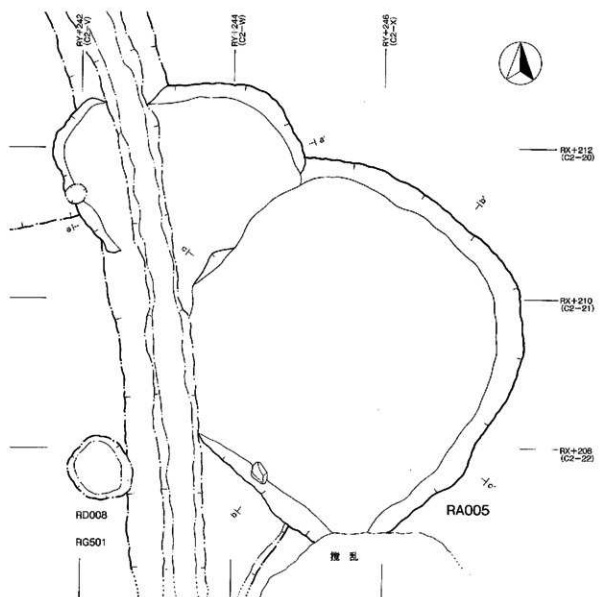
位 置	D 3 区	平 面 形	不整方形
規 模	長軸上端2.71m・下端2.17m、短軸上端2.65m・下端2.04m、深さ0.31m		
重複関係	なし	検出面	IV層上面
埋 土	自然堆積による。A・B層に大別され、各層は2層に細別される。 A層- A ₁ 層は砂質暗褐色土を主体に少量のスコリア粒・微細炭化物を含む。A ₂ 層は砂質暗褐色シルトに塊状の暗褐色土を含む層である。全体的にややかたくしまる。 B層- B ₁ 層は砂質褐色シルトを主体とする層で、微細炭化物を含む。B ₂ 層は砂質暗褐色シルトを主体とする層で微細炭化物・スコリア粒を含む。全体的にかたくしまる。		
壁の状態	壁は緩やかに外傾する。	床面の状態	ほぼ平坦
遺物の出土状況	A層より縄文時代早期中葉 (II群) の土器が出土している。		
出土遺物 (第29図22・23)	22は斜位の条痕を施す深鉢体部下半で、胎土には微細な石英・砂粒が多量に含まれる。23は口縁部に爪形状突起による文線帯を持つ深鉢で、全面に横位の条痕が施される。胎土には粗い石英・砂粒、微量の雲母・繊維が含まれる。		



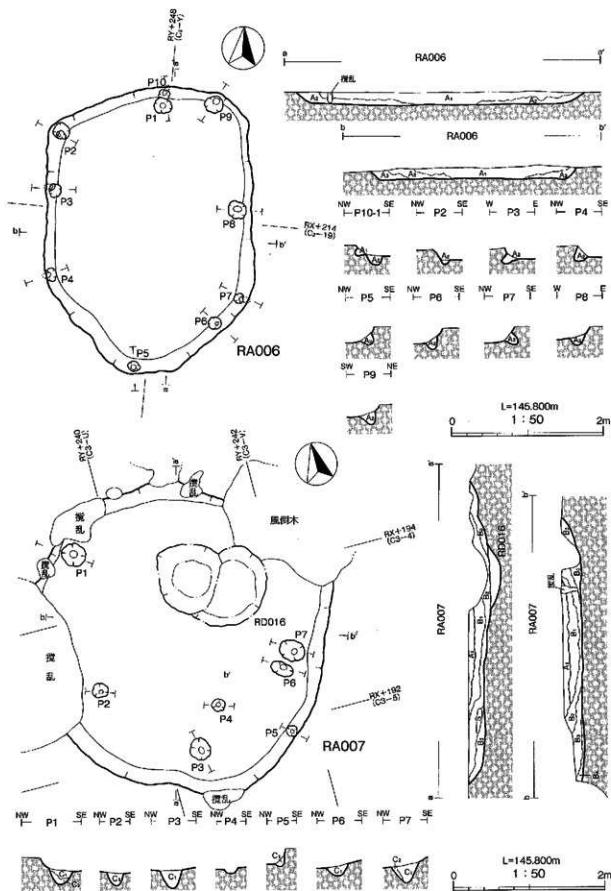
第3圖 RA001・002 竅穴住居跡



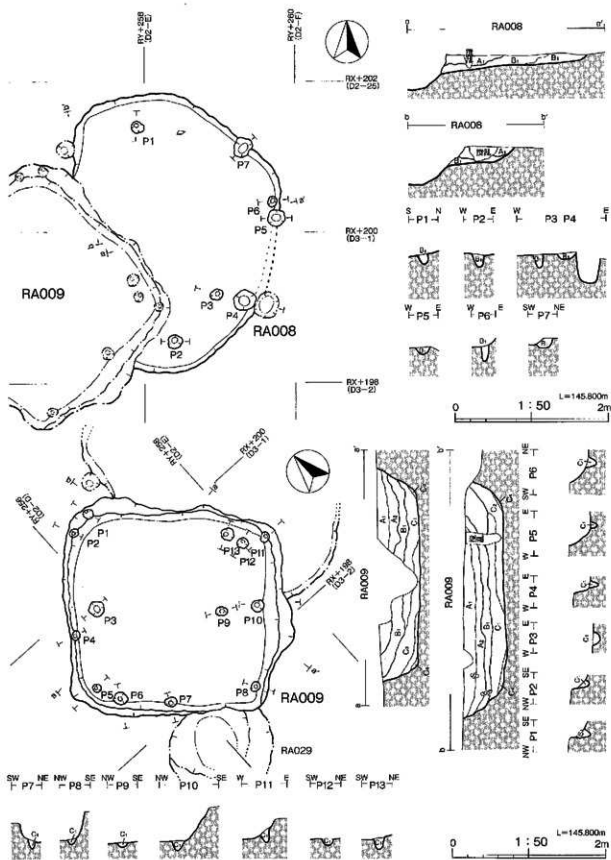
第4图 RA003竖穴住居跡



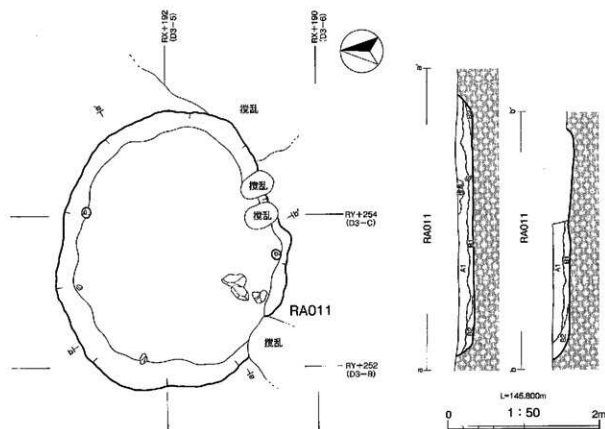
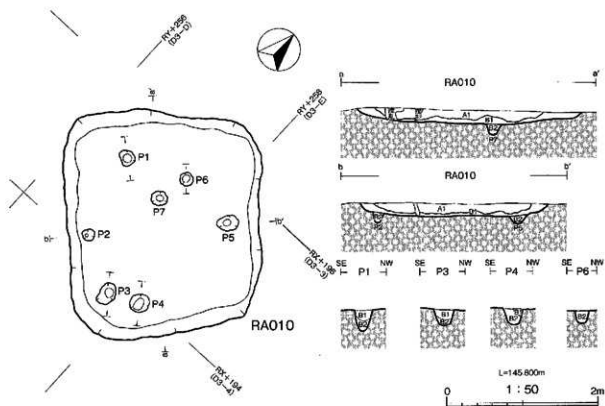
第5圖 RA004・005豎穴住居跡



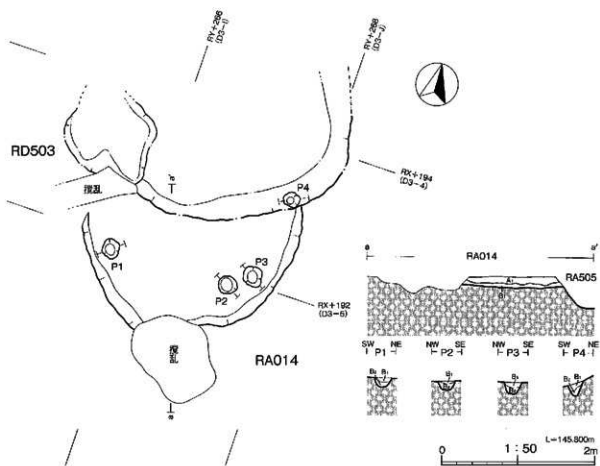
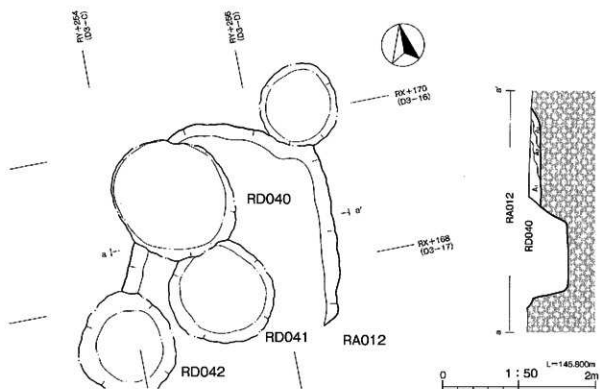
第6圖 RA006・007型穴住居跡



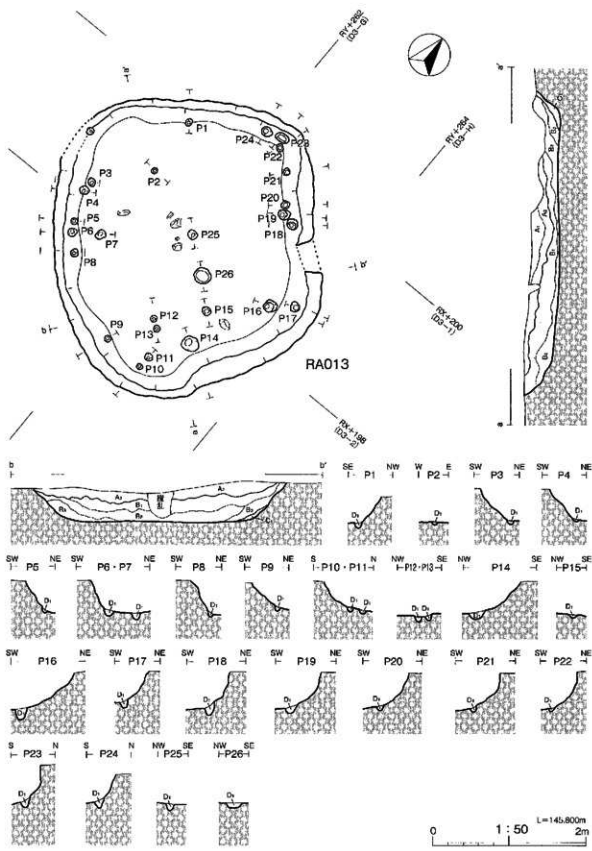
第7圖 RA008・009雙穴住居跡



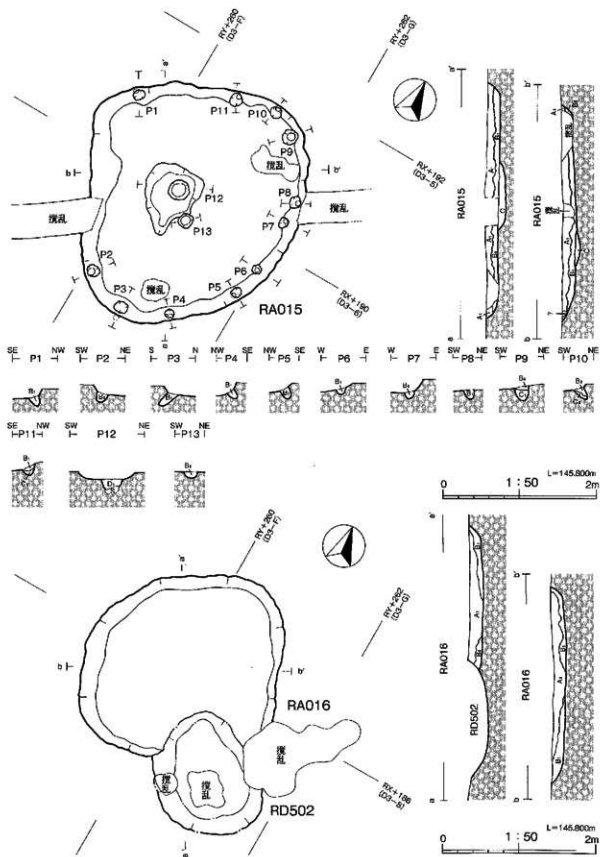
第8圖 RA010・011竪穴住居跡



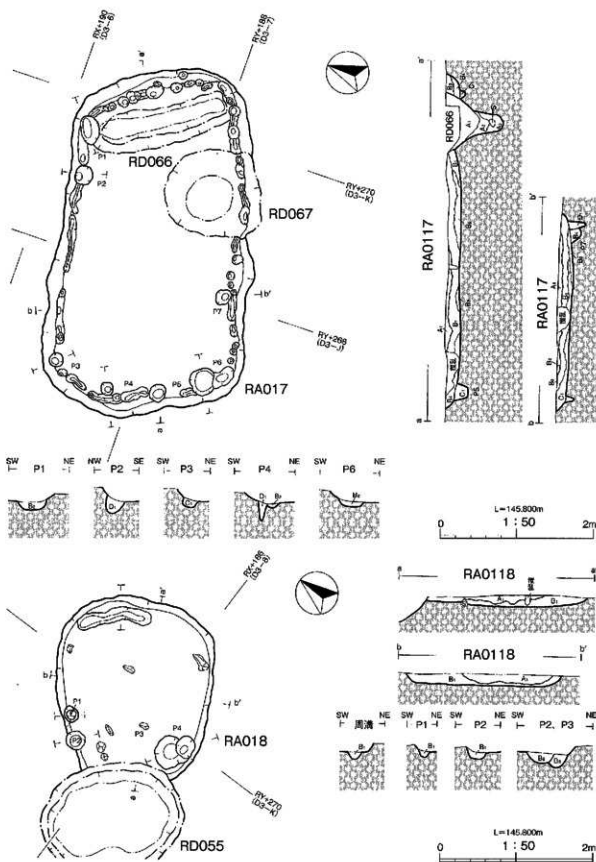
第9圖 RA012・014竪穴住居跡



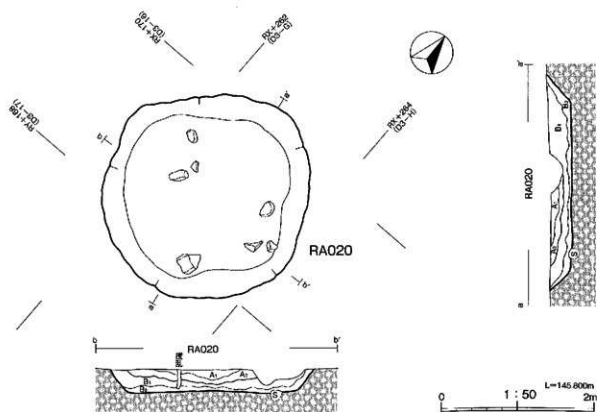
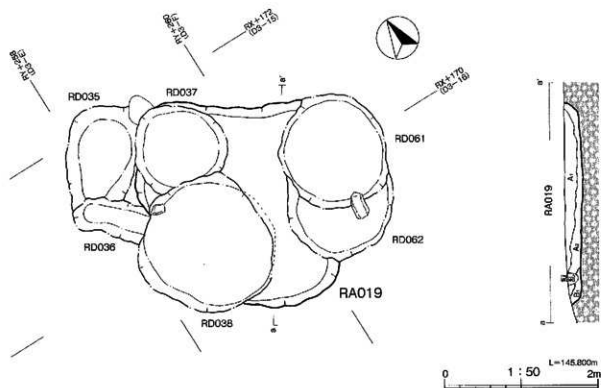
第10图 RA013竖穴住居跡



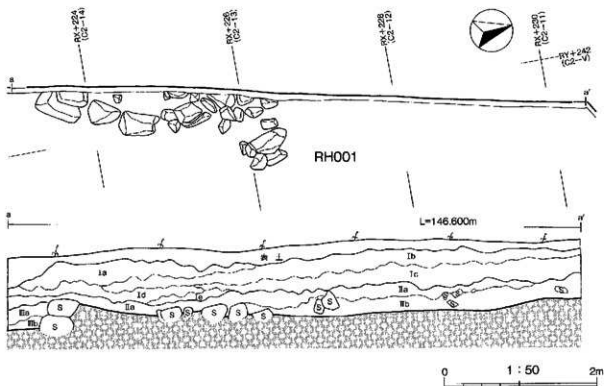
第11圖 RA015・016雙穴住居跡



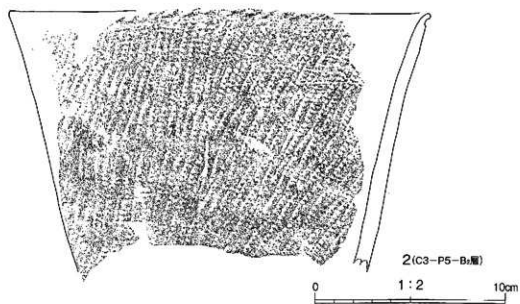
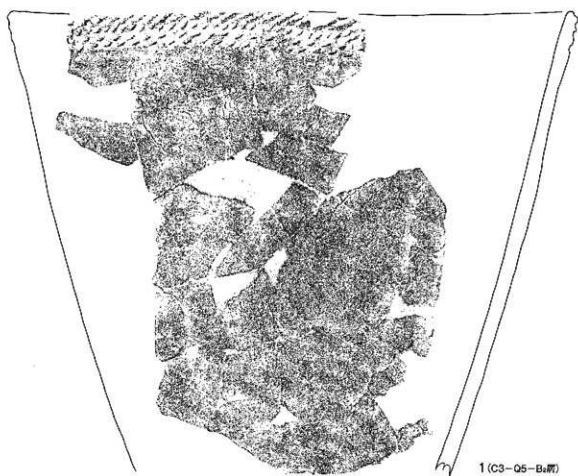
第12圖 RA017・018雙穴住居跡



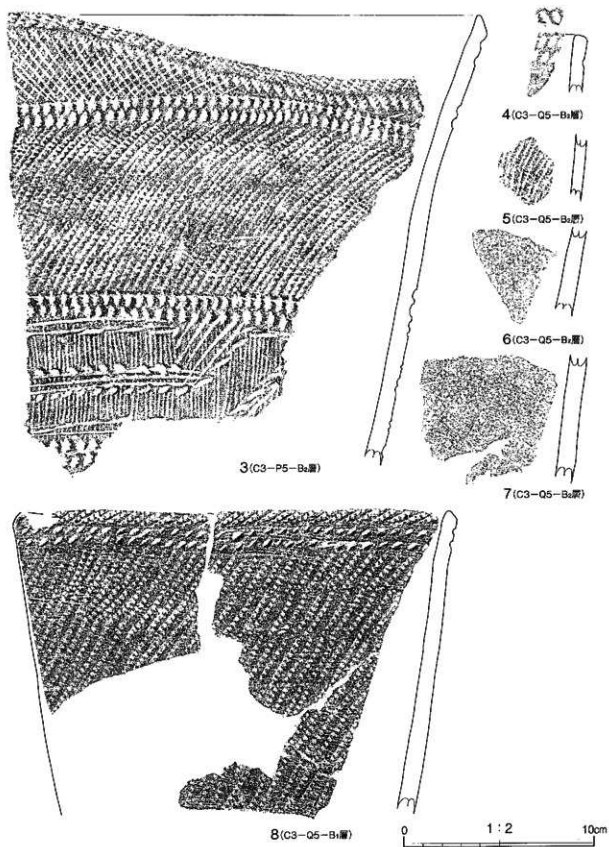
第13圖 RA019・020竪穴住居跡



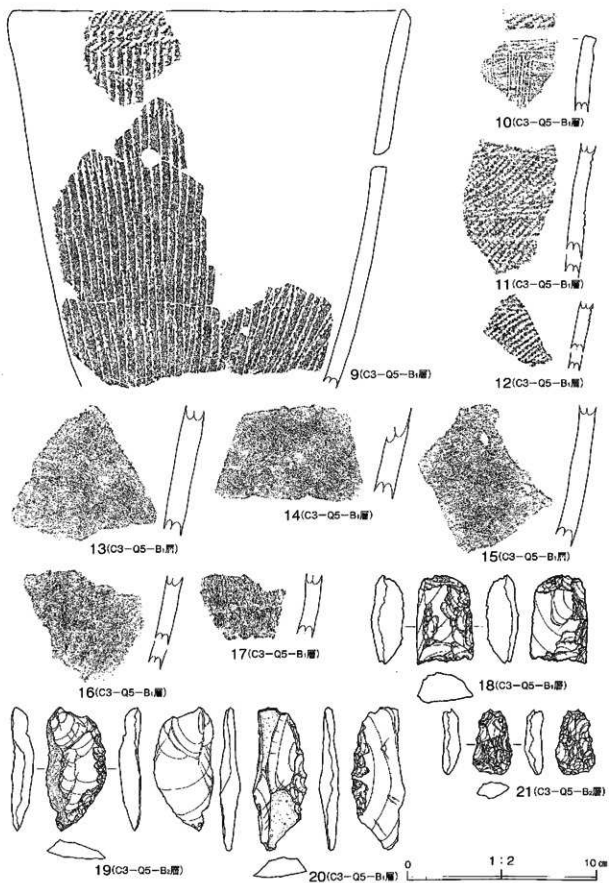
第14図 RH001配石遺構



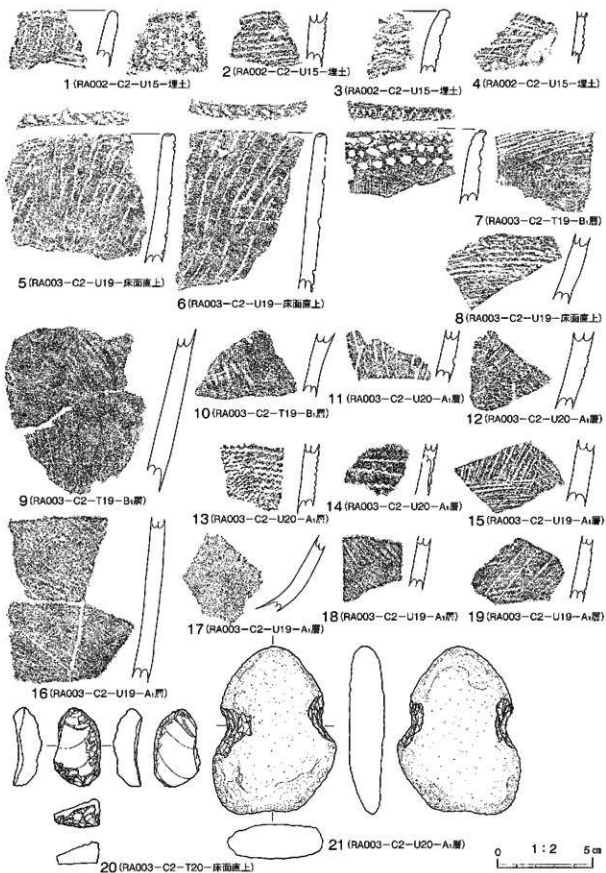
第15図 RA001竪穴住居跡出土遺物 (1)



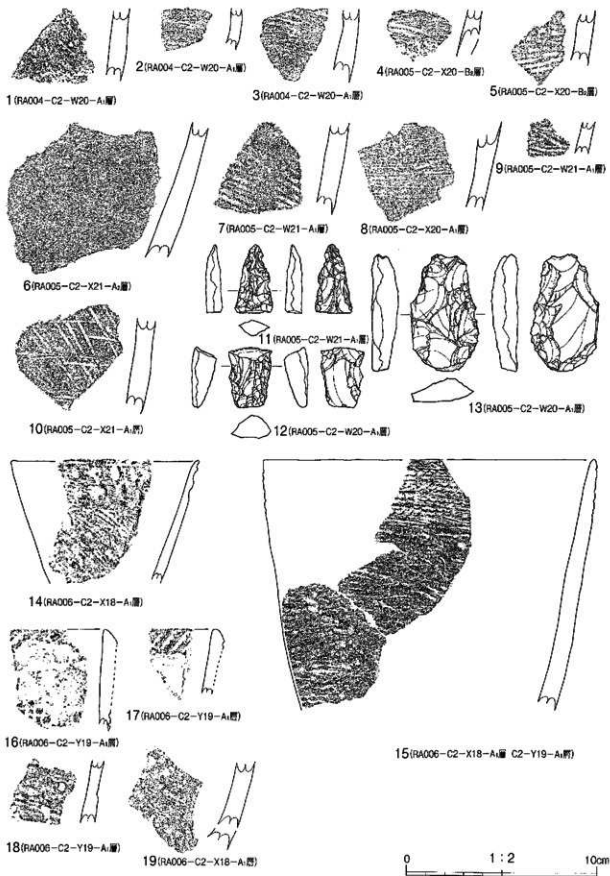
第16圖 RA001 豎穴住居跡出土遺物 (2)



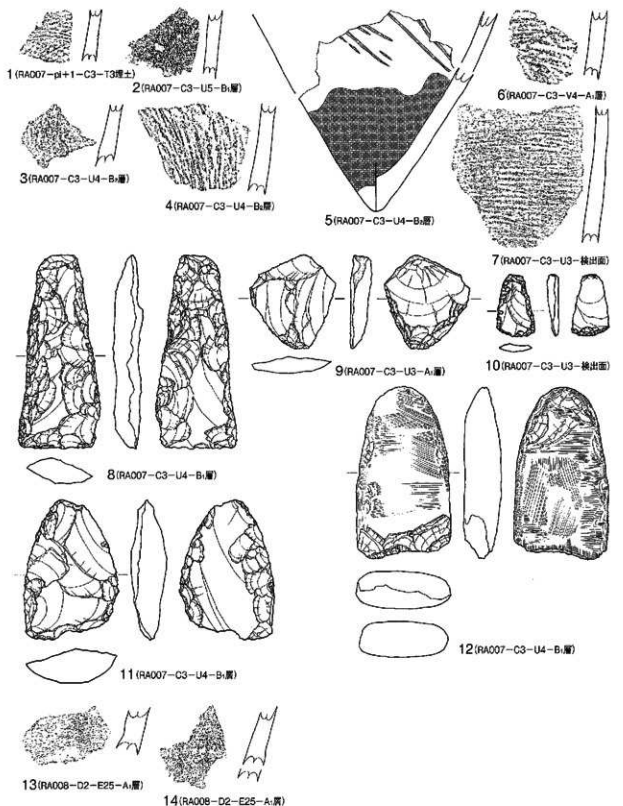
第17圖 RA001竪穴住居跡出土遺物(3)



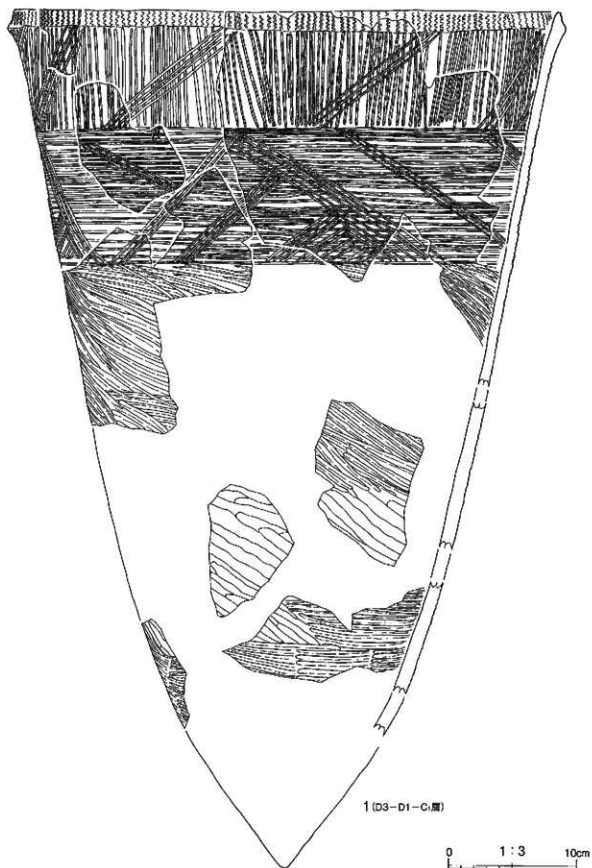
第18図 RA002・003竪穴住居跡出土遺物



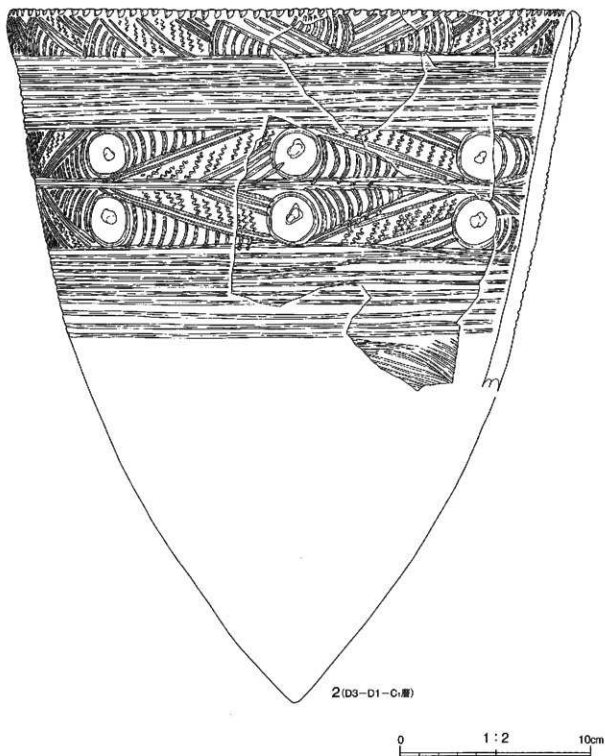
第19圖 RA004・005・006型穴住居跡出土遺物



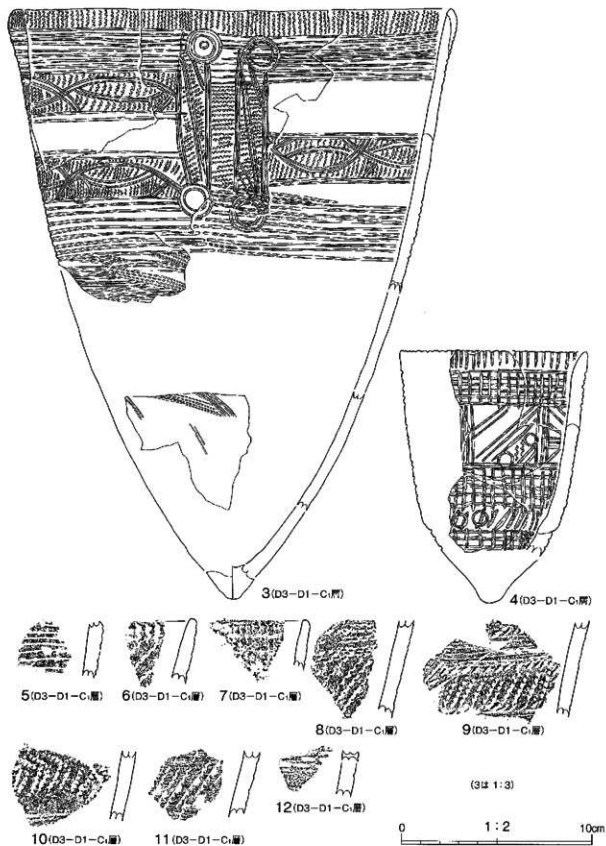
第20図 RA007・008竪穴住居跡出土遺物



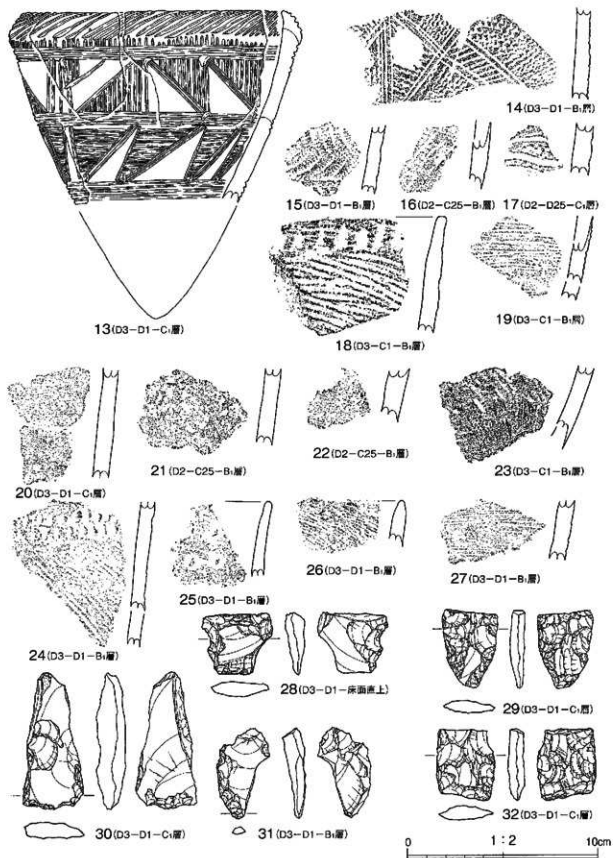
第21圖 RA009豎穴住居跡出土遺物 (1)



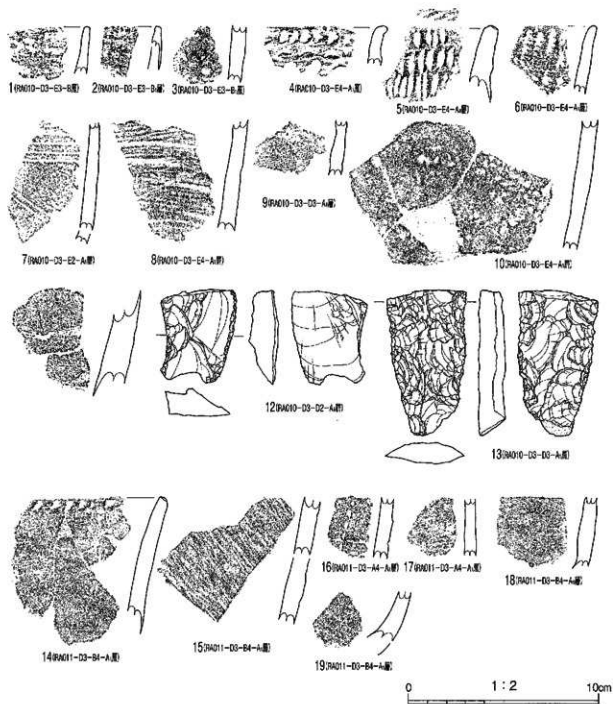
第22図 RA009竪穴住居跡出土遺物(2)



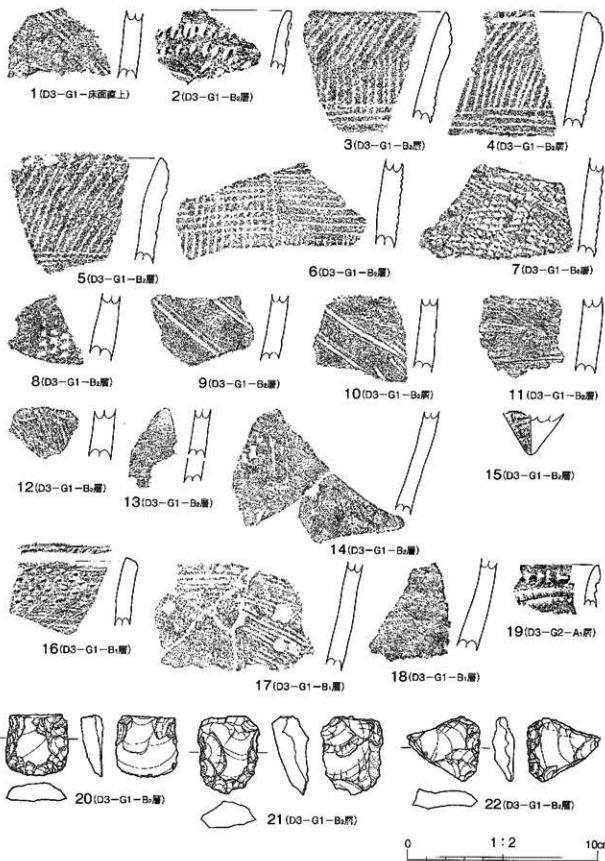
第23図 RA009竪穴住居跡出土遺物 (3)



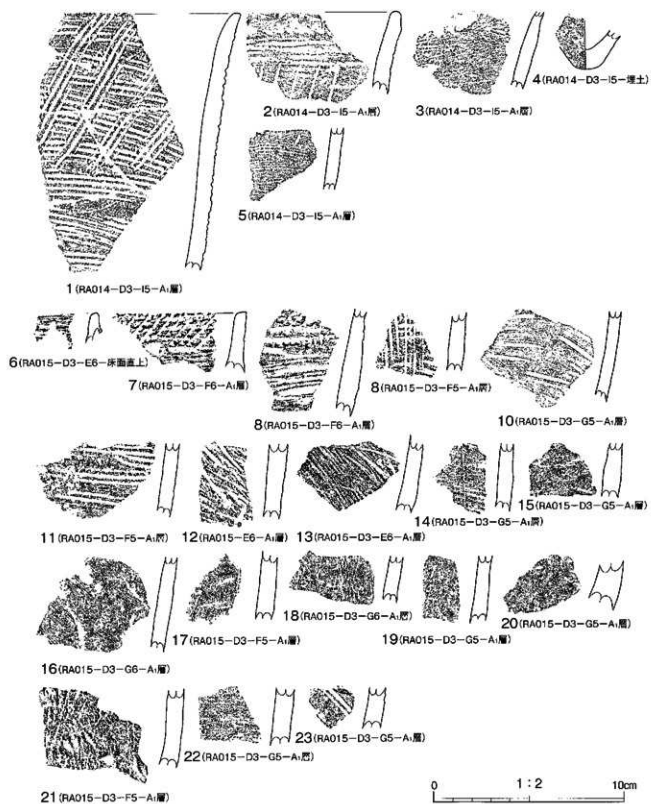
第24圖 RA009竪穴住居跡出土遺物(4)



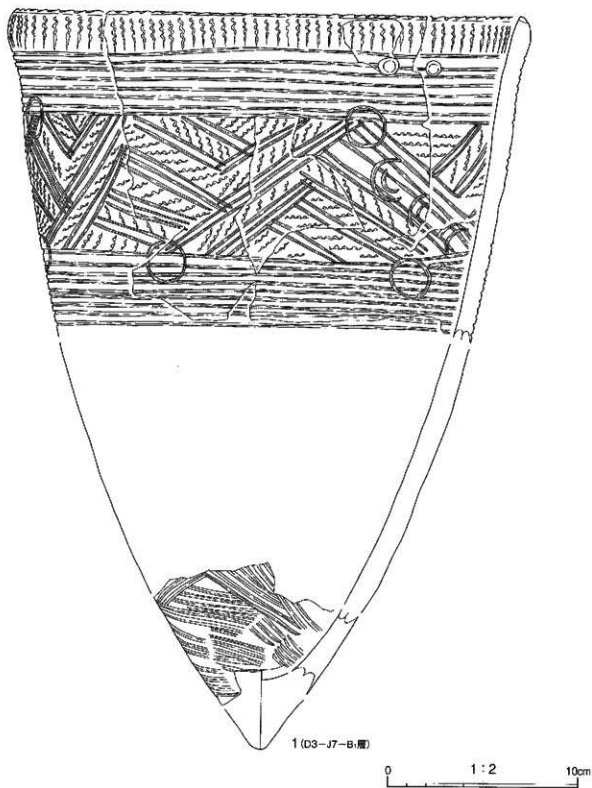
第25図 RAO10・O11竪穴住居跡出土遺物



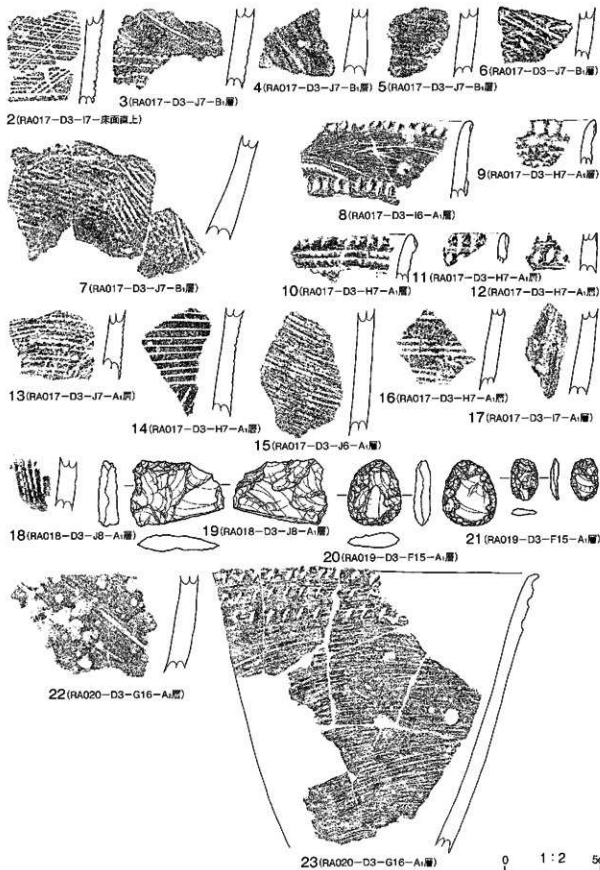
第26圖 RA013竪穴住居跡出土遺物



第27図 RA014・015竪穴住居跡出土遺物



第28圖 RA017豎穴住居跡出土遺物 (1)



第29圖 RA017竪穴住居跡出土遺物(2)
RA018・019・020竪穴住居跡出土遺物

(2) 縄文時代の土坑・配石遺構 (第30図～40図・第1表)

縄文時代の土坑は調査区全域より検出されている。土坑は平面の形状から大きく2形状(円形(不整形円形を含む)・溝状)に分類される。本報告書では概要を記し、規模等については表(第1表)にまとめた。

円形土坑 平面形が円形を呈する土坑は、調査区南辺の段丘縁辺沿いに構築された傾向があり、特に調査区南東隅(D3区)に集中する。

検出された円形土坑は、断面形状がフラスコ形を呈するもの(RD024～026、032、063)と、壘が外傾するもの(RD002・006～023・027・028・031・033～035・037～041・044～046・048～055・057・058・060～062・064・067～069)に分けられる。

構築時期 円形土坑群の構築時期は、土坑内からの一括遺物がないため断定できないが、RD029を除く土坑全てに包含層のⅡa層(砂質黒褐色土を主体とする層)に近似する砂質黒褐色土が堆積していることから縄文時代後期の土坑群であることが考えられる。また、RD002からは縄文時代後期の土器片(第40図1)が出土していることから妥当と思われる。RD011・054・061・062・060より縄文時代早期の土器片(第40図2～7)が出土しているが、包含層からの流入であろう。RD029は縄文時代早期の遺物を多量に含む包含層Ⅲ層に近似する褐色土を主体とする層が堆積していることから早期の土坑である可能性がある。しかし、出土遺物がないことから断定は避けたい。

出土遺物(第40図1～7) 1は沈線による矢羽状の文様を描く深鉢体部片で、胎土には多量の海綿骨針が含まれる。2は縦位の貝殻腹縁文が施される深鉢口縁部片である。3は条痕が施される深鉢体部片である。4・5は深鉢体部～底部付近にかけての部位で、縦位方向のミガキによる器面調整が観察される。6は太い条痕?が斜位に施される深鉢体部下半の部位である。7は深鉢口縁部片で、口唇下には縦位の沈線が施され、横位平行沈線によって体部文様帯と区切られる。体部文様帯には沈線によるy字状の文様が描かれ、文様内には貝殻腹縁文が充填される。

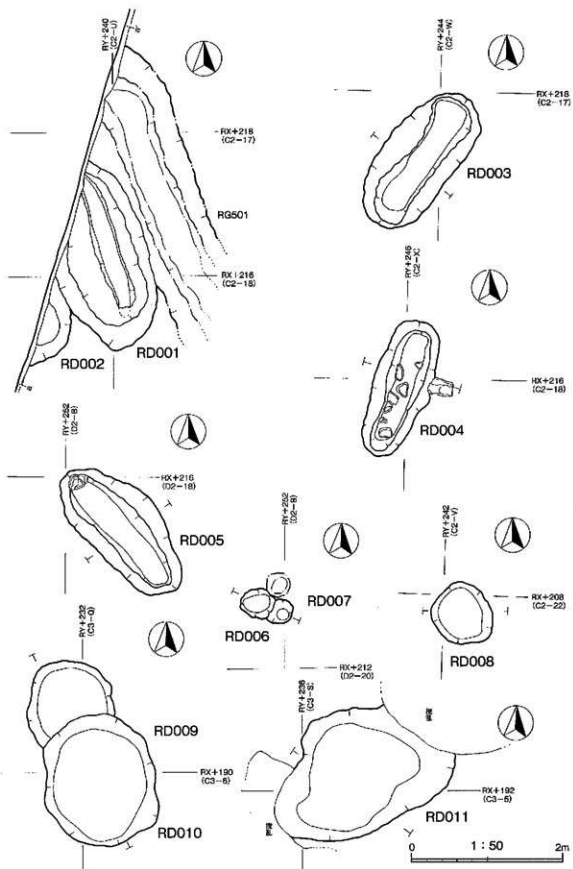
溝状土坑 平面形が溝状を呈する土坑で所謂「陥し穴状土坑」「トラップピット(Tピット)」と呼ばれる土坑である(RD001・003～005・036・043・047・056・059・065・066)。溝状土坑は複数基で列状に構築されており、今回の調査ではRD001・003～005による東西に並列する土坑群、RD043・047による北西-南東方向に並列する土坑群、RD036・056・059・065・067による北東-南西方向に並列する土坑群が確認された。

構築時期 溝状土坑群の構築時期は、土坑内からの一括遺物がないため断定できないが、土坑全てに包含層のⅡa層(砂質黒褐色土を主体とする層)に近似する砂質黒褐色土が土坑上部に堆積していることから縄文時代後期以降の土坑群であることが考えられる。なお、溝状土坑内からの出土遺物はなかった。

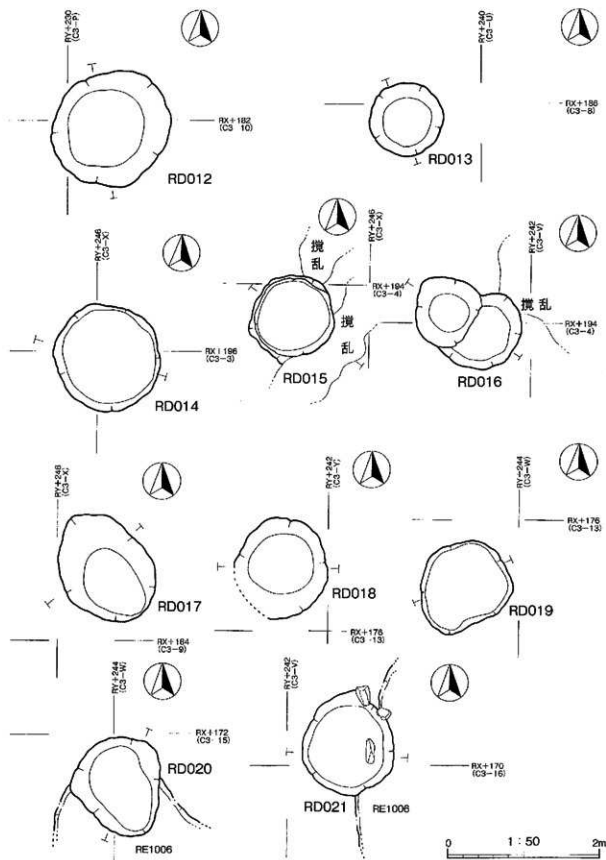
配石遺構 C2区北端付近でRH001配石遺構が1基検出された(第14図)。本米は環状を呈していたものと考えられるが、道路敷設工事で大部分が破壊されている。RH001配石遺構の検出面はⅡb層上部で、図示していないが、周辺より縄文時代後期の土器小破片が3点出土している。

測番番号	平面形	尺度		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D001	床状	215以上×133	198以上×0.24	1.34	縄文後期?
R D002	不整円形?	1.28	0.62	0.37	縄文後期
R D003	溝状	214×0.98	173×0.33	0.82	縄文後期
R D004	床状	194×0.83	153×0.29	0.64	縄文後期?
R D005	溝状	221×1.02	145×0.32	1.05	縄文後期?
R D006	不整円形	0.45	0.33	0.34	縄文後期?
R D007	不整円形	0.25以上	0.17	0.32	縄文後期?
R D008	不整円形	0.85	0.62	0.26	縄文後期?
R D009	不整円形	1.21	0.94	0.22	縄文後期?
R D010	不整円形	1.82	1.56	0.34	縄文後期?
R D011	不整円形	1.71	1.34	0.47	縄文後期?
R D012	不整円形	1.58	1.09	0.37	縄文後期?
R D013	円形	0.94	0.64	0.31	縄文後期?
R D014	円形	1.43	1.28	0.21	縄文後期?
R D015	円形	1.04	0.89	0.28	縄文後期?
R D016	不整円形	1.45×1.04	1.14×0.78	0.25	縄文後期?
R D017	不整円形	1.15	0.68	0.57	縄文後期?
R D018	不整円形	1.21	0.88	0.33	縄文後期?
R D019	不整円形	1.22	1.08	0.11	縄文後期?
R D020	不整円形	1.33	1.16	0.18	縄文後期?
R D021	不整円形	1.21	0.96	0.22	縄文後期?
R D022	不整円形	1.36	1.25	0.29	縄文後期?
R D023	円形	1.28	1.02	0.24	縄文後期?
R D024	フラスコ	0.32以上	0.45以上	0.64	縄文後期?
R D025	フラスコ	1.64	1.66	0.94	縄文後期?
R D026	フラスコ	1.15	1.27	0.26	縄文後期?
R D027	不整円形	1.29	0.88	0.24	縄文後期?
R D028	不整円形	1.23	0.94	0.21	縄文後期?
R D029	不整円形	1.36	0.56	0.42	縄文早期
R D030	不整円形	1.81×1.04	1.34×0.68	0.44	縄文後期?
R D031	不整円形	1.34	1.13	0.21	縄文後期?
R D032	フラスコ	1.23	1.28	0.54	縄文後期?
R D033	不整円形	0.45以上	0.35以上	0.37	縄文後期?
R D034	不整円形	1.75	1.07	0.31	縄文後期?
R D035	不整円形	0.92	0.65	0.34	縄文後期?
R D036	楕円形?	1.00以上×0.49	0.85以上×0.24	0.54	縄文後期?
R D037	不整円形	1.24	1.02	0.19	縄文後期?
R D038	不整円形	1.75	1.63	0.45	縄文後期?
R D039	円形	1.06	0.84	0.39	縄文後期?
R D040	不整円形	1.74	1.53	0.53	縄文後期?
R D041	円形	1.34	1.06	0.24	縄文後期?
R D042	円形	1.26	0.87	0.29	縄文後期?
R D043	溝状	217×0.73	197×0.31	0.66	縄文後期?
R D044	円形	1.36	1.16	0.19	縄文後期?
R D045	円形	1.41	1.06	0.24	縄文後期?
R D046	不整円形	1.04	0.86	0.15	縄文後期?
R D047	溝状	213×0.47	178×0.16	0.57	縄文後期?
R D048	不整円形	1.37	1.16	0.29	縄文後期?
R D049	不整円形	1.33	1.12	0.51	縄文後期?
R D050	不整円形	1.11	1.09	0.29	縄文後期?
R D051	不整円形	1.18	0.94	0.27	縄文後期?
R D052	円形	1.14	0.95	0.17	縄文後期?
R D053	不整円形	1.59	0.47	0.58	縄文後期?
R D054	不整楕円形	1.41×0.79	1.24×0.57	0.23	縄文後期?
R D055	不整円形	1.85×1.55	1.54×0.84	0.32	縄文後期?
R D056	溝状	249×0.52	217×0.19	0.72	縄文後期?
R D057	不整円形	1.5	1.17	0.24	縄文後期?
R D058	不整円形	1.31	0.74	0.48	縄文後期?
R D059	溝状	216×0.56	201×0.23	0.71	縄文後期?
R D060	不整円形	1.87	1.72	0.45	縄文後期?
R D061	円形	1.49	1.35	0.46	縄文後期?
R D062	円形	1.36	1.19	0.29	縄文後期?
R D063	フラスコ	1.62	1.71	0.38	縄文後期?
R D064	円形	1.71	1.54	0.49	縄文後期?
R D065	溝状	1.88×0.64	1.67×0.15	0.72	縄文後期?
R D066	溝状	1.85以上×0.76	1.71×0.19	0.72	縄文後期?
R D067	不整円形	1.15	0.63	0.35	縄文後期?
R D068	不整円形	1.07	0.86	0.24	縄文後期?
R D069	不整円形	0.78	0.49	0.28	縄文後期?

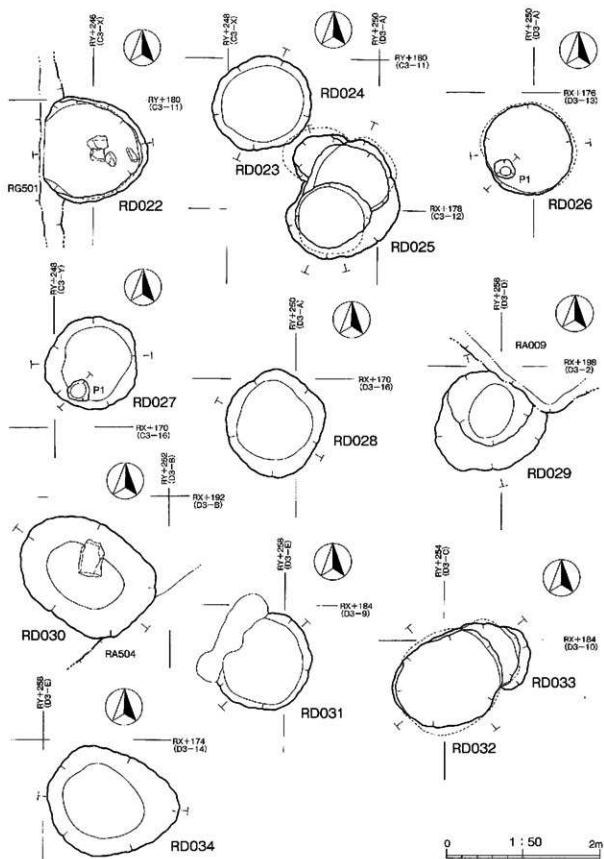
第1表 縄文時代土坑計測表



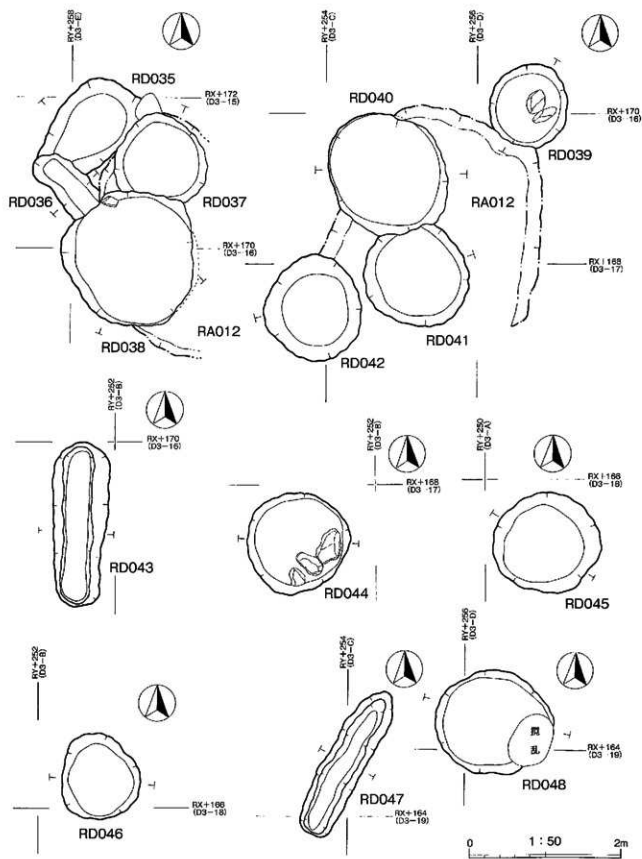
第30圖 RD001・002・003・004・005・006・007・008・009・010・011土坑



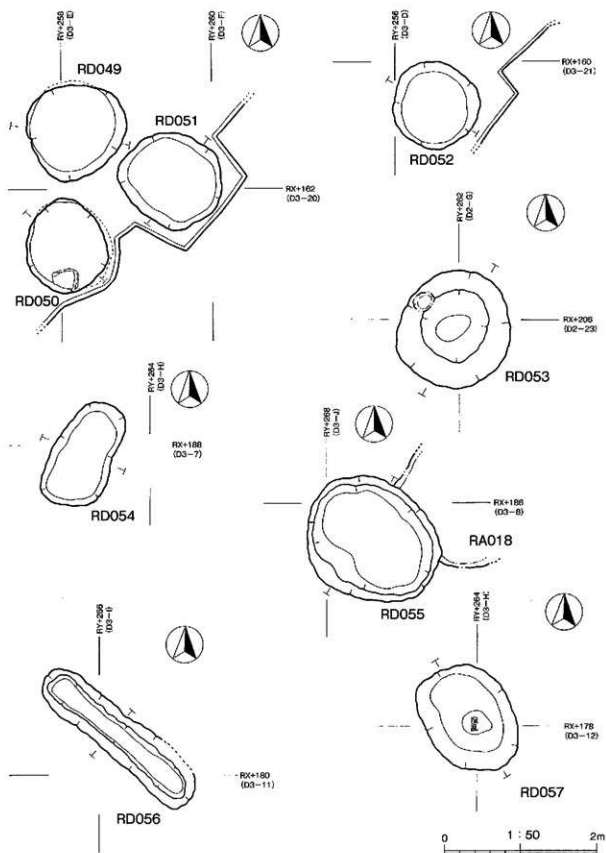
第31圖 RD012・013・014・015・016・017・018・019・020・021土坑



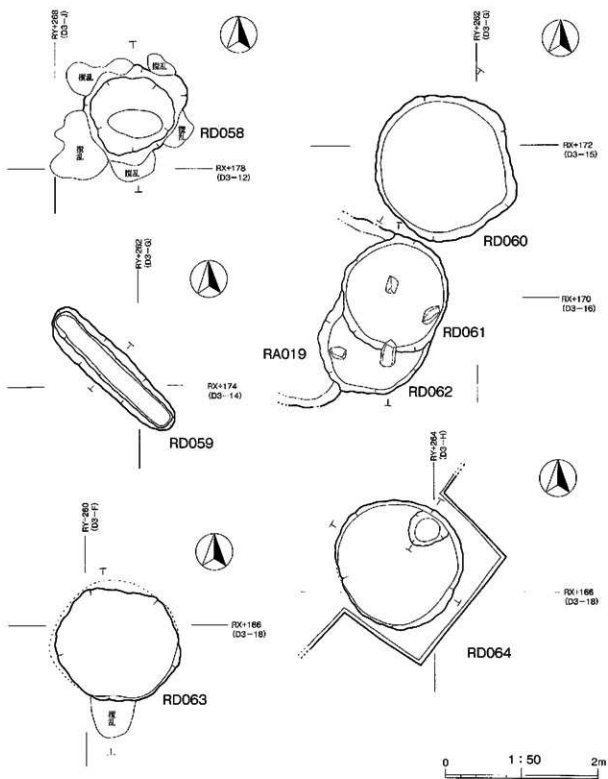
第32圖 RD022・023・024・025・026・027・028・029・030・031・032・033・034土坑



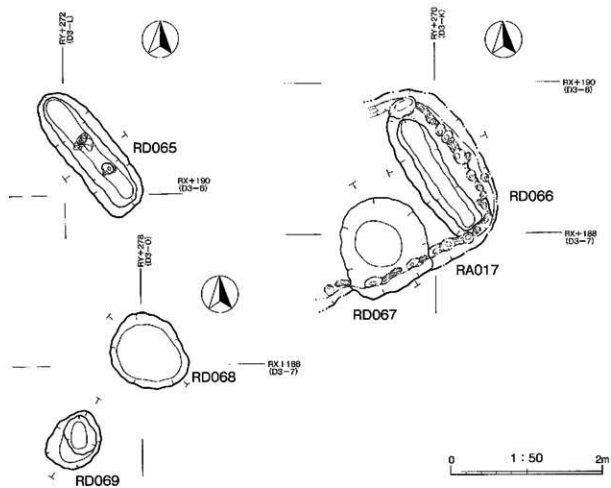
第33圖 RD035・036・037・038・039・040・041・042・043・044・045・046・047・048土坑



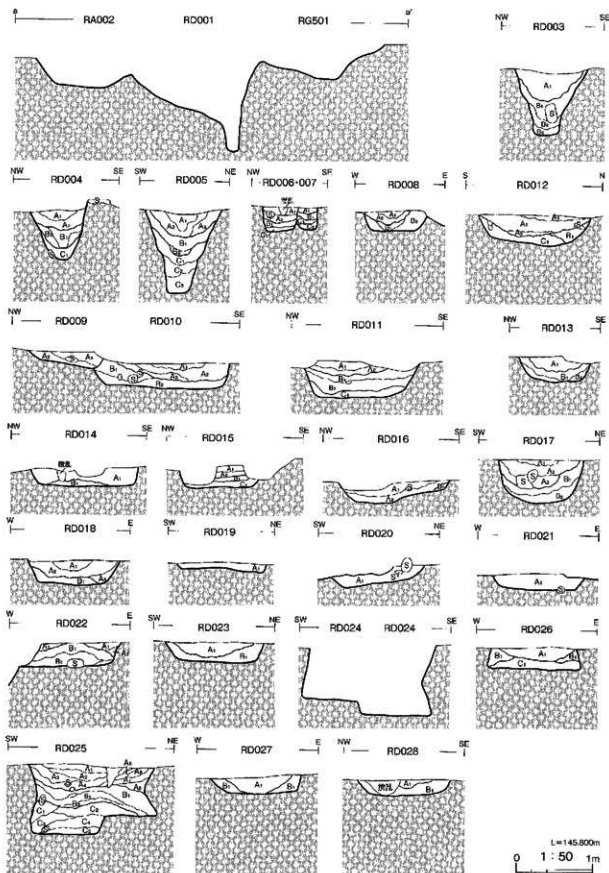
第34圖 RD049・050・051・052・053・054・055・056・057土坑



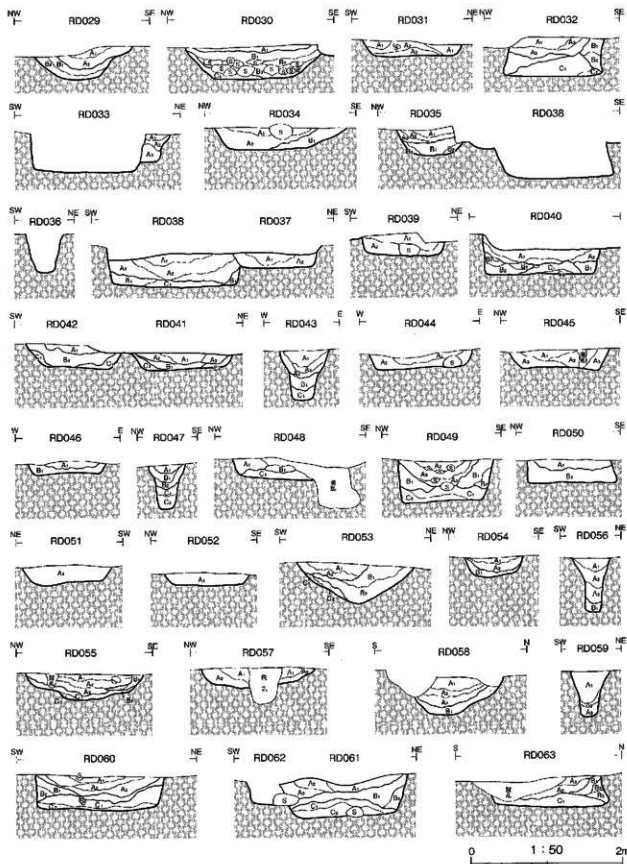
第35图 RD058・059・060・061・062・063・064土坑



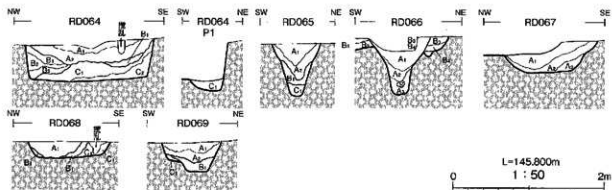
第36图 RD065・066・067・068・069土坑



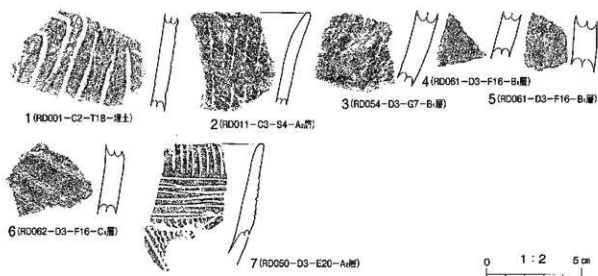
第37图 RD001·002·003·004·005·006·007·008·009·010·011·012·013·014·
015·016·017·018·019·020·021·022·023·024·025·026·027·028土坑断面



第38图 RD029·030·031·032·033·034·035·036·037·038·039·040·041·042·043·044·045·046·047·048·049·050·051·052·053·054·055·056·057·058·059·060·061·062·063土坑断面



第39图 RD064·065·066·067·068·069土坑断面



第40图 RD001·011·050·054·061·062土坑出土遗物

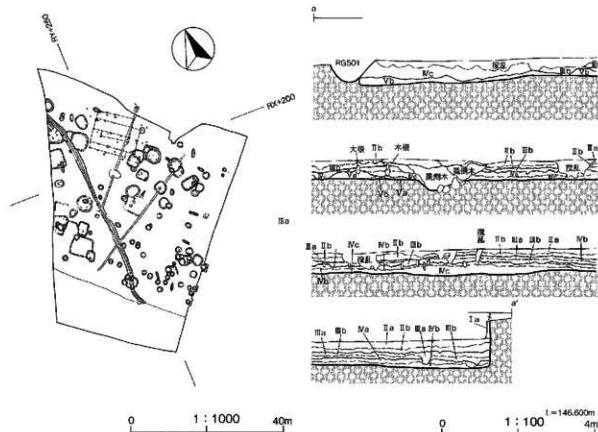
(3) 縄文時代の遺物包含層 (第41図)

葉師社脇遺跡で縄文時代以降の遺物が出土したのはⅢ層より上位の層である。各層の特徴は次の通りである。Ⅰ層-耕作土(Ⅰa層)、小角礫を多量に含む黒褐色土(Ⅰb・c・d・e層(c・d層は1cm前後の角礫を多量に含む層で、d・e層はさらに微細な角礫を含む))、礫を含まない砂質黒褐色土(Ⅱa・b層)、礫を含まない砂質暗褐色シルト層(Ⅲa・b層(Ⅲa層は砂質が強く、Ⅲb層はやや粘質な土質で、土色がⅢa層より明るい色調である))、褐色シルト層(Ⅳ層)、砂層(Ⅴ層)の大きく5層に大別される。また、当遺跡内でのボーリング調査では3~4m地表下で粘板岩の岩盤に達することが明らかにされている。

縄文早期 縄文時代早期の遺物はⅢa・b層より多量に出土している。異なる文様を施す口縁部片や底部片から推定される包含層からの出土個体数は早期各期を合わせて92個体分である。早期土器は器形・文様・口唇部・胎土などの諸特徴から大きくⅠ群(目計式併行)、Ⅱ群(白浜・小船渡平式、田ノ下層式併行)、Ⅲ群(寺ノ沢式併行)、Ⅳ群(a類-Ⅲ群土器以後の土器群、b類-物見台式併行、c類-島木沢式併行)、Ⅴ群(ムシリⅠ式併行)に分類される。

前期以降 早期以外の時期では前期初頭の千鶴Ⅰ式類似土器(Ⅵ群)、前期前葉の木木2b式類似土器(Ⅶ群)、後期と思われる土器などが出土しているが、後期土器は地文のみの土器小破片であったことから本報告では記述のみとした。

統縄文 微量であるが、Ⅰa・b層を中心に後北C₂式(Ⅷ群)・北大Ⅰ式土器(Ⅸ群)が出土している。



第41図 葉師社脇遺跡遺物包含層断面図

縄文時代早期の土器 (第42図1～第52図188)

I群 1～10はI群土器としたもので、1～9は単節斜縄文R・L・L・Rの熱りを異にする原体を交互多段に施すことにより羽状縄文としたものである。1・2・10には横位平行沈線が数条施される。胎土には石英・少量の繊維が含まれる。

II群 2～104はII群土器としたもので、栗師社遺跡で出土した早期土器を代表する土器群である。11は口唇部が外削状を呈し、体部上半が緩やかに反る深鉢である。口唇・口唇下には縦位の貝殻腹縁文を施し、横位平行沈線により横位多段の文様帯を区切る。さらに、二重の円形刺突を施し、円形刺突間を平行沈線で結ぶことにより菱形の文様が描かれる。胎土には石英・磁鉄鉱・繊維を含む。12～18は同一個体の深鉢である。口唇部は外削状を呈し、口唇には貝殻腹縁文によるγ字状の文様が描かれる。口唇下には横位平行沈線上に帯状平行沈線文を幾何学状に描き、体部には帯状平行沈線文と帯状格子目文を組み合わせた幾何学状文を描く。幾何学状文の間にはγ字状に貝殻腹縁文が充填施文される。胎土には石英・砂粒が含まれる。19は帯状平行沈線文内に刺突を施した小形深鉢の口縁部片である。20・21は平行沈線間に貝殻腹縁文を施す深鉢体部片である。22は多条の横位平行沈線と横位の爪形状刺突を施す深鉢体部下半の部位である。23は帯状格子目文による幾何学文を描く深鉢体部片であるが、格子目文を構成する横位の部分は貝殻腹縁文によるものである。胎土には多量の細かい砂粒と石英が含まれる。24・26は口唇下に縦位の短沈線を施す深鉢口縁部で、25・28は縦位の貝殻腹縁文を施すものである。27は口唇部に刻目が施され、口唇下に縦位の短沈線を施す深鉢である。体部には浅い沈線による大雑把なγ字状文が描かれ、底部は乳頭状の尖底部となる。胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱・微量の繊維が含まれる。29～31・33は同一個体の深鉢で、口唇部には刻目が施され、口唇下には縦位の貝殻腹縁文を地文に斜位の平行沈線が施される。口縁部文様帯は横位平行沈線により区画され、33の下部には沈線による幾何学状文が施される。胎土には石英・磁鉄鉱・微量の繊維が含まれる。32は帯状平行沈線による幾何学状文が施される深鉢体部下半である。胎土には石英・砂粒が含まれる。34は横位平行沈線と刺突が施される深鉢口縁部片である。35は横位平行沈線が多重に施される深鉢尖底部である。36は口縁部に貝殻腹縁文による重層山形文・重層横位平行文が施される深鉢である。主要となる文様帯には太沈線と貝殻腹縁文によるγ字状の文様が描かれ、文様内には刺突・貝殻背圧痕文が施される。胎土には石英・砂粒が含まれる。37は口唇部が外削状となり、口唇下に斜位の貝殻腹縁文を施す深鉢である。主要となる文様帯には横一縦の順に貝殻腹縁文を施し格子目状文とした文様が描かれる。下位には浅い沈線が斜位・横位に施される。胎土には石英・砂粒・微量の繊維が含まれる。38～47は口唇下に縦位・斜位の貝殻腹縁文を施す深鉢口縁部である。48～56は横位・縦位の貝殻腹縁文を施す深鉢口縁部・体部片で50・51は同一個体である。56は貝殻腹縁文で縦位の文様帯を区画する深鉢体部片である。57は上部に横位平行沈線、下部に貝殻腹縁文を羽状に施す深鉢体部である。58～69は爪形状刺突が施される深鉢で、58・59には横位平行沈線が施される。胎土は石英・砂粒を含むものが多数だが、69には繊維が含まれる。70・71は同一個体の深鉢口縁部片である。口唇部に刻目を施し、口唇下に縦位の貝殻腹縁文を施す。地文は横位の条痕で、胎土には石英・砂粒を含む。72は口唇部に刻目を施す深鉢口縁部片で、口唇下には横位の貝殻腹縁文が3条施される。地文には条痕が施され、胎土に石英・砂粒・微量の繊維が含まれる。73は地文となる横位

の条痕上に横位平行沈線を施す深鉢口縁部である。胎土には石英・砂粒・微量の繊維が含まれる。74～76は口唇下に縦位の貝殻腹縁文を施す深鉢口縁部片である。77は口唇部に刻目を施す深鉢口縁部片で、胎土には石英・砂粒・雲母・磁鉄鉱を含む。78・79・82は口唇下に縦位の貝殻腹縁文を施す深鉢で、地文には横位の条痕が施される。胎土には石英・砂粒が含まれるが、82には白色の物質が混入する。80・81・83・84は口唇部に刻目を持つ深鉢で、口唇下には横位の条痕が施される。84の胎土には繊維が含まれる。85～95は条痕が施される深鉢体部片である。胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱が含まれ、86・92・94は微量の繊維も含む。96は横位の条痕を施す深鉢体部下半で、97は斜位の条痕を施すものである。胎土には96が石英・長石・磁鉄鉱を、97は細かい石英・砂粒を多量に含むものである。98～104は深鉢尖底部である。

Ⅲ群

105～108・110・112は口唇部が外削状を呈し、口唇下に横位の刺突列を施す深鉢口縁部である。113～117は口唇部が丸・角頭状を呈するものである。105～117の胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱が含まれ、107・112・117に微量の繊維が含まれる。119～122は同一個体の深鉢で、口唇部は外削状となり、口唇下には貝殻腹縁文が縦位に施される。胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱・繊維が含まれる。123～140は貝殻腹縁文が縦位・斜位に施される深鉢体部片である。胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱が含まれ、138には繊維が含まれる。141～149・153は貝殻腹縁押引文が施されるもので、141が口縁部、142～148・153が体部片、149が底部片である。胎土には石英・砂粒・磁鉄鉱が含まれる。150は横位の貝殻腹縁文が施される深鉢底部である。

151は口唇部が外削状となり、口唇下に爪形状刺突を施したものである。地文の条痕は横位・斜位に施す。152は横位の貝殻腹縁文、斜位の条痕を施す深鉢体部片である。154～157は横位の条痕が施される深鉢体部下半である。

Ⅳ群 a類

158は口縁を折衷で狭み、口唇部を小波状とした深鉢である。口唇下には指頭凹痕が残り、下位に横位の列点文が施される。主要となる文様は横位平行沈線を多条施文し、平行沈線上に貝殻腹縁文を鋸齒状に施すものである。地文は横位の条痕である。胎土には多量の細かい石英粒と微量の繊維が含まれる。159・160は同一個体の深鉢で口唇部に刻目を施し、器面には横位の貝殻腹縁文を単体で施す。胎土は158と極めて近似している。161・162は同一個体の深鉢口縁部片で、口唇部は平頭状を呈し、器面には縦位の貝殻腹縁文を施す。図示していないが内面は横位の条痕が施される。胎土には砂粒が含まれる。163は口唇部に太い刻目が施される深鉢で、口唇部は刻目により形状が様々ではないが部分的に外削状を呈する箇所がある。口唇下には斜位の貝殻腹縁文が施され、さらに指頭凹痕が並列して施される。胎土には石英・砂粒・雲母・繊維を含むなどⅡ・Ⅲ群土器と異なる。164は口縁部が波状となる深鉢である。口唇下に縦位の貝殻腹縁文を施し、下位には横位の貝殻腹縁文を施すものである。165は横位の貝殻腹縁文を施す深鉢体部片である。164・165は同一個体と思われ、胎土には石英・赤色のスコリア粒を含む。166は羽状に貝殻腹縁文を施す深鉢口縁部で、胎土には石英・砂粒・スコリア粒・繊維を含む。167は波状貝殻腹縁文を施す深鉢体部片で、胎土には石英・砂粒を含む。168は貝殻腹縁による押引文を施す深鉢体部片で、胎土には細かい石英・砂粒・スコリア粒を含む。169は口唇部が平頭状を呈し、口唇下に縦位の貝殻腹縁文を施す深鉢口縁部片である。胎土には粗い砂粒・赤色のスコリア粒を含む。170は器面内外に横位の条痕を、口唇部に鋸齒状凹痕を施す深鉢口縁部片で、胎土には石英・砂粒・雲母・微量の繊維を含む。

b類 171は沈線による幾何学文を描き、幾何学文に沿うように貝殻腹線文を施す。文様の端部には刺突が施される。胎土には砂粒を含み器面は丁寧なミガキ調整がされる。

c類 172～178は2条1組の浅い平行沈線で幾何学文を描く深鉢で、文様の間に列点文を施す。胎土には石英・砂粒・雲母・微量の繊維を含み、172・174などは胎土・焼成の具合が、後述するV群土器に近似する。

V群 179～188は内外面に糸痕を施し、器面に沈線による斜位・格子目状の文様を描く深鉢である。胎土には石英・砂粒・雲母・微量の繊維を含む。

縄文時代前期の土器（第52図189～195）

VI群 189～194は同一個体の深鉢で、原体汗痕による縞手文と刺突が施される。体部には結束のない羽状縄文が施され、胎土には石英・砂粒・繊維が含まれる。

VII群 195は口縁部に隆帯を持ち、隆帯に刻目を施す平底の深鉢である。体部には「S字状連鎖糸文」が施される。胎土には石英・砂粒・繊維が含まれる。

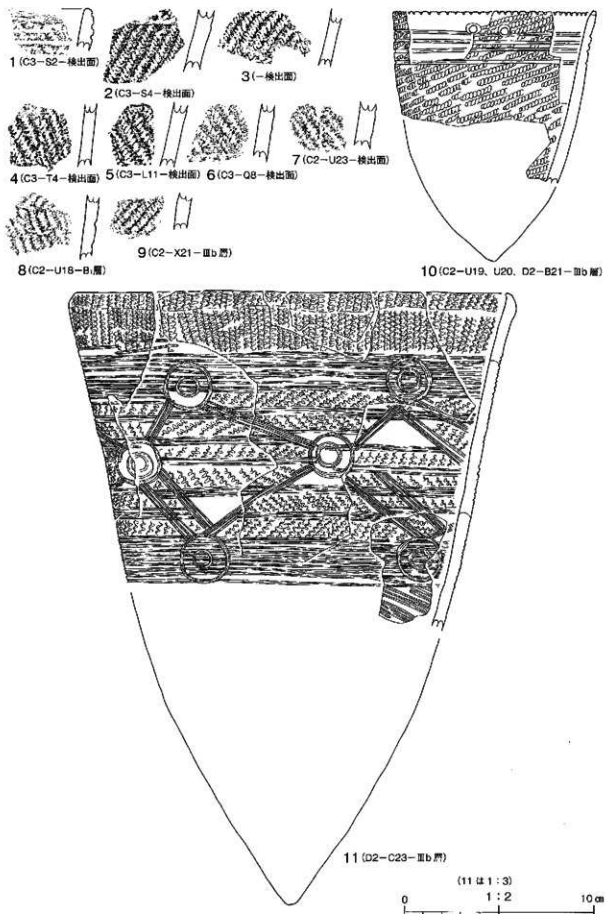
縄文時代の土器（第53図196～199）

VIII群 196は横位・斜位の帯状縄文が施される深鉢体部片で、帯状縄文に沿うように刺突が施される。胎土には石英・砂粒が含まれ、器面には炭化物が付着する。

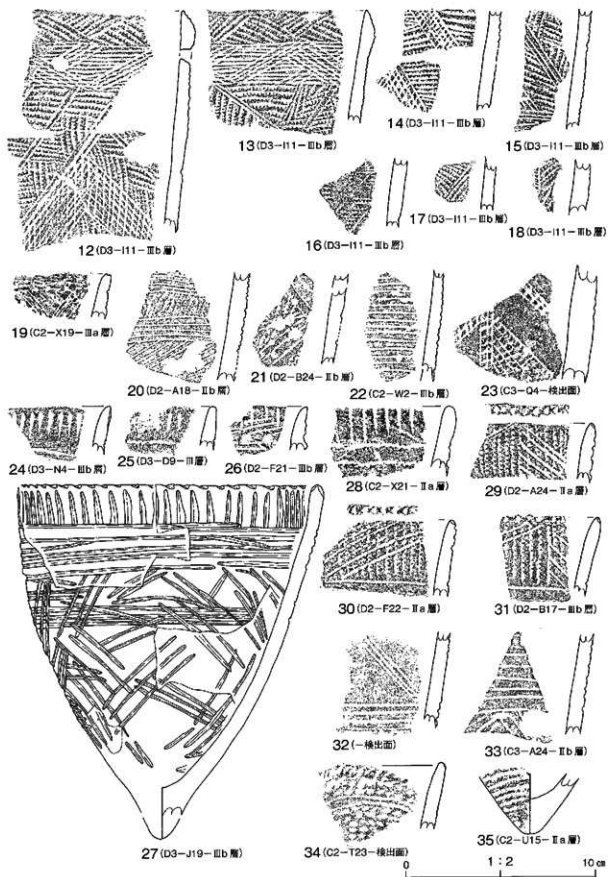
IX群 197～199は同一個体と思われる深鉢である。197・198は横位の微隆起縄文を施す口縁部付近の破片で、器面には白色の化粧土が塗られる？。胎土には石英・砂粒・海綿骨針が含まれる。199は底部片である。

石器（第53図200～207）

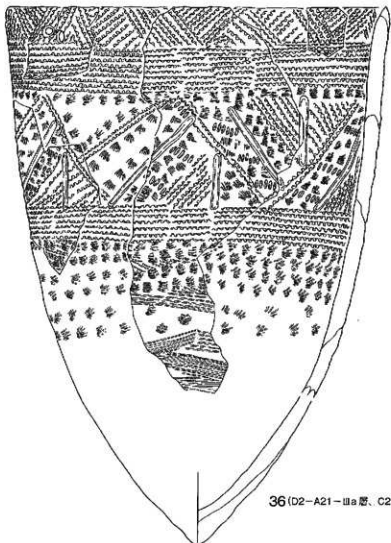
200は頁岩製の石鏃、201～203は削器で片側縁に刃部調整が施される。204～207は石筥で、207は刃部が欠損するものである。石材は全て頁岩である。



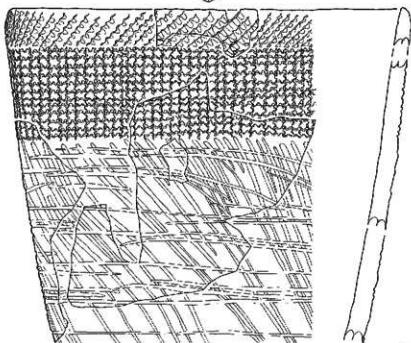
第42圖 遺物包含層出土遺物(1)



第43図 遺物包含層出土遺物 (2)



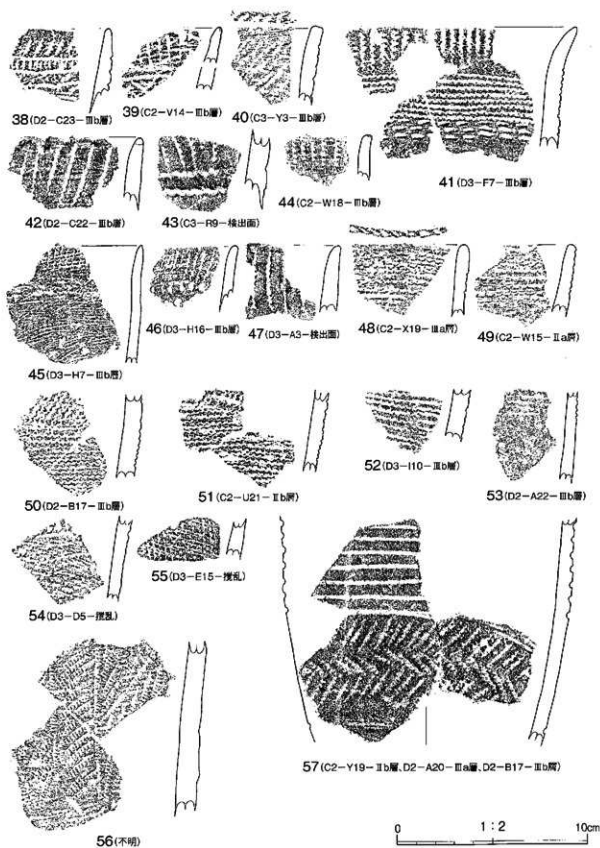
36 (D2-A21-Ⅲa層、C2-Y21-Ⅲb層)



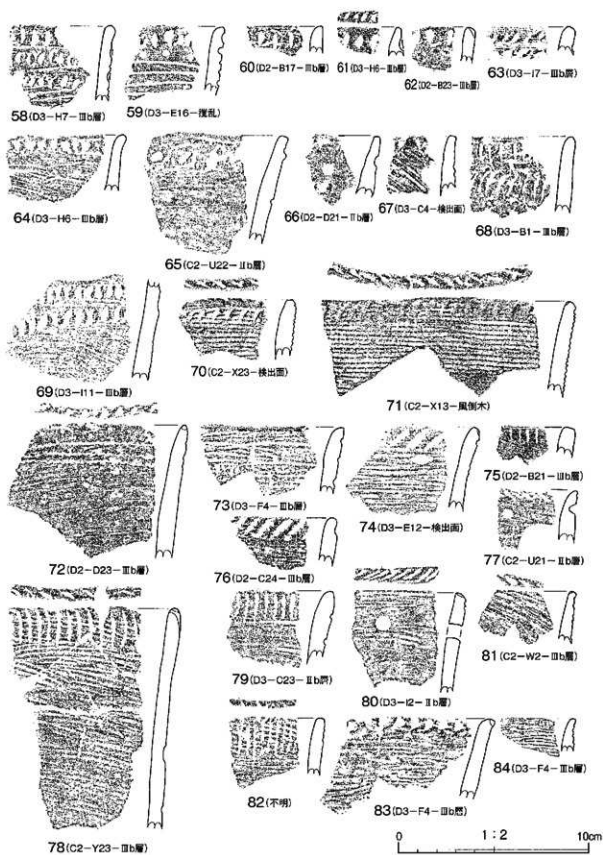
37 (D2-B17、C21、F22-Ⅲb層)

0 1:2 10 cm

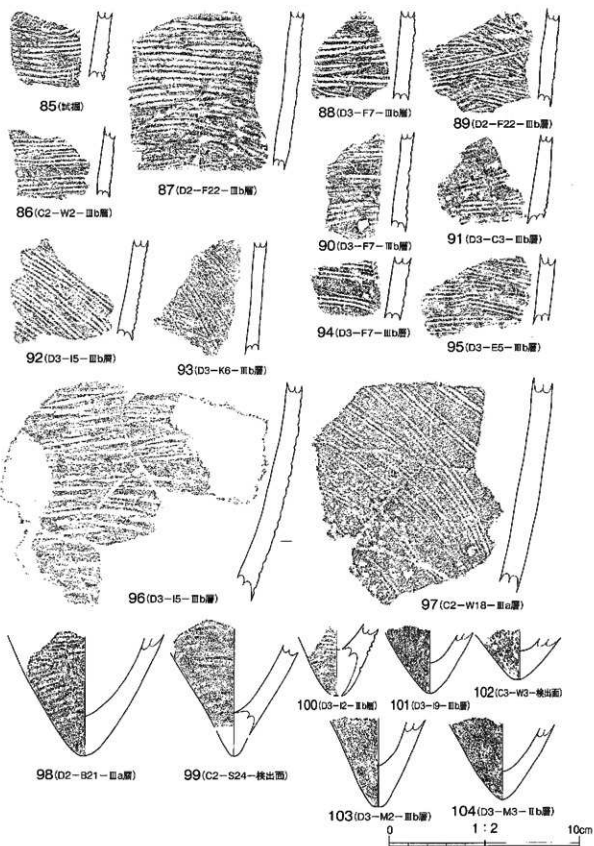
第44圖 遺物包含層出土遺物(3)



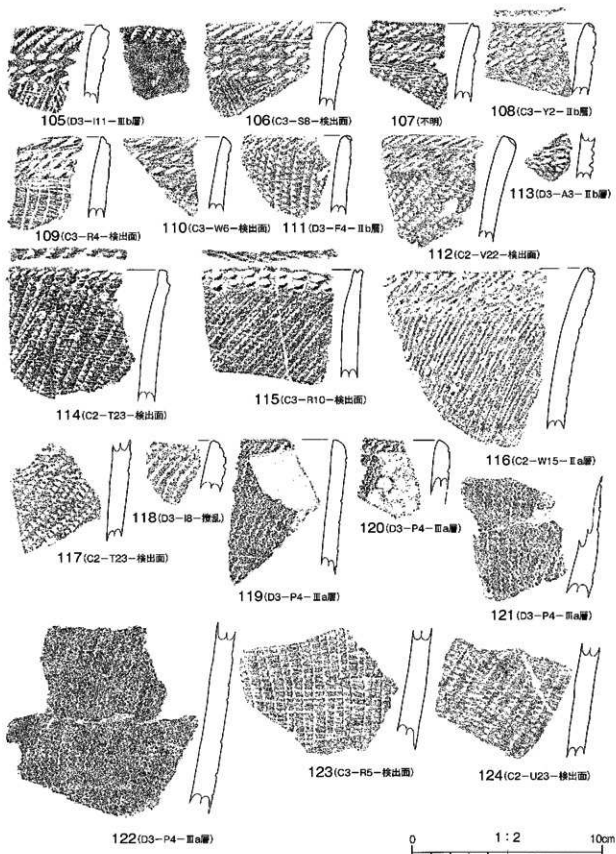
第45圖 遺物包含層出土遺物(4)



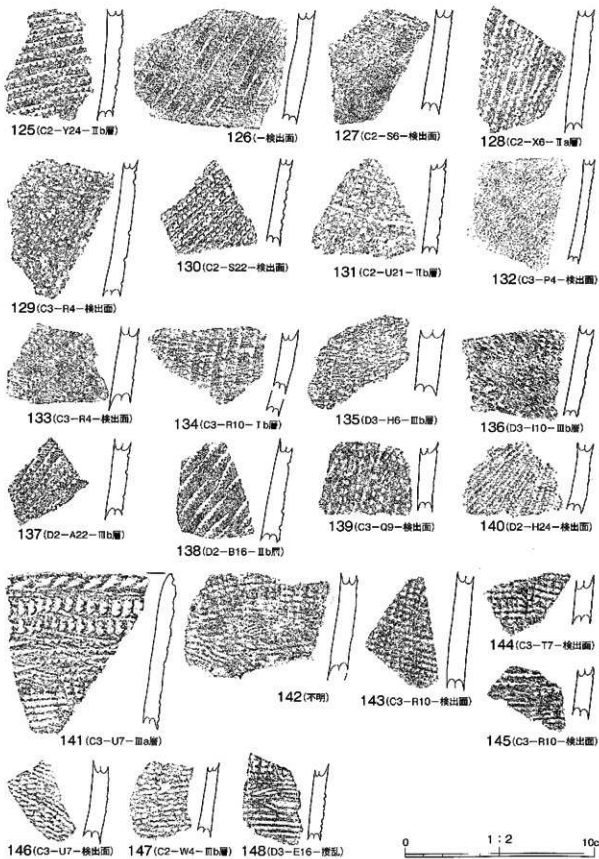
第46図 遺物包含層出土遺物(5)



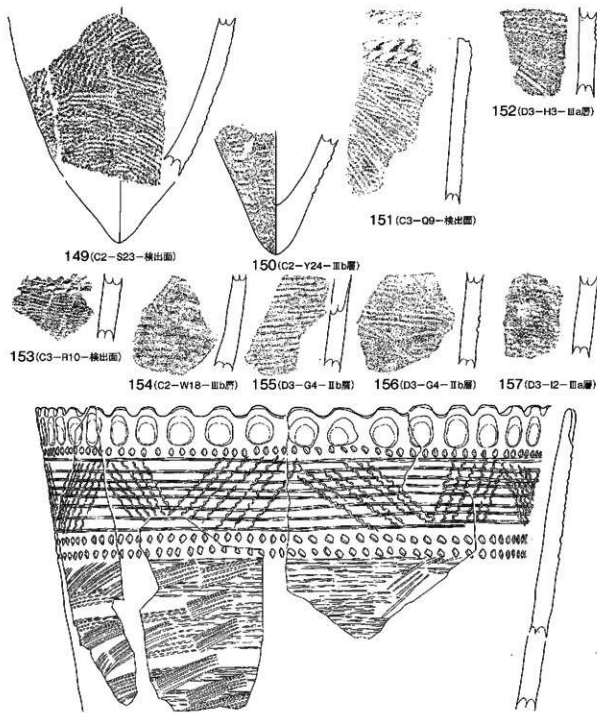
第47図 遺物包含層出土遺物 (6)



第48図 遺物包含層出土遺物(7)

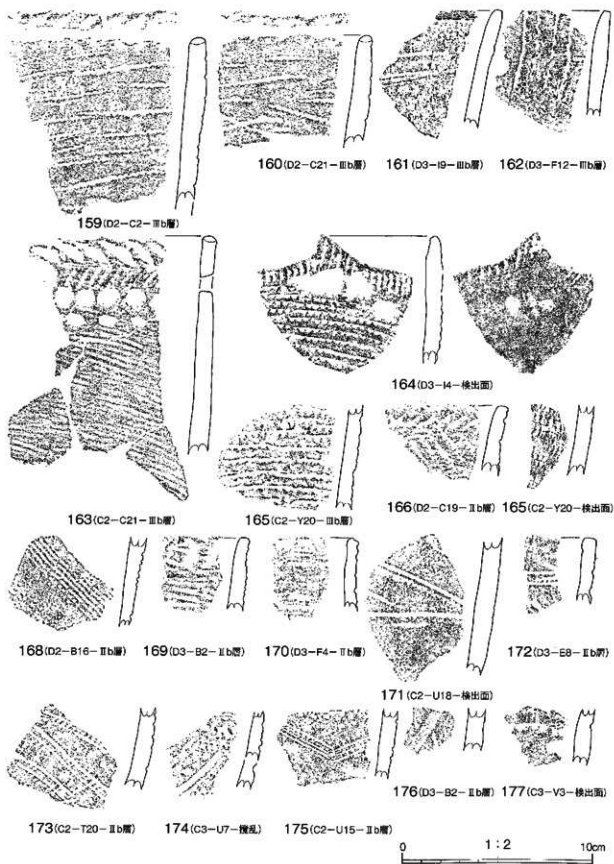


第49図 遺物包含層出土遺物(8)

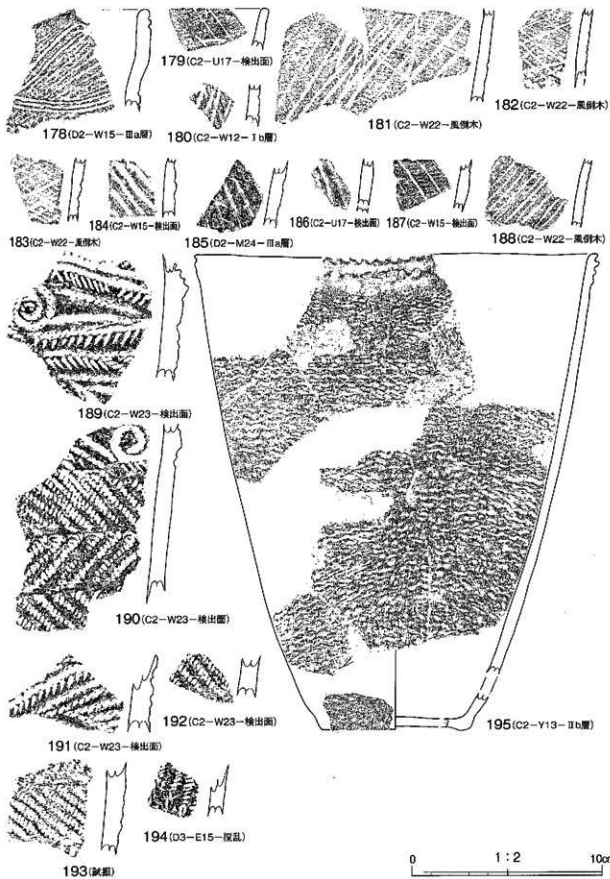


0 1:2 10cm

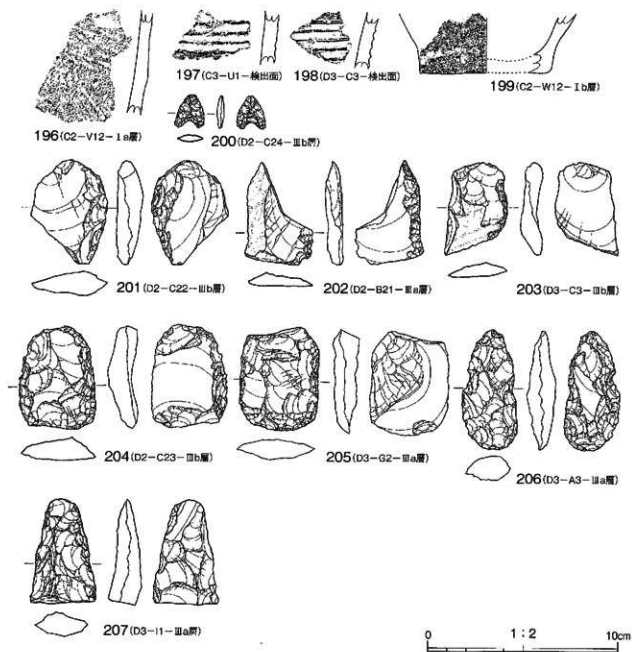
第50図 遺物包含層出土遺物 (9)



第51図 遺物包含層出土遺物 (10)



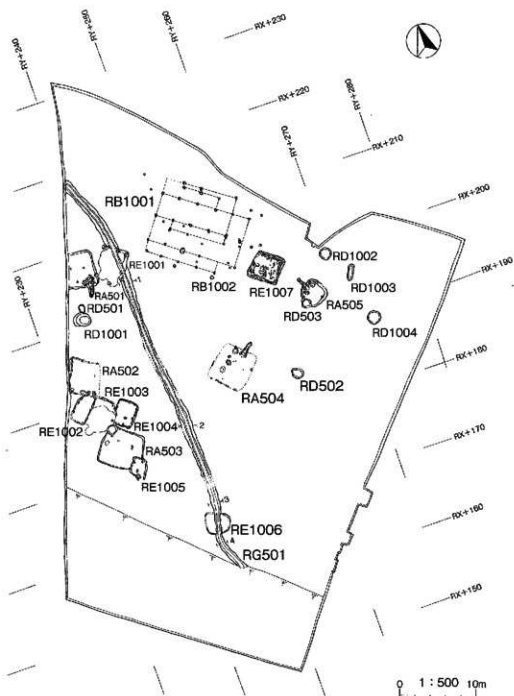
第52図 遺物包含層出土遺物 (11)



第53図 遺物包含層出土遺物 (12)

4 平安時代以降の遺構・遺物（第54図～第72図）

検出状況 栗師社脇遺跡第6次発掘調査では平安時代の竪穴住居跡5棟（RA501～505）・土坑3基（RD501～503）・溝跡1条（RG501）、中世の竪穴建物跡（RE1001～1007）・掘立柱建物跡2棟（RB1001・1002）・土坑4基（RD1001～1004）が検出されている。多くは後世の擾乱により部分的にしか残存していない（第54図）。



第54図 平安時代以降の遺構配置図

(1) 平安時代の竪穴住居跡・土坑・溝跡 (第55図～64図)

RA501 竪穴住居跡 (第55図)

位置	C2区	平面形	方形
規模	南北上端4.73m・下端4.29m、東西上端3.53m以上・下端3.30m以上、深さ0.35m		
検出面	IIb層上面		
埋土	自然堆積による。A～C層に大別される。 A層ー A ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする。微量の炭化物を含む。 B層ー B ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする層で、炭化物と焼土粒を含む。 C層ー C層は黒褐色土を主体とする層で、崖面からの崩壊土（褐色シルト）の混入量により4層に細分される。		

壁の状態 外傾して立ち上がる。カマド 礎を芯材とする 床面の状態 平坦

遺物の出土状況 床面より人為的に破壊した甕（第55図床面2～5）や耳皿（第55図床面1・6）が検出された。

出土遺物（第60図1・2、第61図3～12） 1はあかやきの丸胴甕である。最大径のある肩部から体部下半にかけて格子目文様のタタキ痕が残され、下半は縦位のケズリ調整により消される。内面には布？状のアテ工具痕が残される。2は土師器甕である。ロクロ整形後、外面ケズリ、内面ユビナデ調整される。3・4はロクロ整形によるあかやき坏である。5・7は耳皿で7は上部が欠損する。8・9は須恵器短頸甕で8には人為による破壊痕が残される。8の体部に残された打撃痕の衝撃は、内面に放射状の剥離痕となって残される。10は土師器小形甕、11は高台付坏の底部、12はあかやき坏？底部である。

RA502 竪穴住居跡 (第56図)

位置	C3区	平面形	方形
規模	南北上端4.66m・下端4.47m、東西上端4.05m以上・下端4.00m以上、深さ0.16m		
検出面	IV層上面		
埋土	自然堆積による。A～D層に大別され、D層は構築土である。 A層ー A ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする。 B層ー B ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする層で、炭化物と焼土粒を含む。 C層ー C層はシルト質の黒褐色土を主体とする層で、多量の焼土・炭化物を含む。		
壁の状態	外傾して立ち上がる。カマド 礎を芯材とする		床面の状態 平坦
出土遺物（第62図1～5）	1はロクロ整形によるあかやき坏である。2～4はロクロ整形による内面ミガキ・黒色処理される土師器坏である。5はロクロ整形による土師器小形甕である。		

R A 503 竪穴住居跡 (第57図)

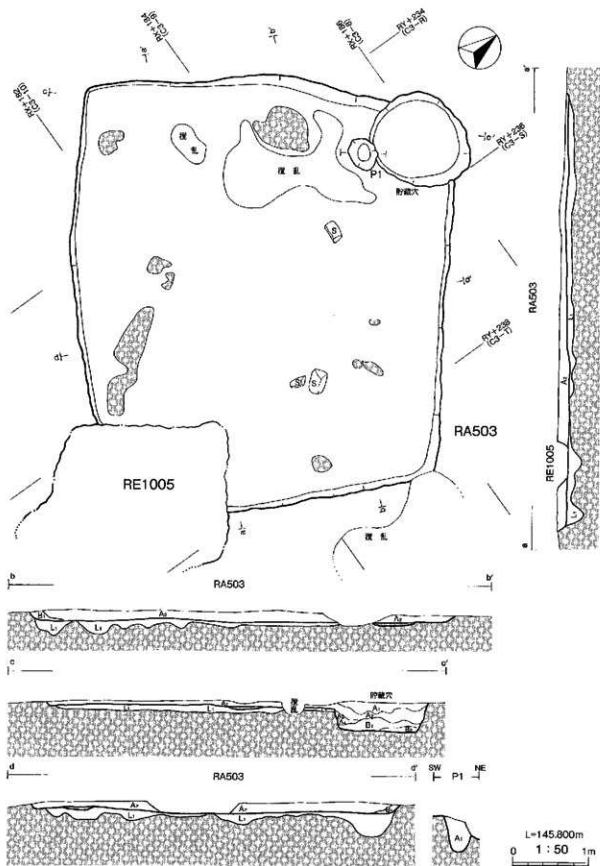
位置	C 3区	平面形	方形
規模	北西-南東上端5.73m・下端5.54m、北東-南西上端4.88m・下端4.75m、深さ0.14m		
検出面	V層上面		
埋土	自然堆積による。A・B層に大別される。 A層- A ₁ 層は黒褐色土を主体とする。 B層- B ₁ 層は黒褐色土を主体とする層で、塊状の褐色シルトを含む。		
壁の状態	外傾して立ち上がる。カマド 削平 床面の状態 平坦		
出土遺物 (第62図 6・7)	6・7はロクロ整形による内面ミガキ・黒色処理される土師器坏である。		

R A 504 竪穴住居跡 (第58図)

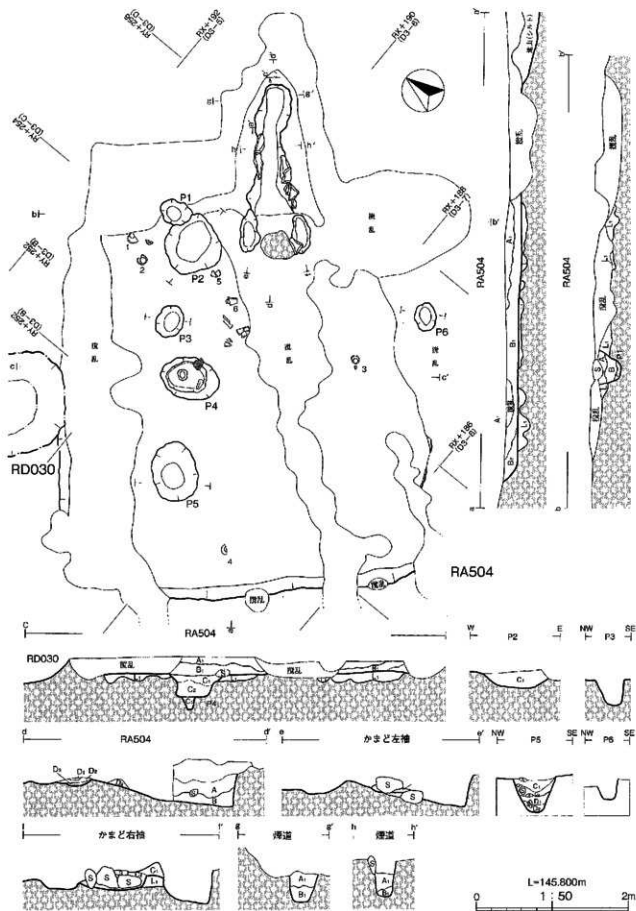
位置	D 3区	平面形	方形
規模	北東-南西上端5.25m・下端5.10m、南東-北西上端4.92m・下端4.72m、深さ0.24m		
検出面	II b層上面	埋土	自然堆積による。A～C層に大別される。 A層- A ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする。微量の炭化物を含む。 B層- B ₁ 層はシルト質の黒褐色土を主体とする層で、炭化物と焼土粒を含む。 C層- C層は黒褐色土を主体とする層で、床面を掘込むピット内に堆積する。
壁の状態	外傾して立ち上がる。カマド 礫を芯材とする 床面の状態 平坦		
出土遺物 (第62図 8～16)	8・9・11・12はロクロ整形によるあかやき坏、10は須恵器坏である。13・14はロクロ整形による内面ミガキ・黒色処理される土師器坏である。15はロクロ整形による土師器鉢で底部を欠く。16はロクロ整形による土師器小形甕である。		

R A 505 竪穴住居跡 (第59図)

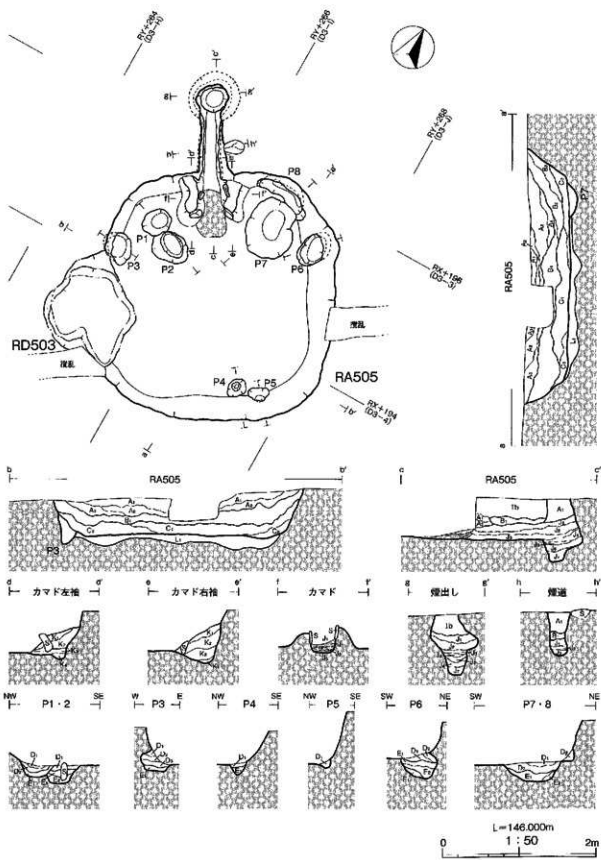
位置	D 3区	平面形	方形
規模	北西-南東上端3.25m・下端2.76m、南西-北東上端2.82m・下端2.40m、深さ0.53m		
検出面	II a層上面	埋土	自然堆積による。A～C層に大別される。 A層- A層は黒褐色土を主体とする。白色火山灰の混入量により4層に細分され、A ₂ 層に最も混入する。 B層- B層はシルト質の黒褐色土を主体とする層で、暗褐色土・褐色シルトの混入量により3層に細分される。 C層- C層は黒褐色土を主体とする層で、暗褐色土・褐色シルトと少量の焼土・炭化物を含む層である。層は壁面からの崩壊土と思われる褐色シルトの混入量により細分した。
壁の状態	外傾して立ち上がる。カマド 礫を芯材とする 床面の状態 平坦		
出土遺物	図示していないが、カマド燃焼部より土師器甕の体部破片が出土した。		



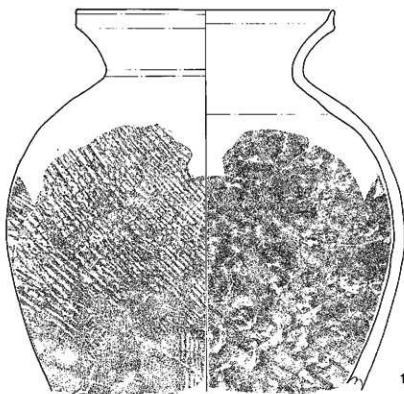
第57図 RA503竪穴住居跡



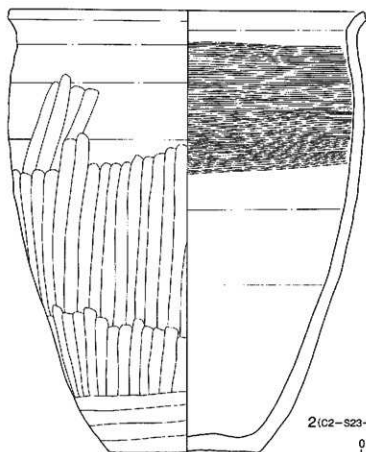
第58図 RA504竝穴住居跡



第59図 RA505 竪穴住居跡



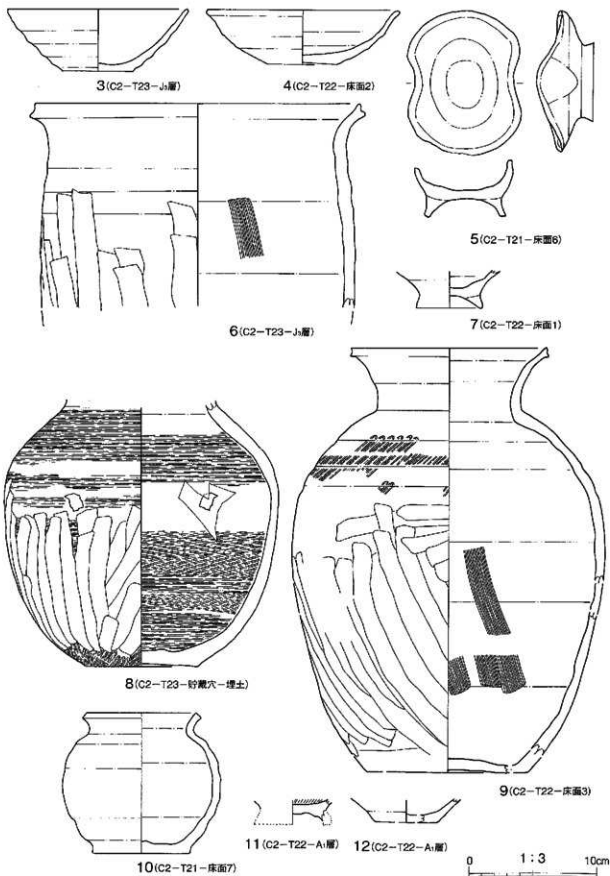
1 (C2-S23-床面5)



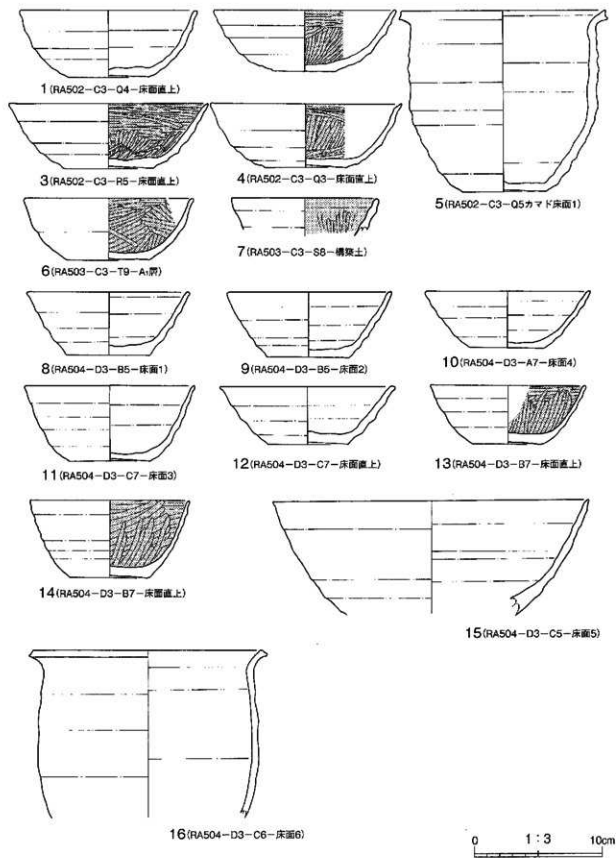
2 (C2-S23-床面4)

0 1:3 10cm

第60図 RA501 竪穴住居跡出土遺物 (1)



第61図 RA501 竪穴住居跡出土遺物 (2)



第62図 RA502・503・504竪穴住居跡出土遺物

R D 501土坑 (第63回)

位置	C 2区	平面形	楕円形
規模	長軸上端1.12m・下端0.90m、短軸上端0.84m・下端0.69m、深さ0.32m		
検出面	II a層上面		
埋土	自然堆積による。A～C層に大別され、A・B層は2層に細分される。 A層－ A層は黒褐色土を主体とする。白色火山灰の混入量により2層に細分される。 B層－ B層は黒褐色土を主体とする層で、暗褐色土混入量により2層に細分される。 C層－ C層は黒褐色土を主体とする層で、褐色シルトが混入する。		
壁の状態	外傾して立ち上がる。底面 平坦 遺物 なし		

R D 502土坑 (第63回)

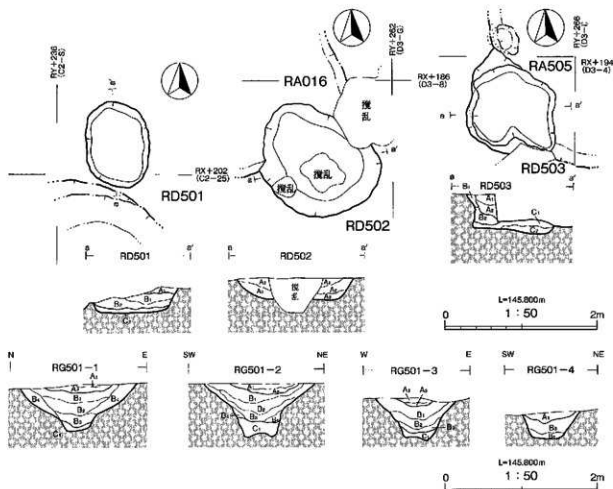
位置	D 3区	平面形	不整形円形
規模	長軸上端1.65m・下端1.34m、短軸上端1.10m・下端0.87m、深さ0.28m		
検出面	IV a層上面 埋土 A層は黒褐色土を主体に、白色火山灰の混入量で3層に細分される。		
壁の状態	外傾して立ち上がる。底面 平坦		
遺物 (第72回 1)	1は「大聖元寶」である。A 2層より出土したものであるが、混入の可能性がある。		

R D 503土坑 (第63回)

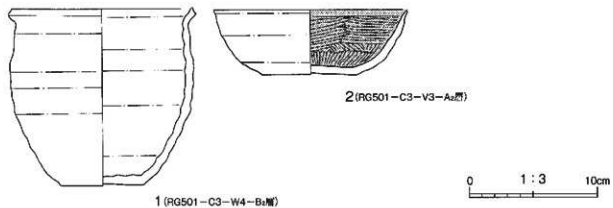
位置	D 3区	平面形	不整形円形	重複関係	R A 505を切る
規模	長軸上端1.65m・下端1.34m、短軸上端1.10m・下端0.87m、深さ0.28m				
検出面	R A 505堅穴住居跡の精査中に確認されたもので、R A 505埋土を掘り込む。				
埋土	人為堆積による。各層は2層に細分される。 A層－ 黒褐色土を主体とする。褐色シルトを含む。 B層－ 褐色シルト・暗褐色シルトを主体に塊状の黒褐色土を含む。 C層－ 黒褐色土を主体とし、小塊状の褐色シルトを含む。				
壁の状態	中段で肩出する。底面 平坦 遺物 なし				

R G 501溝跡 (第54回・第63回)

位置	C 2・C 3区	平面形	溝状
規模	検出された総延長56.9m、最大幅上端1.52m・下端0.45m、深さ0.65m		
検出面	II a層上面 壁の状態 V字状を呈する 底面 平坦		
埋土	自然堆積による。A～C層に大別され、A層は2層、B層は4層に細分される。 A層－ A層は黒褐色土を主体とする。白色火山灰の混入量により2層に細分され、A ₂ 層に最も混入する。 B層－ 黒褐色土を主体とする層。砂質褐色シルトの混入量により層を細分した。 C層－ 暗褐色土と砂質褐色シルトを主体とする層。		
遺物 (第64回 1・2)	1はロクロ整形による土師器小形甕である。2はロクロ整形による土師器杯で、内面はミガキ調整が施され、黒色処理される。		



第63図 RD501・502・503土坑・RG501溝跡土層断面



第64図 RG501溝跡出土遺物

(2) 中世の掘立柱建物跡・竪穴建物跡・土坑 (第65図～72図)

RB1001掘立柱建物跡 (第65図)

位置 C2・D2区 平面形 母屋桁行4間、梁間1間。南側に庇がつく。

規模 母屋南北1間 (5.15m・17尺)、東西4間 (9.6m・31尺7寸)、庇桁行3間 (7.2m・23尺8寸)

柱間寸法 柱間寸法は柱穴の底面中央を計測基準点とした。各柱穴の計測値は次の通りである。P1・2間 (2.4m・7尺9寸)、P4・5間 (2.3m・7尺6寸)、P5・6間 (2.4m・7尺9寸)、P6・7間 (2.5m・8尺3寸)、P7・8間 (2.4m・7尺9寸)、P3・8間 (5.15m・17尺)、P5・9間 (1.2m・4尺)、P8・11間 (1.0m・3尺3寸)、P9・10間 (2.4m・7尺9寸)

柱穴 全ての柱穴に柱痕跡が認められ、A層とした柱痕跡は黒褐色土を主体に多量の炭化物が含まれる層で、B層は褐色シルト・黒褐色土の混合土で硬く締まる層である。

遺物 なし

RB1002掘立柱建物跡 (第65図)

位置 D2区 平面形 母屋桁行5間、梁間1間。南北に庇がつく。

規模 母屋南北1間 (6.3m・20尺8寸)、東西5間 (11.8m・39尺)、北庇桁行2間 (5.1m・16尺8寸)
南庇桁行4間 (9.3m・30尺7寸)

柱間寸法 柱間寸法は柱穴の底面中央を計測基準点とした。各柱穴の計測値は次の通りである。P1・2間 (2.3m・7尺6寸)、P2・3間 (2.5m・8尺3寸)、P3・4間 (2.5m・8尺3寸)、P4・5間 (2.4m・7尺9寸)、P7・8間 (2.3m・7尺6寸)、P8・9間 (2.5m・8尺3寸)、P9・10間 (2.3m・7尺6寸)、P1・7間 (6.3m・21尺1寸)、P6・11間 (6.7m・22尺1寸)、P15・16間 (2.0m・6尺6寸)、P16・17 (2.4m・7尺9寸)、P17・18間 (2.5m・8尺3寸)、P18・19間 (2.5m・8尺3寸)、P7・15間 (1.5m・5尺)、P2・12間 (1.5m・5尺)、P12・13間 (2.4m・7尺9寸)、P13・14間 (2.4m・7尺9寸)、P14・4間 (1.5m・5尺)

柱穴 P11・15以外の柱穴に柱痕跡が認められ、A層とした柱痕跡には黒褐色土を主体とする層が確認され、B層は褐色シルト・黒褐色土の混合土で硬く締まる層であった。

遺物 (第72図7～17) RB1001・1002掘立柱建物跡が検出されたD2-C22グリッド及び周辺より集中して貨幣が出土している。7は「嘉祐通寶」、8・17は「開元通寶」、9・16は「熙寧元寶」、10～12は「永樂通寶」、13は「紹興通寶」、14は「祥符元寶」、15は「洪武通寶」である。

RE1001竪穴建物跡 (第66図)

位置 C2区 平面形 方形

規模 北西-南東上端5.10m以上・下端4.92m以上、東北-西南上端3.70m以上・下端3.63m以上、深さ0.12m

検出面 II b層上面 埋土 自然堆積による。A～C層に大別され、B・C層は柱穴掘土である。

A層- A₁層は黒褐色土を主体とする。微量の炭化物を含む。

B層- B₁層は黒褐色土を主体とする層で、炭化物と焼土粒を含む。

C層- C層は暗褐色土を主体とする層で、塊状の褐色シルトを多量に含む。

壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 4.7m×3.2mの範囲で硬く締まる面が確認されている。

柱 穴 床面よりP1～6の柱穴が検出されている。 遺 物 なし

RE1002竪穴建物跡 (第66図)

位 置 C3区 平面形 方形

規 模 北西-南東上端2.10m以上・下端1.98m以上、東北-西南上端2.15m・下端1.94m、
深さ0.19m

検出面 IIIb層上面

埋 土 自然堆積による。A～C層に大別され、B層は2層に細分される。C層は壁柱穴埋土である。

A層- A層は黒褐色土を主体とする。微量の炭化物を含む。

B層- B層は黒褐色土を主体とする層で、粒状の暗褐色土を含む。

C層- C層は褐色シルトを主体とする層で、小塊状の黒褐色土を含む。

壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 平坦

柱 穴 床面よりP1、壁面下より小柱穴が検出されている。 遺 物 なし

RE1003竪穴建物跡 (第67図)

位 置 C3区 平面形 方形 重複関係 RE1004を切る

規 模 北東-南西上端1.02m以上・下端0.90m以上、東南-西北上端3.19m・下端3.03m、
深さ0.19m

検出面 IIIb層上面

埋 土 自然堆積による。A～C層に大別され、C層は壁柱穴(周溝)にも流入する。

A層- A層は黒褐色土を主体とする。

B層- B層は黒褐色土を主体とする層で、粒状の暗褐色土を含む。

C層- C層は黒褐色土を主体とする層で、小塊状の黒褐色土を含む。

壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 平坦

柱 穴 壁面下より小柱穴(周溝)が検出されている。 遺 物 なし

RE1004竪穴建物跡 (第67図)

位 置 C3区 平面形 方形 重複関係 RE1001に切られる。

規 模 北東-南西上端3.43m・下端3.18m、東南-西北上端2.76m・下端2.57m、
深さ0.09m

検出面 IIIb層上面

埋 土 自然堆積による。A～C層に大別され、B・C層は柱穴・椀柱穴(周溝)の埋土である。

A層- A層は黒褐色土を主体とする。

B層- B層は黒褐色土を主体とする層で、粒状の褐色シルトを含む。

C層- C層は褐色シルトを主体とする層で、小塊状の暗褐色土を含む。

壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 平坦

柱 穴 P1～9が検出されており、壁面下より小柱穴(周溝)が検出されている。

RE1005竪穴跡 (第68図)

- 位置 C3区 平面形 張り出しのある方形 重複関係 RA503を切る。
規模 長軸上端2.35m・下端2.07m、短軸上端2.04m・下端1.66m、深さ0.19m
検出面 IIb層上面 埋土 自然堆積による。A・B層に大別され、B層は柱穴の埋土である。
A層- A層は黒褐色土を主体とする。炭化物・褐色シルトの混入量により3層に細分した。
B層- B層は黒褐色土を主体とする層で、粒状の褐色シルトを含む。
壁の状態 外傾して立ち上がる。床面の状態 平坦
柱穴 P1~7が検出されている。
遺物 (第71図1・2) 1はてづくねによるかわらけである。2はロクロ整形によるあかやき坏である。
1・2とも小破片からの岡上復元である。

RE1006竪穴跡 (第68図)

- 位置 C3区 平面形 張り出しのある方形 重複関係 RD020・021を切る。
規模 長軸上端3.06m・下端2.87m、短軸上端2.85m・下端2.69m、深さ0.14m (中心部0.48m)
検出面 IIb層上面 埋土 自然堆積による。A~C層に大別され、A・B層は2層に細分される。
A層- A層は黒褐色土を主体とする。炭化物・褐色シルトの混入量により3層に細分した。
B層- B層は黒褐色土を主体とする層で、粒状の褐色シルトを含む。
壁の状態 外傾して立ち上がる。床面の状態 平坦であるが、中心部が深く掘り込まれる。
遺物 なし

RE1007竪穴建物跡 (第69図)

- 位置 D2・D3区 平面形 方形 重複関係 RA013を切る。
規模 北西-南東上端3.83m・下端3.58m、東北-西南上端3.59m・下端3.22m、深さ0.12m
検出面 IIb層上面 埋土 自然堆積による。A~D層に大別され、B~D層は柱穴の埋土である。
A層- A層は黒褐色土を主体とする。多量の炭化物・焼土が混入し、A₂・A₃層は焼土の混入量がA1層より多い。
B層- B層は炭化物を多量に含む黒褐色土を主体とする層である。
C層- 褐色シルト・黒褐色土による混合土で硬く締まる。
壁の状態 外傾して立ち上がる。
床面の状態 平坦。床面に多量の炭化材・焼土(壁?)が検出されたことから焼失した建物であることが考えられる。
柱穴 P1~9が検出されている。壁下には礎石等に伴うものと考えられる2~3条の小柱穴列(周溝)が確認された。
遺物 図示していないが須恵器?甕の小破片が周溝埋土より1点出土した。

RD1001土坑 (第70図)

- 位置 C2区 平面形 不整楕円形
規模 長軸上端2.37m・下端1.72m、短軸上端1.34m・下端0.89m、深さ0.62m

検出面 II a層上面

埋土 人為堆積による。

A層- 黒褐色土を主体とする。褐色シルトを含み、多量の円礫を含む。

B層- 粘質の褐色シルトを主体とする。

C層- 硬く締まる黒褐色土を主体とする

壁の状態 西側が緩やかな立ち上がりとなる。 底面 起伏する。

遺物(第71図3・4) 3はロクロ整形による土師製の小形坏で、4はあかやき坏底部である。ともに小破片からの図上復元である。

RD1002土坑(第70図)

位置 D3区 平面形 不整形円形 規模 上端1.62m・下端1.23m、深さ0.63m

検出面 II a層上面

埋土 人為堆積による。

A層- 黒褐色土を主体とする。

B層- 黒褐色土と黒色土の混合土。

C層- 黒褐色土と砂質褐色シルトの混合土を主体とする

壁の状態 ほぼ直壁 底面 平坦

遺物(第72図2・3) 2は「永楽通寶」で、3は文字が摩滅しているため不明である。

RD1003土坑(第70図)

位置 D3区 平面形 長方形

規模 長軸上端2.12m・下端1.93m、短軸上端0.68m・下端0.39m、深さ0.66m

検出面 II a層上面

埋土 人為堆積による。

A層- 黒褐色土を主体とする。粒状褐色シルトの混入量により3層に細分される。

壁の状態 ほぼ直壁 底面 平坦 遺物 なし

RD1004土坑(第70図)

位置 D3区 平面形 円形

規模 上端1.74m・下端1.42m、深さ0.32m 検出面 II a層上面

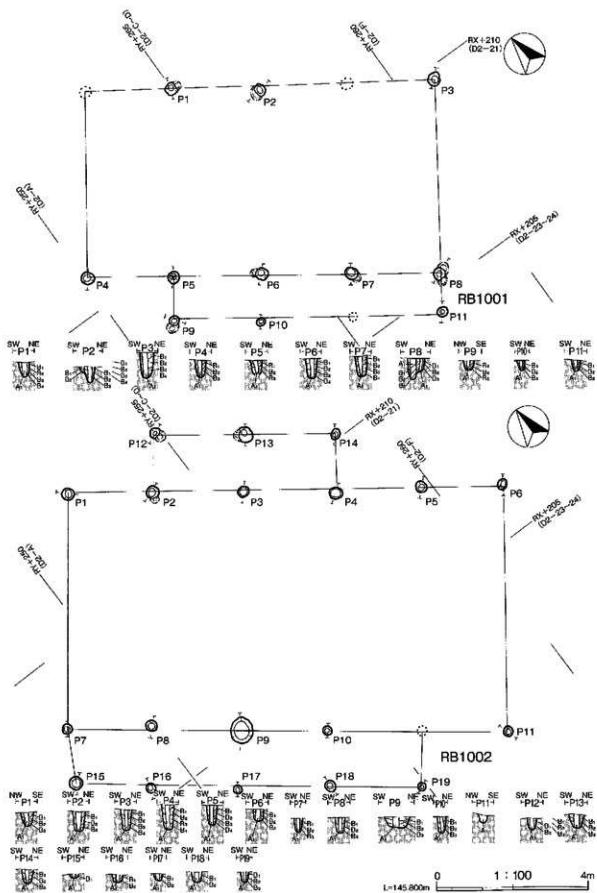
埋土 人為堆積による。A・B層に大別される。

A層- 黒褐色土を主体とする。炭化物の混入量により3層に細分される。

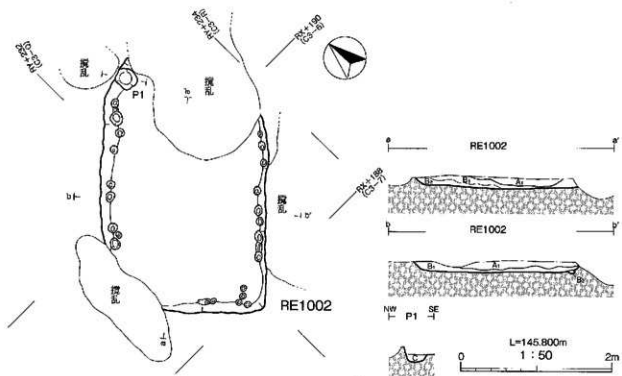
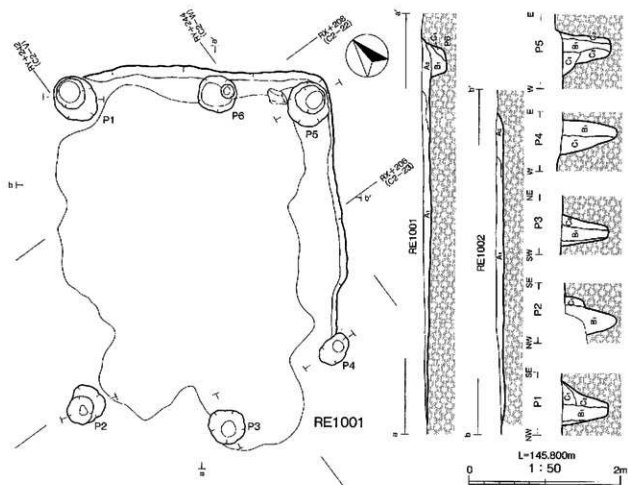
B層- 暗褐色土・褐色シルト・黒褐色土の混合土による。B₂層には炭化物が含まれる。

壁の状態 ほぼ直壁 底面 平坦

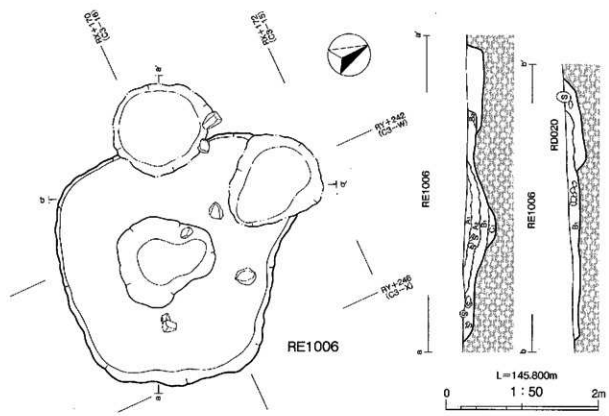
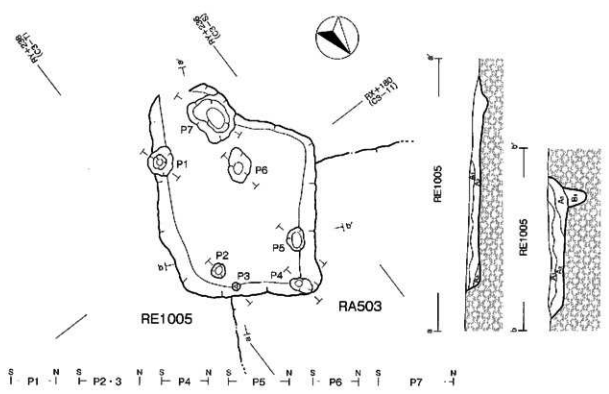
遺物(第72図4~6) 4は「至和通寶」、5は「治平元寶」、6は「永楽通寶」である。



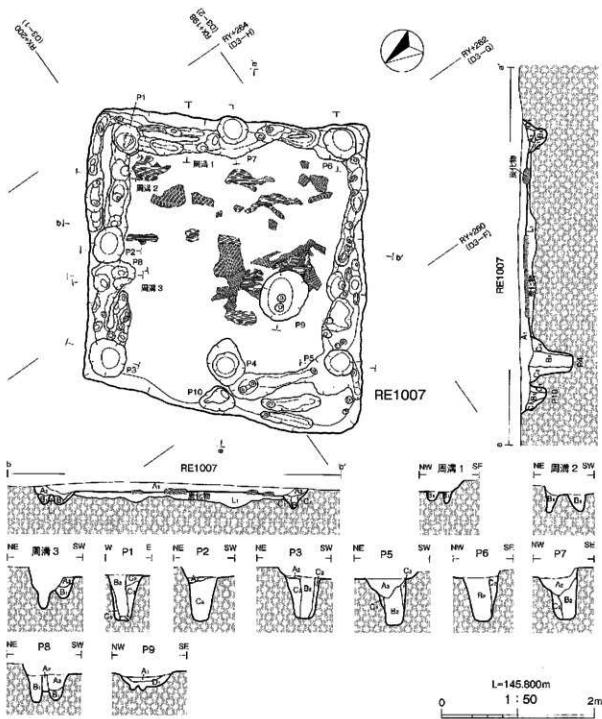
第65圖 RB1001・1002獨立柱建物跡



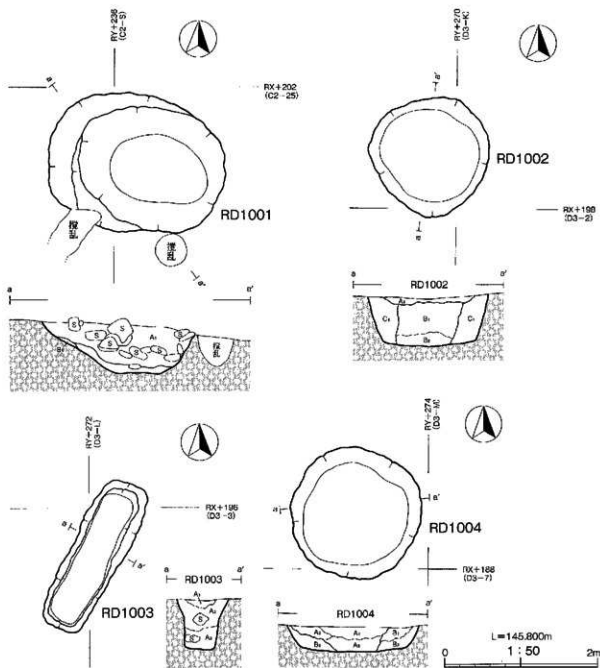
第66圖 RE1001・1002竪穴建物跡



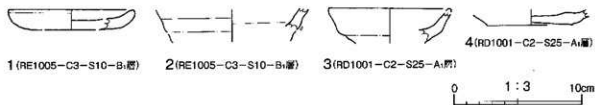
第68图 RE1005竖穴跡・1006竖穴建物跡



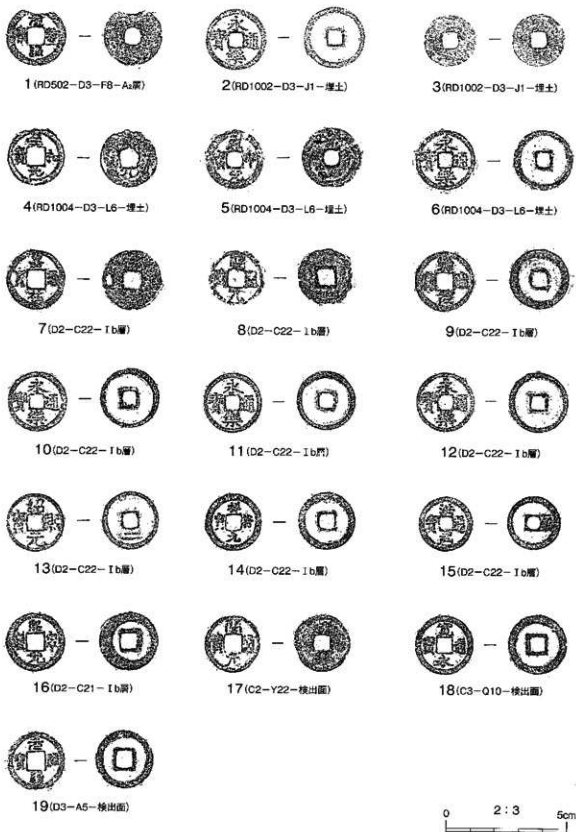
第69圖 RE1007雙穴建物跡



第70图 RD1001・1002・1003・1004土坑



第71图 RE1005整穴跡・RD1001土坑出土遺物



第72圖 RD502・1002・1004土坑・遺構外出土遺物

5. まとめ

検出遺構

薬師社脇遺跡第6次発掘調査の結果、縄文時代早期の竪穴住居跡20棟・縄文時代土坑69基・遺物包含層、平安時代の竪穴住居跡5棟・土坑3基・溝跡1条、中世の掘立柱建物跡2棟、竪穴建物跡7棟・土坑4基が検出された。平成13年に行われた第5次調査（付図1）では、縄文時代早期の竪穴住居跡8棟、古墳時代の土坑墓4基、平安時代の竪穴住居跡17棟、中世の竪穴建物跡4棟が検出されていることから、薬師社脇遺跡は時代を異にした重複遺跡であることがわかる。また、遺跡の北に接する薬師山の崩壊土により生活面が覆われ、各時代の遺構・遺物が比較的良好な状態で発見された。

第6次調査で特筆されるのは縄文時代早期中葉の集落が発見されたことである。今回の調査で得られた成果は、東日本における縄文時代早期中葉の集落のありかたや土器編年を考える上で重要であることから、本章では縄文時代早期を中心に稿をまとめることとした。

縄文時代早期の竪穴住居跡

縄文時代早期の竪穴住居跡は、R A001～020の20棟であるが、R A002については縄文時代前期の可能性がある。早期中葉の内、Ⅱ群土器を伴うのはR A006・007・009・010・011・013・014・015・017・020の10棟、Ⅲ群土器を伴うのはR A001の1棟で、その他の住居跡に関しては出土遺物が少ないことから比較的時期が明確な住居跡を対象に稿を進める。

Ⅱ群土器を伴う住居跡のプランは隅丸方形・方形、隅丸長方形・長方形を呈するなど方形を基調とする。大きさは平均して約34m×32mと4mを超えるものは確認されなかった。しかし、R A009のように297m×250m程度の小規模な住居跡がある。深さは一定ではなく0.19～0.56mと住居跡により異なる。炉は確認されなかったが、床面や壁下に小柱穴があるものと柱穴のない住居跡が確認されている。

近い時期の集落例として、青森県八戸市田向遺跡が比較対象となるであろう。田向遺跡では薬師社脇Ⅱ・Ⅲ群土器とほぼ併行する土器群を伴う竪穴住居跡が20棟検出されている（2004.3 八戸市教委）。田向遺跡においても住居跡の形状は方形を基調とするなど薬師社脇遺跡と共通するが、規模においては田向遺跡が上回る。田向遺跡での最大の住居跡は10m×7mの規模で最小が3m×3.3mをはかり、多くは5m×4m前後の規模の住居跡であることが報告されている。また、時期はやや新しくなるが同市館半遺跡では東西9.9m×南北15m以上の竪穴住居跡が発見されている（1999.3 八戸市教委）。このように形状は近似しているながらも規模の面で違いがあり、それが地域性なのか単なる検出量の違いによるものか、今後の調査例の蓄積を待つて検討することが必要である。

縄文時代早期の土器について

Ⅰ群

Ⅰ群土器は、早期前葉の日計式に伴う縄文土器に類似する。燃の異なる原体（L R・R L）を用いて羽状とするもので、口縁部には横位平行沈線を施す。多くの場合は押型土器に共存して出土するものだが、今回の薬師社脇遺跡を含めて市内に所在する安倍館遺跡・永福寺山遺跡において山形状・羽状に縄文を施した土器が単独で出土する例が微増している。このような縄文施文は、関東地方の熊糸文化終末期の花輪台式土器の文様に近似することから何らか

の関連性を考える必要がある。仮に日計式とⅡ群土器が併行関係にある場合、日計式は関東地方の熱帯文化終末期に併行することが考えられるであろう。しかし、押型文が欠如した縄文単独の土器群が日計式押型文に先行するとした場合、口計式は花輪台式より後出の三戸Ⅰ式などに併行することも考えられよう。

Ⅱ群

Ⅱ群土器は、東北北部の「白浜・小船渡平式」、関東の「田戸下層式」の特徴を併せ持つ土器である。R A009型穴住居跡より一括できる多量の土器が出土しているので、R A009型穴住居跡出土土器をモデルにⅡ群土器について説明する。

口唇部 Ⅱ群土器の口唇部の多くは外削状を呈し、貝殻腹縁や工具による刻目が施される。その他にも平頭状・角頭状・丸頭状・内削状を呈する口唇部も存在する。

器形 器形は、①体部が直線的に長く口縁が外反するもの（第74図1・5）、②体部に膨らみを持ち緩やかなカーブを描く砲弾状のもの（第74図2・3）、③口縁部より直線的に尖底部に至るもの（第74図4）、以上大きく3タイプの器形がある。

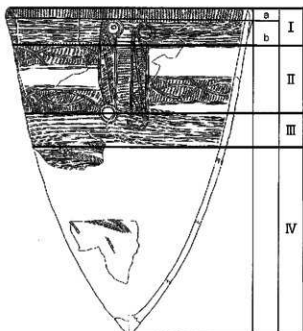
文様帯・文様 Ⅱ群土器は横位平行沈線または横位格子目文による明確な区画帯を持ち、区画帯の中間または下位に主要となる文様帯を設ける土器群である。文様帯はⅠ帯（口唇～口縁部：区画帯）、Ⅱ帯（口縁部～体部上半：主要文様帯）、Ⅲ帯（体部中間～下半：区画帯）、Ⅳ帯（体部下半～底部：無文または地文）に大きく分かれ、各文様帯はさらに分かれることがある。

Ⅰ帯 Ⅰ帯には外削状の口唇に施文された文様（Ⅰa帯）と口唇下の文様（Ⅰb帯）があり、主要文様帯との区画帯になる。

Ⅱ帯 Ⅱ帯には土器全体のイメージを示す文様が描かれる。Ⅱ帯のキャンバスは他の文様帯より広く確保される。

Ⅲ帯 Ⅲ帯はⅡ帯とⅣ帯との区画帯となり、横位平行沈線・横位格子目文等が施される。

Ⅳ帯 Ⅳ帯は無文・条痕など、器面調整や地文の状態であることが多い。

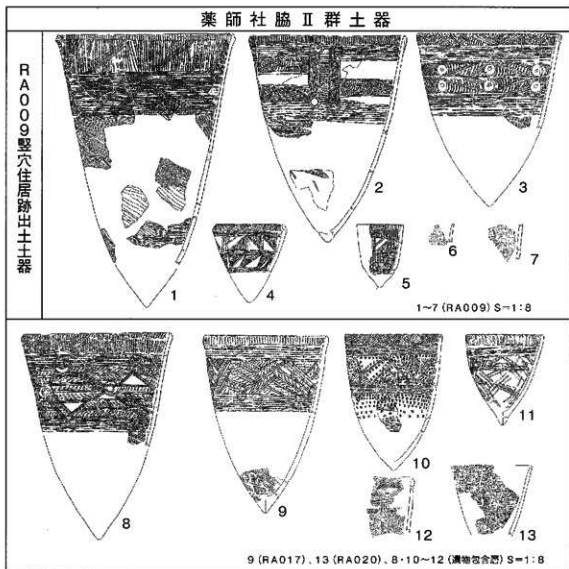


第73図 文様帯区分模式図

※ 薬師社跡Ⅱ群土器の多くは左図のようにⅠ～Ⅳの文様帯に区画されるが、第74図1のように主要文様帯を区画するⅢ帯を持たない土器もある。

※ 第74図5のようにⅣ帯まで横位多段の文様帯を繰り返し施文する例もある。

※ 第74図6・7・13はⅠ帯に爪形状刺突を横位に施す土器である。これまでは「白浜・小船渡平式」としていた土器であるが、R A009の出土例から薬師社跡Ⅱ群土器を構成する土器とした。



第74図 薬師社脇Ⅱ群土器

Ⅲ群

Ⅲ群土器は、東北北部の「寺の沢式」に類似する土器群である。口唇部が外側状となり、口唇下に爪形状刺突を施し、器面に貝殻腹縁文を密に施すなど寺の沢式の特徴と一致する。薬師社脇遺跡においては、RA001竪穴住居跡より集中して出土している以外は出土量が少ないことからRA001竪穴住居跡出土土器を中心に説明したい。

口唇部 Ⅲ群土器の口唇部の多くは外側状を呈し、貝殻腹縁や工具による刻目が施される。その他にも丸頭状を呈する口唇部も存在する。

器形 器形は、①体部が直線的に長く口縁が外反するもの（第75図1・3・5・6）、②体部に膨らみを持ち緩やかなカーブを描く砲弾状のもの（第75図2）、③口縁部が大きく外反し、体部に膨らみを持つもの（第75図4）、以上大きく3タイプの器形がある。

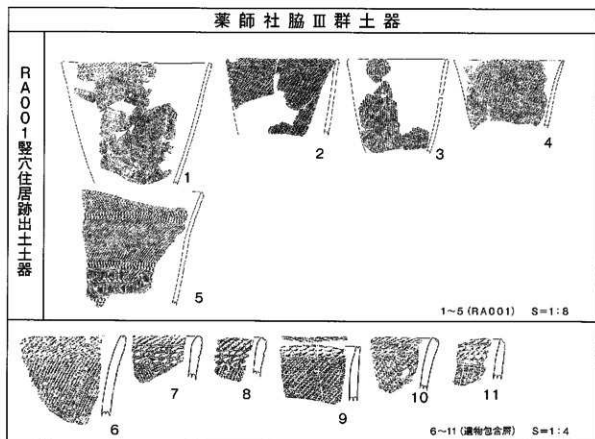
文様帯・文様 Ⅲ群土器は基本的に口唇下に横位の爪形状刺突を施し、体部に貝殻腹縁文を施す土器群である。文様帯はⅠ帯（口唇部～口縁部:区画帯）、Ⅱ帯（口縁部～体部下半）に大きく

分かれ、各文様帯はさらに分かれることがある。しかし、第75図5のように例外的な土器が出土していることから明言は避けたい。

I帯 I帯には外削状の口唇に施文された文様（I a帯）と口唇下の文様（I b帯）があり、下位の文様帯との区画帯になる。

II帯 II帯には貝殻腹縁文が施されるが、大抵は底部付近まで同様の文様が連続する。しかし、数は少ないが施文方向を変えて文様帯を構成させるものもある

Ⅲ群土器は、早期中葉の所謂「寺の沢式土器」であるが、その編年位置については単純な文様で構成される土器であるため明確な遺筋のない土器であった。しかし、第75図5を見ると、口唇は外削状を呈し、口唇下に刺突、下位に貝殻腹縁文を施すなど寺の沢式の特徴を有しながら、体部下半にクランク状の文様を施す。クランク状の幾何学文を構成する沈線を含み、羽状の貝殻腹縁文が施される土器が出土している。この体部下半に施された文様は東北地方南部を中心に広がる「明神裏Ⅲ式土器」の文様に近似する文様である。寺の沢式と明神裏Ⅲ式の特徴を併せ持つこの土器は寺の沢式土器の編年位置を再確認する上で重要な意味を持つ。盛岡市においては、薬師社脇遺跡より直線で北西約1.8kmの位置に所在する新茶屋遺跡で多数の寺の沢式土器と共に明神裏Ⅲ式土器が出土している（2000.3 盛岡市教委）。新茶屋遺跡例と薬師社脇遺跡より出土した折灰土器の存在から、寺の沢式土器は、薬師社脇Ⅱ群土器に後続し、明神裏Ⅲ式に併行する可能性があると言えよう。



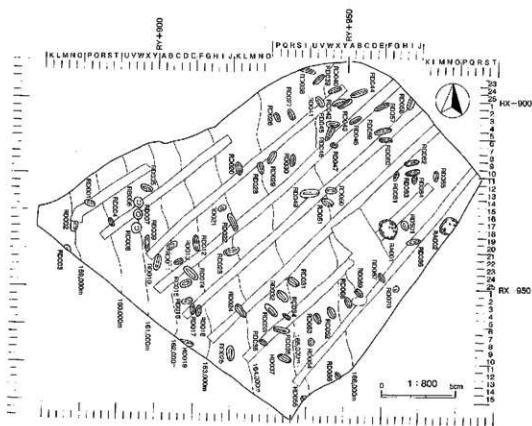
第75図 薬師社脇Ⅲ群土器

(附章) 西黒石野遺跡第11次発掘調査の概要

遺跡の概要 西黒石野遺跡第11次発掘調査は、平成15年に宮城開発株式会社と盛岡市教育委員会によって盛岡市黒石野二丁目14番1、14番5、14番6、14番15、14番18、14番19地内で実施された宅地造成に伴う事前の緊急発掘調査である。調査期間は平成15年8月18日から12月4日まで行われ、調査面積は6,630㎡である。検出された遺構は、縄文時代早期の竪穴住居跡2棟、縄文時代の溝状土坑69基、平安時代の土坑1基、縄文時代早期の遺物包含層である。

地形・地質 遺跡は北上川東岸、四十四丘麓の裾に発達する河岸段丘西辺に位置し(第1図)、段丘は四十四丘麓より流れる沢の開析により、いくつもの舌状地形に分かれており、全体的に起伏の多い地形となっている。西黒石野遺跡を含む周辺一帯は、浪民火山灰層、分火山灰層など洪積～沖積世の火山灰で覆われる。

出土遺物 出土遺物の大部分は縄文時代早期中葉の土器・石器で、その他には縄文時代中期の大木7a式の深鉢が1個体分出土している。石器類は図示出来なかったが、石鏟や燧石など礫石器が主体である。



第76図 西黒石野遺跡第11次発掘調査全体図

出土土器 (第77図1～第88図230) 西黒石野遺跡第11次調査で出土した土器は大きくI～III群に大別される。I群-早期初頭(無文)、II群a類-早期中葉(沈線文・刺突文・貝殻文・縄文・摺糸文)・II群b類-(沈線・刺突文・貝殻文・条痕)、III群-中期前葉の3群であるが、本稿ではI群、II群について資料提示する。

I群 (第77図1～17) 1～17は無文土器で、指頭圧痕を消すように器面にナデ調整を施すものである。そのため、器面には指頭圧痕の痕跡が凹凸となって残る。胎土には石英・砂粒を含み、窯母は含まない。1～7・11は口縁部で、2・3の口唇部は外削状となる。

II群 (第78図18～第88図230)

II群a類土器 (第78図18～第85図167)

縄文・摺糸文を地文に横位の爪形状刺突列・平行沈線、帯状格子目文等を施す土器群で、若干の貝殻文土器を含む。所謂「蛇王洞II式」に類似する土器群である。

器形 口唇部形状は内削ぎ・平頭・丸頭があり、刻目を口唇部に施したことにより形状が外削ぎになるものもある。器形は第78図18・19のように直線的に外傾する深鉢が多く、第79図20のように乳頭状を呈した尖底部を持つものもある。第86図171のような極端な円錐形を呈するものは少ない。

胎土 胎土には細かい砂粒(石英・角閃石・長石・磁鉄鉱)が含まれ、特に石英粒を多量に含むものが多い。また、微量であるが繊維を含む土器片も散見される。

文様帯 文様帯が口縁部に集約され(口縁部文様帯)、体部上半から底部まで縄文・摺糸文のみの施文となる土器が多い。

文様 沈線文・刺突文・貝殻文・縄文・摺糸文による施文を特徴とし、横位平行沈線によって文様帯を区画する。区画内には断面形状が角状の沈線による格子目文(第78図19)・y字または梯子状の文様を基調とした幾何学文(第79図24～27)を施す土器などがある。

沈線文の施文について特徴的なのは、主要となる文様間にさらに沈線文を充填させることである。第79図21～24は帯状格子目文を幾何学状に施したのち、さらに沈線を空間に充填させている。同様の文様は第80図37・38・52・54・55で見ることができる。

貝殻腹線文を施す土器は少ないが第85図168・169のように縄文と貝殻腹線文を同一器面に施す例があることから併存していたことは確実である。しかし、全体量から見ると貝殻腹線文が施されている例は少なく、今回図示したものが全てである。

第82図85～第85図167は縄文・摺糸文を全面に施す土器である。西黒石野遺跡出土の土器の大半は、このような地文が縄文・摺糸文の土器であった。

統計的なものではないが、II群a類の刺突文は並列させるものと(第79図20、第80図28～33、第81図77～84、第83図97～118)、小単位で刺突文を施すもの(第82図85～93)がある。II群b類とした土器群では刺突文を小単位で施すものが欠如するなど若干の違いがあるようである。

II群b類土器 (第86図171～第88図230)

条痕を地文に、口縁部に横位の刺突列を施す「白浜式」に類似する土器である。

器形 口唇部形状は内削ぎ・平頭・丸頭があり、刻目を口唇部に施す。器形は直線的に外傾する深鉢で全体形は円錐形を呈するものが多い。

胎土 胎土には石英粒、黒色の鉱物(磁鉄鉱)を含むものが目につく。僅かながら微量の織

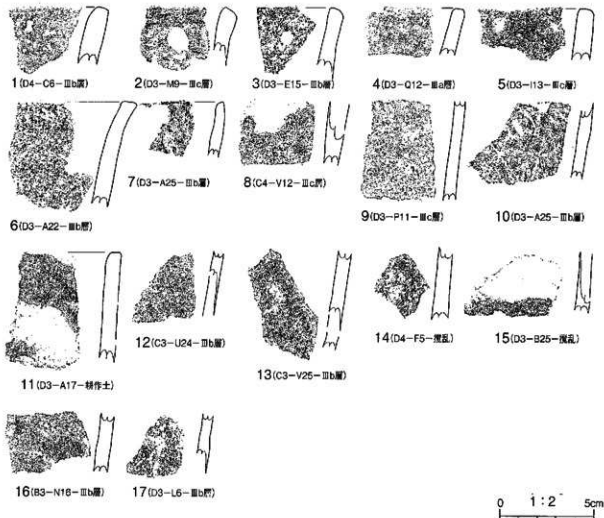
維、植物の碎片を含むものがある。炭母は含まない。土器は堅測で、内外面がミガキにより光沢を帯びるものもある。

文様 文様は口縁部に集約され、条痕を地文に爪形状刺突を横位に施文させるのが特徴的な文様となる（第86図171～第87図261）。

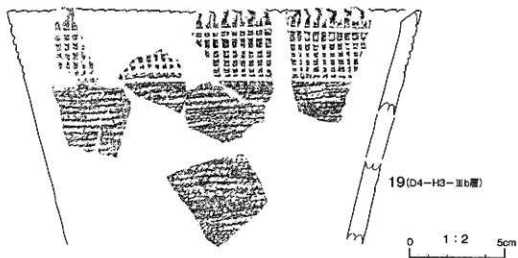
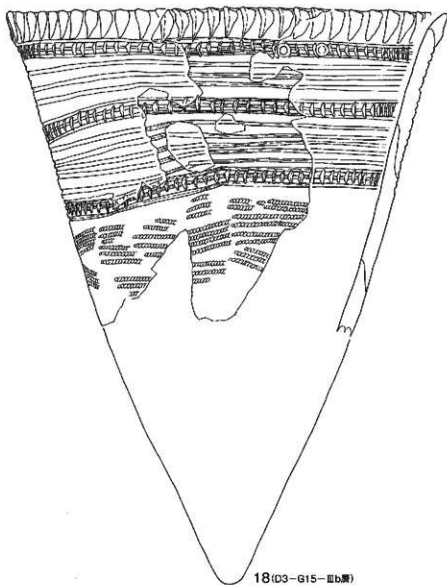
口唇下に縦位の短沈線・爪形状刺突を施し（第86図172～176・第87図199）、その下位に爪形状刺突を横位に施文させるのが一般的なようである。

第86図171・175、第87図183・200のように刺突列に沿って横位平行沈線を施す土器もあるが、a類の沈線に比べ細く、断面形状は丸い。そのような断面形状を持つ沈線文土器は第80図57～61、第81図67～71でも認められるが、第82図85のa類土器にも同様の沈線文が施されることから単に沈線の太さや形状では分類できないようである。

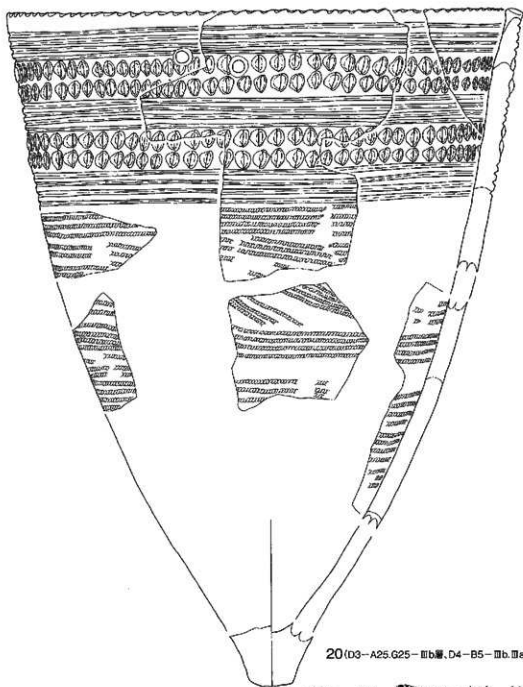
刺突文は爪形状を呈するもの（第86図171～第87図204）と、円形を呈するもの（第87図205～208）がある。



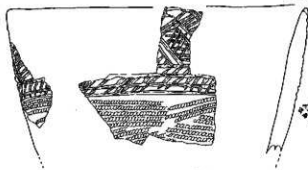
第77図 遺物包含層出土土器（1）



第78圖 遺物包含層出土土器(2)



20 (D3-A25.G25-IIIb層, D4-B5-IIIb.IIIa層)



24 (D3-D10-IIIc層)



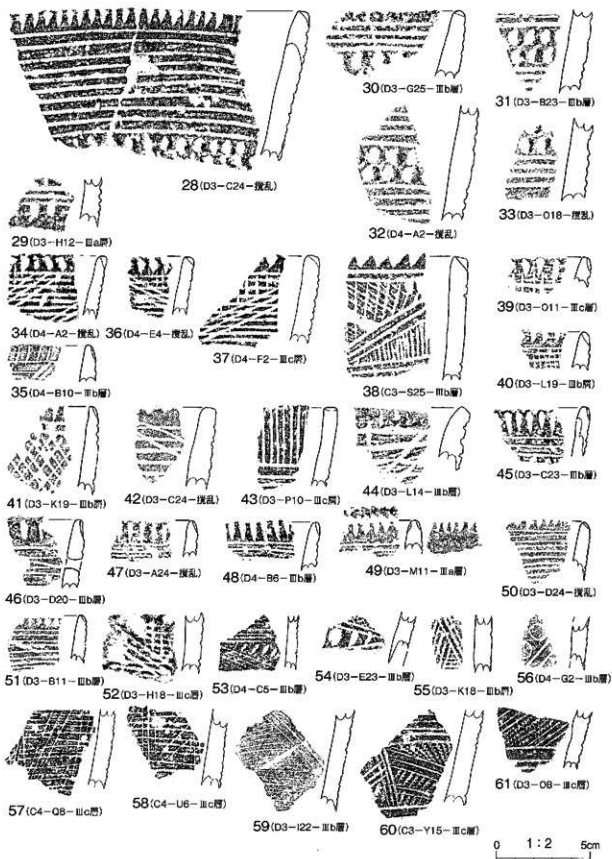
21 (D4-F5-IIIb層) 22 (D3-M12-IIa層) 23 (C4-X6-IIIb層)



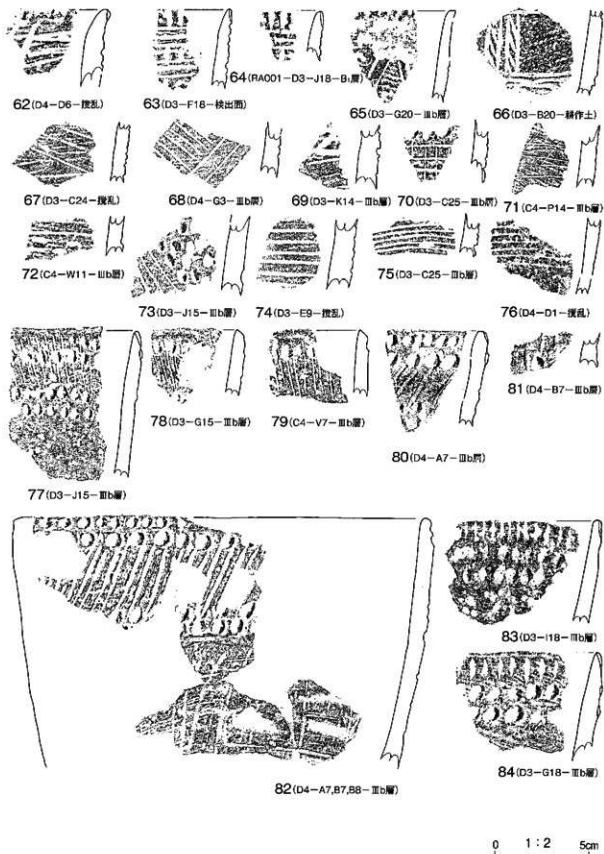
25 (D4-C6-IIIa層) 26 (D4-E1-耕作土) 27 (D4-C1-IIIb層)

0 1:2 5cm

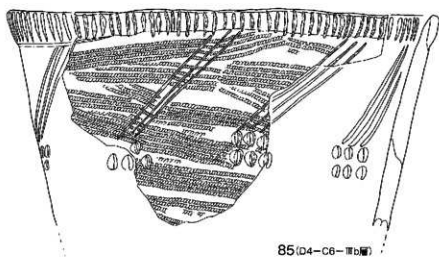
第79圖 遺物包含層出土土器 (3)



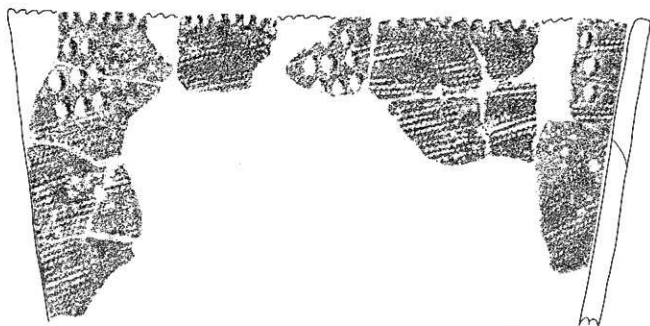
第80圖 遺物包含層出土土器 (4)



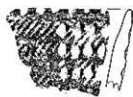
第81圖 遺物包含層出土土器 (5)



85(D4-C6-Ⅲb層)



86(D3-E16-Ⅲb層)



87(D3-M13-Ⅲb層)



88(D3-L14-Ⅲb層)



89(D4-F5-黄土)



90(C3-V21-Ⅲb層)



91(D3-K15-Ⅲa層)



92(D3-C23-Ⅲb層)



93(D3-G20-Ⅲb層)



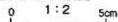
94(D3-C23-Ⅲb層)



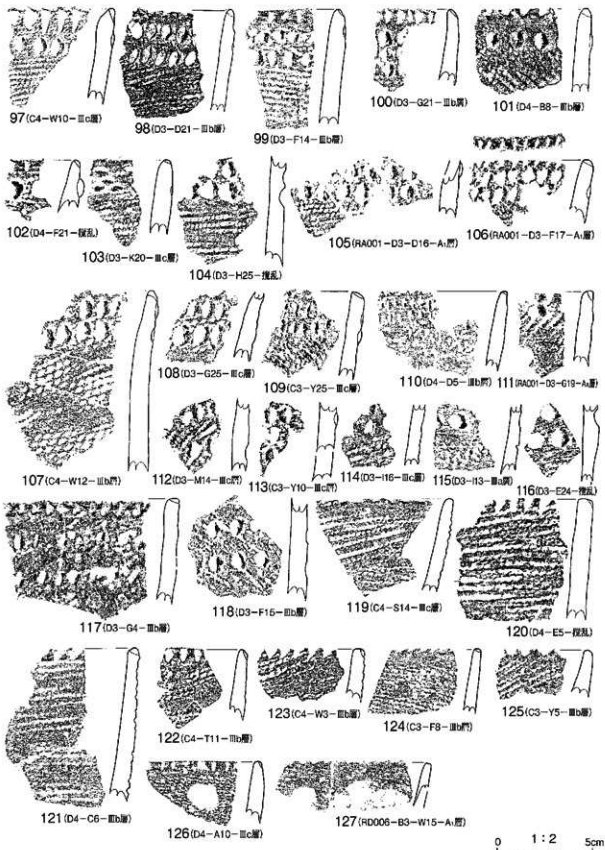
95(D3-I12-Ⅲc層)



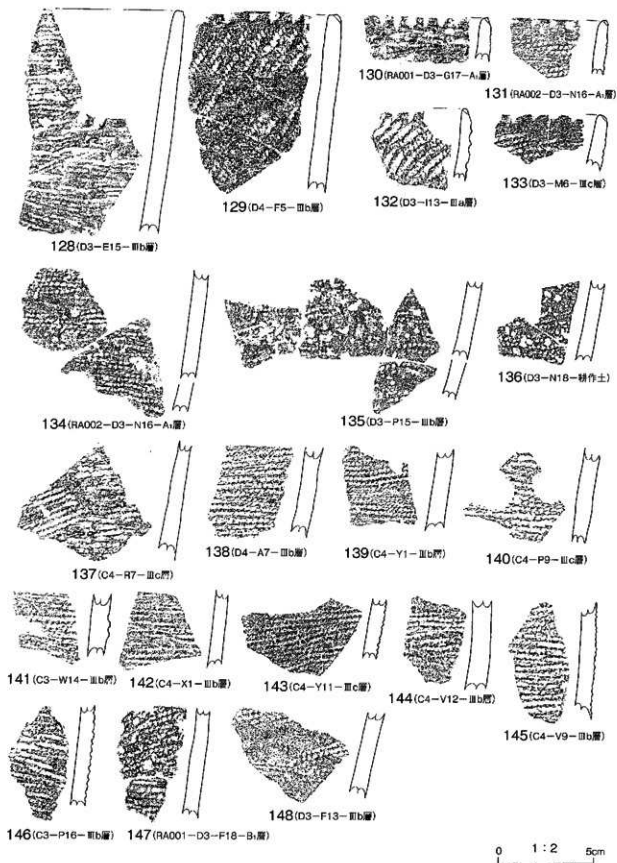
96(D3-C15-Ⅲc層)



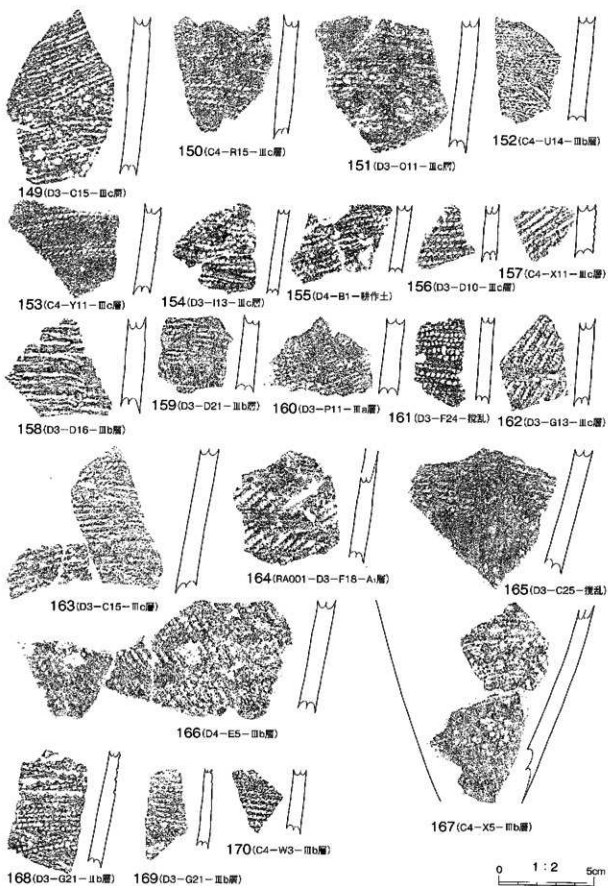
第82圖 遺物包含層出土土器(6)



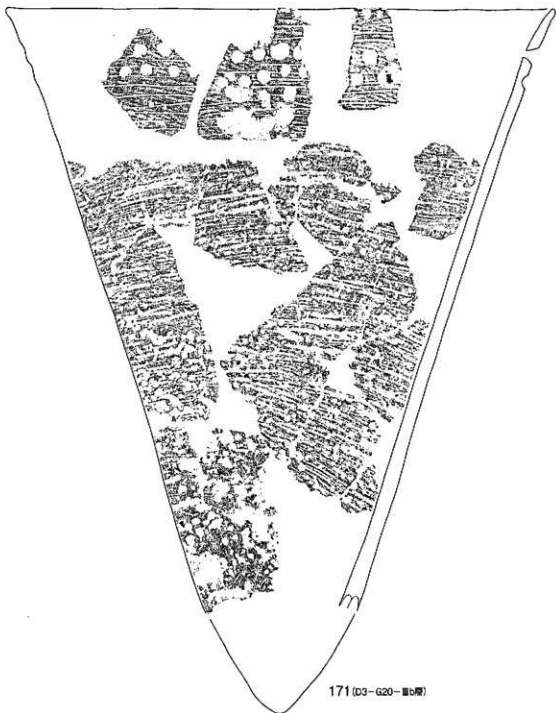
第83図 遺物包含層出土土器 (7)



第84図 遺物包含層出土土器 (8)



第85圖 遺物包含層出土土器(9)



171 (D3-G20-IIIb層)



172 (D3-F15-IIIb層)



173 (C4-Y5-IIIc層)



174 (D3-L20-IIIc層)



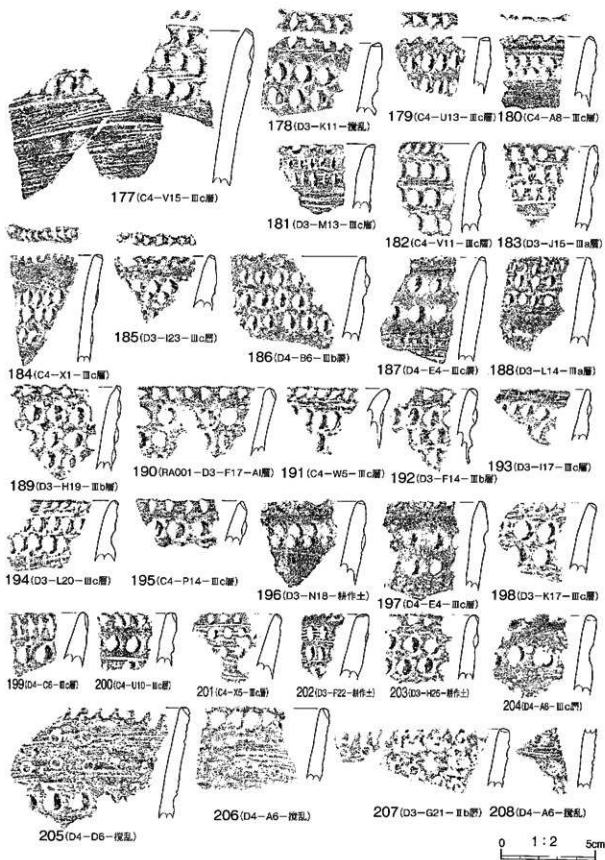
175 (D3-B25-IIIa層)



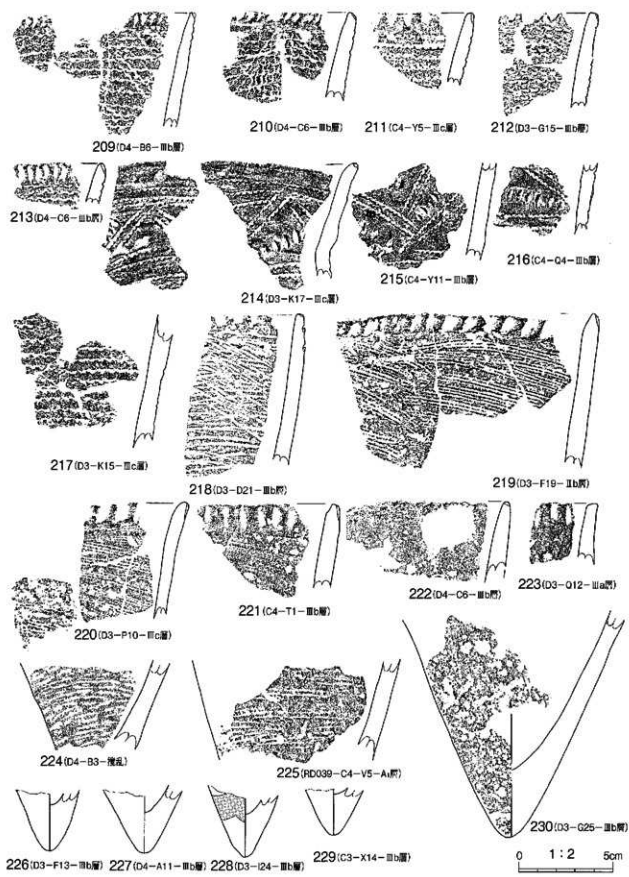
176 (D3-G15-IIIb層)

0 1 : 2 5m

第86圖 遺物包含層出土土器 (10)



第87図 遺物包含層出土土器 (11)



第88圖 遺物包含層出土土器 (12)

まとめ

西黒石野遺跡Ⅰ群土器は、器面の指頭圧痕をミガキ・ナア調整で除去し、口唇部を外削状とするなど規ularityが見られる。Ⅱ群土器にも無文土器はあるが、口唇部形状が異なることなどから別型式であろう。出土量は少なかったものの、滝沢村室小路遺跡（1999.滝沢村教委）、大釜館遺跡（2003.滝沢村教委）、法誓寺遺跡（2006.滝沢村教委）、盛岡市前九年遺跡（1998.盛岡市教委）、館坂遺跡（1988.神原）より近似する無文土器が出土している。

Ⅱ群土器はa・b類からなり、沈線文、縄文・撚糸文、貝殻文を施文する土器群である。沈線文による主要文様は量的な問題はあるが、大新町b式（1997.岡本、2006.神原）や大館町遺跡例に近似する。そして、西黒石野Ⅱ群土器は縄文・撚糸文を地文として多用するなど回転手法を色濃く残すことから、薬師社臨Ⅱ群土器など貝殻文を多用する土器群よりも古い段階の土器群と考えられる。

本報告に掲載した薬師社臨・西黒石野遺跡出土の土器を、これまでに盛岡より出土した早期前葉～中葉土器に関連させると下記のような変遷過程が考えられる。

①日新式（押型文）→②人新町a式（押型文、沈線文）→③大新町b式（沈線文、刺突文）→④大館町遺跡例（沈線文、刺突文、縄文・撚糸文）→⑤西黒石野Ⅱ群土器（沈線文、刺突文、縄文・撚糸文、貝殻文）→⑥薬師社臨Ⅱ群土器（沈線文、刺突文、貝殻文）→⑦薬師社臨Ⅲ群土器（貝殻文、刺突文、沈線文）→⑧物見台式（貝殻文、刺突文、押型文、沈線文）の流れがあり、特徴的なのは一員したy字状などの幾何学文が施文工具を変えながらも施文されることである。

今後の課題として、盛岡の土器変遷と関東・北東北・北海道の土器変遷がどのような関係を持つものなのか対応関係を調べる必要があるであろう。

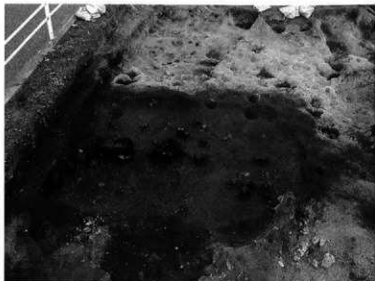
写真図版



第1図版 薬師社隘遺跡遠景（南より）



第2図版 薬師社隘遺跡第6次調査区全景（垂直）



第3図版
R A 001 竪穴住居跡全景（南より）

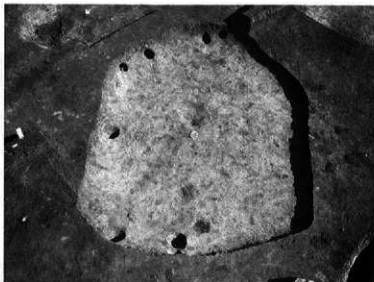


第4図版
R A 001 竪穴住居跡埋土堆積状況



第5図版
R A 001 竪穴住居跡遺物出土状況

第6図版
R A 006竪穴住居跡全景（北より）



第7図版
R A 007竪穴住居跡全景（南西より）



第8図版
R A 007竪穴住居跡埋土堆積状況





第9図版
R A 009竪穴住居跡全景（北より）

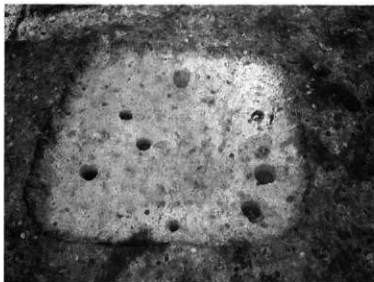


第10図版
R A 009竪穴住居跡埋土堆積状況

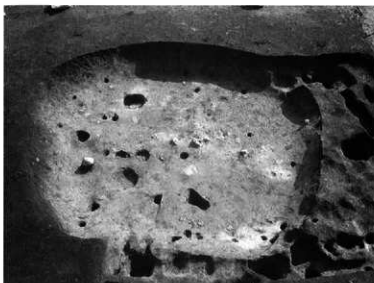


第11図版
R A 009竪穴住居跡遺物出土状況

第12図版
R A 010竪穴住居跡全景（南より）



第13図版
R A 013竪穴住居跡全景（北より）

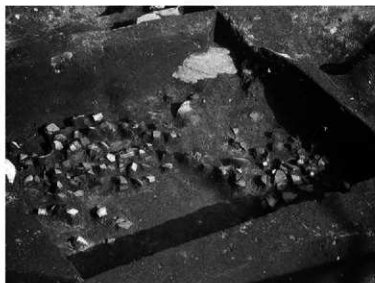


第14図版
R A 013竪穴住居跡埋土堆積状況

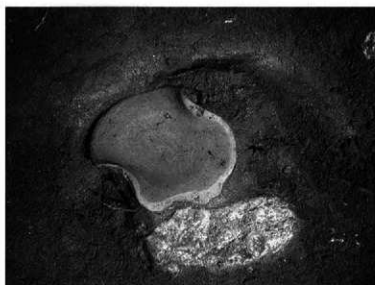




第15図版
R A 501竪穴住居跡全景（北から）



第16図版
R A 501竪穴住居跡遺物出土状況（1）



第17図版
R A 501竪穴住居跡遺物出土状況（2）

第18図版
R E1007竪穴建物跡全景（北より）



第19図版
R E1007竪穴建物跡床面炭化材検出状況



第20図版
R E1007竪穴建物跡埋土堆積状況



報告書抄録

ふりがな	やくししゃわまいせき							
書名	薬師社脇遺跡							
副書名	宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	神原 雄一郎							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字先屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行年月日	2008年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺構番号					
やくししゃわまいせき 薬師社脇遺跡 第6次調査	いわてけんせいりょうし 岩手県盛岡市 あきしんじまびつり 浅岸字ニツ森 4番3他	0321		39° 42' 46"	141° 11' 12"	平成19年 0409～ 0831	2,756㎡	宅地造成
にしんがし の せき 西黒石野遺跡 第11次調査	いわてけんせいりょうし 岩手県盛岡市 くろいしの 黒石野二丁目 14番1他	0321		39° 44' 20"	141° 08' 50"	平成15年 0818～ 1204	6,630㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
薬師社脇遺跡	6次	縄文時代早期～ 中世	縄文時代早期の 竪穴住居跡20棟 平安時代の竪穴 住居跡5棟 他	縄文時代土器 (早期の貝殻文)	竪穴住居内より 多量の縄文 時代早期中葉 の土器が出土 した。			
西黒石野遺跡	第11次	縄文時代早期	縄文時代の溝状 遺構 69基、竪穴住居 跡2棟	縄文時代土器 (早期の貝殻文)				

薬師社脇遺跡

— 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 —

2008年1月31日 発行

編 集	盛岡市遺跡の学び館	〒020-0866	盛岡市本宮字荒屋13番地1
	電話 019-635-6600	FAX 019-635-6605	
発 行	宮城開発株式会社	〒020-0021	盛岡市中央通1丁目13-55
	電話 019-652-8638	FAX 019-652-8668	
印 刷	株式会社 社説印刷	〒020-0122	盛岡市みたけ2丁目22-50
	電話 019-641-8000	FAX 019-641-8085	



薬師社脇遺跡全体図

0 1:1000 10m